

各種學校

訓第四〇四號 (明治二十二年九月六日)

郡役所

近來某學會又ハ何研究會ト稱シ殆ント私立學校ト同一ナル組織ヲ爲シ未タ其手順ヲ經スシテ學術ヲ教授講究スルモノ有之哉ニ相聞△右ハ教授者ノ學力修學者ノ年齢及ヒ教授用書等ニ依リテハ弊害不抄儀ニ付實際右様ノモノ有之場合ハ速ニ其手順ヲ經ヘキ様指示セラルヘシ

私立學校心得

明治二十三年一月三十一日
縣令第十二號

- 第一條 私立學校ハ縣官郡市町村吏員ノ視察ヲ拒ムコトヲ得ス
- 第二條 私立學校ニシテ其設置ノ主旨教則若クハ校則ニ違犯シタルトキハ直ニ改正セシメ又ハ其學校ヲ廢止セシムルコトアルヘシ
- 第三條 私立學校ハ不都合ノ行爲アリテ官公私立學校ニ入學スル丁テ禁止セラレタル者ノ入學ヲ許スヘカラサルハ勿論小學校ト均シキ普通教育ヲ施サ、ル學校ニ於テハ學齡兒童ヲ入學セシムルヲ得ス
- 但學齡兒童雖モ小學校業ノ余暇又ハ事故理由等アリテ市町村長ニ於テ支障ナキ旨ヲ證明シタル者ハ此限ニ非ス

第四條 私立學校生徒ノ學年末若クハ學期末試驗ハ其施行期日前豫メ郡役所又ハ市

役所へ届出ヘシ

但私立小學校ハ本文届出ト全時ニ郡市吏員ノ監臨ヲ請フヘシ

二十五年八月縣令
第四十二號ニ依リ
第五條消滅

(第五條)

第六條 私立小學校ノ教員及助手ハ其郡又ハ市ニ於テ施行スル學事會(教務研究會等)ニ參列スヘシ

第七條 私立學校ノ建築副築又ハ改修ハ豫メ郡役所又ハ市役所ノ調査ヲ受クヘシ

第八條 私立學校ハ所定ノ學事表簿ヲ調製シ期限アルモノハ其都度郡役所又ハ市役所へ差出スヘシ

明治三十三年九月二十五日
縣令第八十一號

第一條 保姆及小學校ニ類スル各種學校教員免許規則

但修業年限四ヶ年ノ高等小學校ヲ卒業セルモノハ教育、唱歌ノ二科ニ限リ之ヲ試験ス

修身 道德ノ要旨

教育 兒童保育ノ大要及幼稚園管理ノ方法

國語 普通文ノ講讀并ニ作文習字

算術 整數、分數、小數ノ加減乘除單比例

歴史 日本歴史ノ大要

地理 日本地理ノ大要

理科 博物、物理、化學ノ大要

圖畫 自在畫及簡易ナル幾何畫

唱歌 單音唱歌、復音唱歌及樂器使用法

第二條 盲啞學校其他小學校ニ類スル各種學校教員ノ免許ハ其學教ニ適切ナル學科

及教育科ノ試験ニ合格シタルモノトス

第三條 志願者ノ經歷ニ依リ特ニ適當ナリト認メタルトキハ試験ヲ用キス免許スル

コトアルヘシ

第四條 明治三十三年縣令第七十九號小學校教員檢定及免許ニ關スル細則第一條第

二條及第七條ハ本免許ニ適用ス

附錄第一號 免許願書式

保母(盲啞學校又ハ何々學校教員)免許願

私儀愛媛縣管内ニ於テ保母(盲啞學校其他何々學校教員)志願ニ付免許相成度別紙履
歷書並ニ身体檢査書相添此段相願候也

年 月 日

住所族籍

氏

名 印

知事 宛

附錄第二號 身体檢査書式

本書式ハ明治三十三年縣令第七十九號小學校教員檢定及免許細則附錄第二號ニ依ル

雜 款

乙第八號 (明治十五年一月十七日)

各郡町村 學務委員

十八年布告第二十
三號ニヨリ學務委
員消滅
二十三年勅令第二
百五十五號及廿五
縣令第六號ニヨリ
小學校々々舍使用ノ
廢消滅

從來學校等ヲ假用シテ諸般ノ集會ヲ舉行スル向モ有之候處其行爲ノ遊興弄戲ニ屬ス
ルモノ並ニ言論ノ猥褻詭激ニ涉ルモノハ教育上妨害少ナカラサル儀ニ付右ニ充用セ
シメサルハ勿論都テ學校監督上ニ不都合無之様取締可致其筋ヨリ達ノ次第モ有候條
此段相達候事

乙第二十六號 (明治十八年二月五日)

各郡「各學區」
學 校

公私立學校生徒ニシテ多衆集合シ躁暴危險若クハ奇異ノ行爲有之候テハ教育上不都
合ニ候條右様ノ儀無之様其學校ニ於テ嚴敷取締可致尤運動等ノ爲メ集合スル時ハ學
校教員等ニ於テ臨視スヘキ儀ト相心得ヘシ

乙第三十三號 (明治十八年二月十四日)

各郡「學區」
學 校

本年二月乙第二十六號ヲ以テ公私立學校生徒取締之儀相達候ニ付テハ今後若シ右様
ノ舉動有之ニ於テハ其情狀ニヨリ生徒ハ公私立學校へ入學ヲ禁シ學校長教員ハ教員
品行檢定規則及官吏懲戒例ニ據リ處分シ私立學校ハ停止候條此旨心得ノ爲相達候事
告第四十五號 (明治十九年三月六日)

各 郡 長
各 戶 長

管下ニ於テ私學會館等ヲ創設シ其開業式ノ際郡「戶長」ヨリ猥リニ公立學校生徒ヲ召

二十七年文部省令
第二號ニヨリ入學
禁止ノ條消滅十九
年文部省令第十一
號及第二十一號ニ
ヨリ教員品行檢定
規則消滅二十三年
勅令第二十五號及
廿五年縣令第五號
六號ニヨリ小學校
教員懲戒方及私立
小學校停止ノ廢消

議スルヲ得ス

達甲第五十一號 (明治十九年十二月十四日)

各郡町村

郡長ニ於テハ別紙準則ニ據リ教務研究會ヲ開設セシムルコトヲ得

教務研究會準則

第一條 教務研究會ハ小學教科用書ヲ講究シ又ハ授業法管理法ニ關スル事項ヲ研究スルカ爲メ開設スルモノトス

第二條 教務研究會ノ區域及其會場ハ郡長之ヲ定メ知事ニ開申スヘシ

第三條 教務研究會ノ會員ハ聯合學區内小學校又ハ小學簡易科ノ教職ニ從事スルモノトス

第四條 教務研究會ノ會頭ハ會員ノ互選ヲ以テ之ヲ定ムヘシ

第五條 教務研究會ノ開設ハ毎年四回乃至八回トシ其日數ハ每會一日乃至二日トス

第六條 教務研究會ノ期日時限及講究スヘキ事項ハ會頭之ヲ定メ豫メ會員ニ通知シ其期日ハ十日前郡長ニ開申スヘシ

第七條 郡吏及小學督業ハ教務研究會ニ臨場指示スルコトアルヘシ

第八條 教務研究會ノ會員病氣又ハ事故ニ依リ參會スル能ハサルトキハ其事由ヲ開會時限前會頭ニ届出ヘシ

第九條 教務研究會ニ於テ講究シタル事項及會員ノ出席欠席姓名等ハ會頭ヨリ其都度郡長ニ開申スヘシ

二十三年勅令第二
百十五號二十五
縣令第六號ニヨリ
小學簡易科消滅

二十年告示第二十
五號ヲ以テ小學督
業廢止

第十條 教務研究會ノ細則ハ郡長之ヲ定ム

達甲第二十三號 (明治廿一年九月廿一日)

郡役所「局長役場」
公立私立學校

禮節ハ風教ノ興廢ニ關スルモノニシテ教育上殊ニ緊要ノ儀ニ付學校生徒禮式要項自今左ノ通相心得一層行届候様取計フヘシ

但兵式上ノ禮式ハ此限ニアラス

學校生徒禮式要項

一 尊長ニ對スルトキハ直立シテ姿勢ヲ正クシ手ヲ前ニ垂レ眼ヲ敬禮スヘキ人ニ注キ以テ體ノ上部ヲ少ク前ニ傾ク (敬禮スヘキ人ニ後方ノ襟ヲ見セシメサルヲ度トス)ヘシ

帽ヲ冠スルトキハ右手ニテ帽ヲ脱シ其裏面ヲ外ニ見ハサ、ル様ニシテ左手ト共ニ前ニ垂ルヘシ其他前ニ全シ

但女子ハ帽ヲ脱スルヲ要セス

行進中ニ在リテハ其敬禮スヘキ人トノ距離凡ソ五步ノ前ニ於テ先步ヲ止メ側ニ避ケ前ノ如ク敬禮スヘシ

教室内ニ敬禮スヘキ人ノ入り來ルトキハ教師ノ指揮ニ從ヒ直ニ業ヲ止メ其席ニテ直立シ前ノ如ク敬禮スヘシ敬禮終レハ一旦直立ニ復シ後席ニ就クヘシ

一 同輩ニ對スルトキハ頭ヲ少シク前ニ傾クヘシ
帽ヲ冠スルトキハ帽ヲ脱スルニ止ムヘシ

但女子ハ帽ヲ冠シタルマ、頭ヲ少シク前ニ傾クヘシ
行進中ニ在リテハ行進シナカラ前ノ如ク敬禮スヘシ

訓令第二十三號 (明治二十二年四月十一日)

〔郡役所
戸長役場〕

凡ソ學校開校式等其校ノ典禮ニ關スルモノナレハ固ヨリ之ヲ行フハ可ナリト雖モ之
レカ爲メ徒ラニ虚飾ニ流レ奢侈ニ傾ク等ノ弊ヲ生スルニ至テハ教育ノ本旨ニ悖リ候
儀ニ付右ハ專ラ質素ヲ旨トシ務テ冗費ヲ省キ善美ノ風ヲ維持スヘキ様篤ク注意スヘ
シ

訓令第一號 (明治二十四年一月九日)

郡役所 町村役場
公立學校

客年十月下賜セラレタル 勅語ハ實ニ教育ノ本義ニシテ日本國臣民ノ必ス服膺遵守
スヘキ所ナリ殊ニ文部大臣ハ訓示ヲ發シ且 勅語并ニ訓示ノ謄本ヲ頒チ 聖意ノ貫
徹ヲ計ラル依テ學校職員ハ厚ク其意ヲ体シ左記ニ因リ 勅語ヲ捧讀シ勵精訓誨以テ
其本分ヲ盡スヘシ

一 勅語ハ天長節紀元節及新年ノ三大節祝賀式場ニ於テ捧讀スヘシ
但其他便宜ノ時期ニ於テ捧讀スルコトヲ得

一 勅語捧讀了ラハ學校長又ハ教員ハ舉國以來列聖ノ御洪德ヲ彰揚シ國體ノ尊崇ス
ヘキヲ講話シ我 皇室ニ對スル臣民ノ務メヲ懇諭シ且孝悌和信凡ソ人倫ノ大道ヲ
訓誨シ以テ 勅語ノ旨ヲ服膺セシムヘシ

一 勅語ハ捧讀ノ際裝置及職員生徒ノ整列方ハ客年十月訓令第九十二號ニ依ルヘシ

一 勅語ハ學校長捧讀シ職員生徒ヲシテ謹慎ニ拜聽セシムヘシ

但學校長不在又ハ之ヲ置カサル學校ニ於テハ主席教員之ヲ捧讀スヘシ

一 勅語捧讀ノ際ハ生徒ノ父母兄弟及親戚等便宜ノ場所ニ於テ拜聽セシムヘシ
訓令第八號 (明治二十四年二月十七日)

郡役所 市役所
町村役場 公立學校

教育ニ關スル 勅語並ニ文部大臣訓示謄本ハ鄭重ニ保存スヘキハ勿論ノ處若シ萬一
ニモ粗略ニ取扱候テハ不都合不撓候ニ付既ニ交附セシ學校ニシテ廢止候場合ハ直ニ
其所轄郡役所又ハ市役所へ返納スヘシ郡役所又ハ市役所ハ之ヲ保管シ其所轄内ニ於
テ新ニ設置セシ學校アルトキ更ニ交付スヘシ

但市町村立學校ヲ廢止シ直ニ之ニ代フル學校ヲ設立スルトキハ本文ノ手順ニ依ラ
ス新設學校ニ移スヘシ

御影並勅語謄本取扱規程 明治廿八年二月九日
訓令第五號

郡市町村
學校(縣立學校
ヲ除ク)

第一條 御影並勅語謄本ハ左項ニ依リテ裝置スヘシ

一 御影ハ額面トシ堅固ナル白木ノ櫃ニ納ムヘシ

但額面ニ硝子板ヲ用キサルモノハ更ニ白木ノ外箱ヲ設クヘシ

一 勅語謄本ハ白木ノ匣ニ納ムヘシ

第二條 御影並勅語謄本ノ奉置場ハ校内清淨ナル場所ヲ撰ヒテ一區劃ヲ爲シ必ス鎖
鑰ヲ設クヘシ

第三條 奉置場ノ鍵ハ二個ノ合鍵ヲ造リ其一ハ市町村長町村學校組合長他ハ學校長

又ハ首席教員管守スヘシ

第四條 御影並勅語謄本ハ市町村長町村學校組合長及學校長又ハ首席教員連帶シテ奉守ノ責ニ任スヘシ

第五條 奉置場ノ開閉ハ非常變災ノ場合ヲ除ク外ハ奉守者必ス立會スヘシ

但一市町村內數個ノ奉置場ヲ同時ニ開閉スヘキトキハ立會ヲ缺クコトヲ得

第六條 奉守者ハ時々奉置場ヲ點檢シ 御影並勅語謄本ノ汚損ナキ様注意スヘシ

第七條 御影又ハ勅語謄本ヲ拜戴セル學校ヲ廢止シタルトキハ直ニ奉還スヘシ

第八條 御影ハ校內儀式場ノ外ニ奉掲スルコトヲ許サス

第九條 御影ノ奉掲場ハ左項ニ依リテ裝置スヘシ

一 尊嚴ト敬意ヲ失ハサルヲ主トシ虛飾ニ涉ルカ如キ華美ノ裝置ヲナスヘカラス

一 御影ヲ奉安スルニハ高サ四尺五寸以上ノ白木ノ臺ヲ用ユヘシ

一 奉掲所ニ幕ヲ用キルトキハ其色ハ白紫ノ二種ニ限ルモノトス

一 御影ノ奉安奉納又ハ奉掲所ノ裝置ハ學校長又ハ首席教員親ラ之ヲ爲スヘシ

第十條 御影ハ變災又ハ其他ノ事故ニ依リ一時學校內ニ奉置場ヲ設ケ能ハサルカ又

ハ奉守上不都合ナリト認ムルトキハ監督官廳ノ指揮ニ依リ又ハ市町村長町村學校

組合長ニ於テ監督官廳ノ許可ヲ受ケ一ケ年以内特ニ市役所又町村役場內ニ奉置ス

ルコトヲ得

但一ケ年ヲ過グルモ猶適當ノ設備ヲ爲シ能ハサルトキハ督監官廳ニ奉還シ設備

ノ整フ時ニ於テ之カ還附ヲ請フヘシ

第十一條 奉守者ハ連帶ノ責ニ任スト雖モ第二條ノ場合ハ學校長又ハ首席教員第十條本文ノ場合ハ市町村長町村學校組合長主トシテ奉守スヘシ

第十二條 御影ノ拜戴又ハ御影並勅語謄本ノ奉還奉還ハ左項ニ依リ取扱フヘシ

一 御影ノ拜戴及奉還奉還ハ學校長又ハ首席教員主トシテ奉事シ市町村長町村學

校組合長ハ奉衛スルモノトス

但廢校ニ依リ奉還スルトキハ市町村長町村學校組合長主事スルモノトス

一 御影並勅語謄本ノ奉還ハ町村ハ郡役所ヲ經テ市ハ直ニ縣廳ニ還納スヘシ

第十三條 御影並勅語謄本ノ奉守ニ關シ細則ヲ設クルノ必要アルトキハ市町村長町

村學校組合長及學校長又ハ首席教員ニ於テ協議決定シ監督官廳ニ開申スヘシ

第十四條 從前所定ノ裝置方及奉置場ニシテ本規程ヨリ完全ナルモノハ監督官廳ノ

檢認ヲ經テ之ヲ襲續スルコトヲ得

但學校外ニ奉置場ヲ設ケタルモノニ就テハ第十條ニ依ルノ外本文ノ限ニアラス

第十五條 本規程ハ私立學校及幼稚園ニモ之ヲ準用スルモノトス

訓令第三十二號 (明治三十年四月二十日)

各 學 校
郡 市 町 村

學校ノ清潔ハ衛生上忽ニスヘカラサル所ナルヲ以テ本年一月文部省訓令第一號ニ準據シ其清潔ヲ保ツコトヲ務ムヘシ

但日常清潔方法及定期清潔方法ハ其全部ヲ實行スル能ハサル事情アルトキハ之ニ

準據シテ適宜ノ方法ヲ定ムルコトヲ得

學校醫設置ニ關スル取扱心得

明治三十一年三月五日

郡立學校

第一條 郡市長及縣立學校長ハ自己管理ノ學校又ハ其管轄内公立學校ニ就キ每校一名ノ學校醫候補者ヲ選擇シ履歷書ヲ添ヘ知事ニ具申スヘシ

但以後缺員ヲ生シタル場合ハ本文ニ準シ直ニ具申スヘシ

第二條 郡市長ハ前條ノ具申ヲ爲サントスルニ當リ每校一名ノ候補者ヲ得ルコト能ハサル事情アルトキハ一名ヲ以テ十校迄ノ候補者ニ選定スルコトヲ得

第三條 郡長ハ村立學校又ハ人口五千未滿ノ町立學校ニシテ特別ノ事情アルカ爲メ學校醫ヲ置クコト能ハスト認ムルトキハ該學校管理者ノ意見ヲ開キ其町村名學校名及事由ヲ記シ知事ニ具申スヘシ

但以後廢置ヲ要スルトキ亦本文ニ準シテ直ニ具申スヘシ

第四條 郡市町村立學校ノ學校醫ニ給スヘキ手當金ハ其學校規模ノ大小學生ノ多少及其他ノ情况ニ應シテ一校ヨリ每年少クモ十二圓以上ヲ支出セシムヘシ

第五條 郡市町村立學校學校醫手當金ノ給與ハ其學校管理者ヨリ辭令書ヲ發セシムヘシ

第六條 郡市長ハ毎年度ノ始ニ於テ每學校ヨリ支出スル學校醫ノ手當金額ヲ調査シ四月三十日迄ニ知事ニ報告スヘシ
但年度内ニ於テ金額ヲ變更シタルトキハ其時々報告スルコトヲ要ス

附 則

第七條 本規程第一條第三條本文ノ具申ハ明治三十一年四月十五日迄ニ其手續ヲ爲スヘシ

內三訓第二七二號 (明治三十一年八月一日)

各 郡

郡ニ屬スル公學資産表公立學校基本財産表公學資寄附表ヲ明治二十九年本縣訓令第五十四號學事表簿調查要項及其様式丙號第十五式乃至第十七式ニ準シ取調毎年七月三十一日迄ニ差出スヘシ

但明治三十年度分ハ本年八月十四日迄ニ差出スヘシ

縣立學校基本財産設置及管理規則

明治三十二年六月二十二日
縣令第四十一號

第一條 左ノ學校ノ爲メ基本財産ヲ設ク

一 師範學校

二 中學校

三 高等女學校

四 農業學校

前項ノ基本財産ハ各校共通ノモノトス

第二條 基本財産ハ明治三十一年度以後毎年度縣教育費經常歲出剩餘金及使途ヲ指定セサル縣教育費寄附金ヲ以テ之ニ充ツルモノトス

第三條 基本財産ヨリ生スル收入ハ該學校經常經費額ノ凡ソ三分ノ二以上ヲ支辨ス

明治三十二年內三訓第七號訓令中改正

三十三年縣令第二十八號ヲ以テ第一條第三項第四項追加

ルニ足ル金額ニ達スル迄ハ之ヲ基本財産ニ編入スルモノトス
 第四條 基本財産ハ其收入ヲ以テ該學校ノ經常經費ヲ支辨スルニ足ル金額ニ達シタル時ヲ以テ縣教育費經常歲出剩餘金ヨリ補充ヲ止ム
 第五條 基本財産ハ國債証書又ハ確實ナル有價証券ニ換ヘテ之ヲ管理シ其現金ハ銀行ニ預ケ置テモノトス

第六條 基本財産管理方法ハ此規則ニ正條ナキモノハ總テ縣有財産管理規則ニ據ル

附 則

三十三年縣令第二十八號ヲ以第八條追加

第七條 現在ノ中學校資金ハ此規則實施ノ時ヨリ基本財産ニ編入スルモノトス
 第八條 本則第一條ヘ新タニ學校ヲ追加シタルトキハ基本財産ハ在來ノ學校ト同シク全部ヲ共用スルモノトス

訓令第三十五號 (明治三十二年七月八日)

學部市町村校

學校ノ風紀ヲ正シ規律ヲ嚴ニスヘキハ教育ノ重要事タリ今ヤ改正條約實施ノ期日曠ノ間ニ切迫シ茲ニ新ニ詔勅ヲ下シタマフ蓋將來外國人ノ内地ニ來往居住スル者滋々多キヲ致スヘシ此時ニ際シ若シ學校生徒ヲシテ放漫自ラ制セス或ハ禮節ヲ藐視シ或ハ粗野ノ行爲ヲ敢テシ奇矯是レ喜ブ如キ陋習ヲ長セシムルコトアラハ獨リ教育上ノ失體タルノミナラス延イテ國家ノ威信ヲ失墜シ其體面ヲ汚瀆スルコトナキヲ保セス宜シク恭ミテ 教旨ヲ奉體シ此ニ際シ一層戒慎ヲ加ヘ篤ク本分ヲ彈シ毫モ生徒教養ノ方ヲ誤ルコトナク以テ風紀ノ振肅規律ノ嚴正ナランコトヲ期スヘシ

學事實與規程

明治三十二年七月十日 縣令第四十五號

第一條 凡ソ學事上ニ關シ功績顯著ナル者アルトキハ之ヲ賞與ス

第二條 賞與ヲ分テ二等トス

第一等 金五圓又ハ本金額相當ノ物品

第二等 金參圓又ハ本金額相當ノ物品

第三條 賞與ヲ受ケタル者ハ最後ノ賞與ヨリ更ニ二ケ年ヲ經ルニアラサレハ賞與セサルヲ常例トス

第四條 郡長市長ニ於テ第一條ニ該當スルト認ムル者アルトキハ其功績ヲ詳具シ履歷書ヲ添ヘ毎年六月知事ニ上申スヘシ

但縣立學校職員ニ係ルモノハ學校長ヨリ上申スヘシ又特ニ本文ノ時期ニ依リ難キ事情アルトキハ臨時上申スルコトヲ得

訓令第三十一號 (明治三十三年四月十二日)

學部市町村校

學校生徒ノ喫煙ニ關シテハ小學校ニ在リテハ明治二十八年愛媛縣訓令第二號ヲ以テ生徒ノ喫煙スルコト及煙器ヲ夾帶スルコトヲ禁スヘキ旨訓令シ中學校等ニ在リテモ實際喫煙ヲ禁止セルモノアリシ蓋シ學校生徒ノ喫煙ハ衛生上有害ナルノミナラス風紀ニ關スルコト少ナカラス殊ニ此際未成年者喫煙禁止法ノ發布アリタルニ就キテハ小學校中學校師範學校及等位ノ之ニ準スヘキ學校ニ在リテハ取締上其ノ生徒ノ成年

以下ナルト以上ナルト學校ノ内外トナ問ハス喫煙シ及煙草煙器ヲ夾帶スルコトヲ禁止スヘシ其ノ他ノ學校ニ在リテモ特ニ注意ヲ加ヘ法律違反ノ者ナカラシメムコトヲ期スヘシ

縣令第六十五號 (明治三十三年七月七日)

明治三十二年勅令第四百三十五號教育基金令第九條ニ依リ教育資金使用規則左之通之ヲ定ム

教育資金使用規則

第一條 教育基金令第五條ニ依リ設備費ヲ貸付スルノ順次ハ校地校舍ノ設備ノ最モ不完全ニシテ新築改築増設等ヲ急要ト認ムルモノヲ先キニシ之ニ次クモノ後ニスルモノトス

但災害ニ罹リ復舊ヲ要スルモノハ此限ニアラス

第二條 左ノ諸號ニ該當スルトキハ設備費ヲ貸付セサルモノトス

一 小學教育ニ屬スル經常費支出額其ノ市町村ノ經常費支出總額ノ五分ノ二以內ナルトキ

一 市町村ノ資力學校設備ノ費用ヲ支出スルニ堪フルト認ムルトキ

第三條 尋常高等小學校ノ設備費ヲ貸付スルトキハ其總費額ノ五分ノ三ヲ以テ尋常小學校ノ設備費トシ之ニ對シ貸付金額ヲ定ムルモノトス

第四條 區ノ負擔ニ屬スル設備費ニ就キ其ノ市町村等ヨリ貸付ヲ申請シタルトキハ其區ヲ以テ市町村ト同視シ之ヲ處理スルモノトス

但市町村經常費中其區民負擔額ノ判明ナラサルモノハ其戶數ニ比例シテ之ヲ定ム町村組合、町村學校組合ニ就キテモ亦同シ

第五條 貸付金額ハ五拾圓ヲ以テ單位トナスモノトス

第六條 貸付金ノ利子ハ一ケ年度ヲ九月三月ノ二期ニ區分シテ之ヲ徵收スルモノトス

但利子ハ貸付ノ翌月ヨリ返納ノ月迄之ヲ付スルモノトス

第七條 貸付金ノ償還期ハ毎年三月限トス

第八條 貸付金ヲ受ケタル後正當ノ理由ナクシテ其事業ニ着手セス或ハ中止シ若クハ變更シタルトキハ其期限ニ拘ハラズ貸付金ノ償還ヲ命スルコトアルモノトス

第九條 教育資金ノ貸付ヲ受ケントスルトキハ毎年一月限其金額償還期限貸付ヲ要スル事由並ニ左ノ調書ヲ具シ町村ニ於テハ所屬郡長ヲ經テ市ニ於テハ直ニ知事ニ申請スヘキモノトス

但償還期限ハ可成短期トナスヲ要シ且申請期限ハ非常變災等特別ノ場合ハ本文

ニ依ラサルコトヲ得

一 申請ニ關スル議決書寫

二 事業ニ關スル校舍校地等ノ平面圖

三 事業設計書

明治三十四年縣令
第二號ニテ第十條
ヲ追加シ附則ヲ削
除ス

- 四 事業當該年度歲入出豫算表
(歲出豫算表ハ各款費目ノ總額ノミヲ掲クヘシ)
- 五 最近年度經常費支出決算總額并ニ同小學教育費支出決算總額
- 六 元利金償還年次(表別記書式ニ依ル)
- 七 基本財産ノ有無并ニ其額
- 八 着手及ヒ落成期日
- 九 學齡兒童數並ニ就學兒童數
- 郡長ハ前項申請書ヲ受理セシトキハ事實ヲ調査シ意見アルトキハ之ヲ副申スヘシ
- 第十條 教育資金ハ教育基金令第八條ニ依リ市町村立小學校教員獎勵其ノ他普通教
育ニ關スル費用ニ充ツルコトアルヘシ
但其細則ハ必要ニ應シ便宜之ヲ定ム

元利金償還年次表

計	何年度	年度		期	別	利	金	計
		前	后					
		前	后	期	期			
		后	前	期	期			

縣令第八十號 (明治三十三年九月八日)
 明治十八年(六月)甲第九十二號布達學事ニ關スル履歷書式左ノ通更正ス
 但小學校教員就職ノ爲メ差出ス履歷書ハ業務ノ項ヲ別紙ニ認メ且ツ住所族籍氏名
 生年月日ヲ前記スヘシ
 (用紙小判形ニシテ十三行ニ認ムヘシ)

履歷書

住所族籍

氏

名

生年月日

學業

自	至	何學校ニ於テ何科修業	卒業證書 別紙ノ通
自 年 月 日	至 年 月 日	何所某ニ就キ何々修業	
年 月 日	年 ヶ 月	何々ニ於テ何免許狀ヲ受ク	免許狀 別紙ノ通
年 月 日	年 ヶ 月	何々ニ於テ何証明書ヲ受ク	証明書 別紙ノ通

業 務

自 年 月 日	年 ヶ 月	何々 <small>(辭令書ノ 文ヲ記ス)</small>	月俸 <small>數次増俸シタル者 ハ最後ノ分ヲ記ス</small>	何	府 郡 等 縣
至 年 月 日	年 ヶ 月	何業ニ從事			

賞	罰				
---	---	--	--	--	--

年 月 日	何々ニ付キ何賞ヲ受ク	何	府 郡 等 縣
年 月 日	何々ニ付キ何罰ヲ受ク	何	府 郡 等 縣

右之通相違無之候也

年 月 日

右

何 某印

内三訓第三〇號(明治三十四年一月十九日)
 師範學校中學校及高等女學校ニ接近スル土地ニ於テハ明治三十二年文部省訓令第四
 號第一項ノ趣旨ヲ貫徹セシムル爲教育上ノ故障アリト認ムヘキ營業ヲ許可シ又ハ建物
 ヲ築造セシメサル様取計ヲ命ジ

各郡市長
各警察署長

第十三類 土地及水面

地 種

甲第七十八號(明治十六年十二月二十日)

民有ノ地所河溝道路溜池堤防成許可ノモリ地種變換手續自今別紙ノ通相定ム

地種變換願手續

第一條 河溝道路溜池堤防成着手ノ月ヨリ六ヶ月迄ニ全部着手セシモノハ工事ノ成

否ニ拘ラス其翌月十日以内ニ地種變換ノ儀別紙甲號雛形ニ倣ヒ願出ヘシ

第二條 一旦工事着手ノ後若シ其業ヲ中止スルカ又ハ無間斷從事スルモ着手ノ月ヨ

リ六ヶ月ニ滿テ全部着手ノ場合ニ至ラサルモノハ六ヶ月ヲ分界トシ其工事ヲ施シ

タル部分ニ限リ地種變換ノ儀別紙乙號雛形ニ倣ヒ工事着手ノ分ト否トノ區別明瞭

ノ色分圖面相副願出ヘシ

但一旦中止ノ地所地種組換ノ後再應工事着手ノ節ハ丙號雛形ニ倣ヒ届出ヘシ

第三條 七ヶ月以上ニ渉ル工事ハ六ヶ月毎ニ其工程ヲ量リ地種組換ノ區域ヲ定メ前

條同様ノ圖面相副翌月十日以内ニ地種變換ノ儀別紙丁號雛形ニ倣ヒ願出ヘシ

第四條 許可ノ後六ヶ月ニ至リ工事着手セサルモノハ翌月十日以内ニ別紙戊號雛形

ニ倣ヒ届出ヘシ

(別紙)

甲號

潰地々種變換願

何國何郡何村

字何々何番地

一 何反別何程

外反別何程

何國何郡何村字何々何番地

何反別何程ノ内

一 反別何程

外反別何程

哇畔或ハ何々

右ノ地所何年何月何日何々成御許可ニ付何年何月何日工事着手何年何月何日工事竣功(或ハ未タ竣功ニ至ラス候得共既ニ事業全部へ着手)ニ付地種變換之儀御許可相成度此段奉願候也

何郡何町(村)何番地

年 號 月 日

何 / 誰 印

右町(村)「戸長」

何 / 誰 印

地元「戸長」

本「縣」令「宛

何 / 誰 印

乙號

潰地々種變換願

何國何郡何村

字何々何番地

一 何反別何程

外反別何程

内

反別何程

外反別何程

反別何程

外反別何程

何國何郡何村字何々何番地

何反別何程ノ内

一 反別何程

外反別何程

内

反別何程

外反別何程

哇畔或ハ何々

工事着手ノ分

哇畔或ハ何々

工事未着手ノ分

哇畔或ハ何々

哇畔或ハ何々

工事着手ノ分

哇畔或ハ何々

反別何程
外反別何程

工事未着手ノ分
畦畔或ハ何々

右ノ地所何年何月何日何々成御許可ニ付何年何月何日工事着手ノ處何々ノ事故ニ據
リ何年何月何日工事中(或ハ六ヶ月内竣功難致)ニ付前書着手ノ分地種變換御許
可相成度此段奉願候也

年 號 月 日

何郡何町(村)何番地
何 / 誰 印

右町(村)「戸長」
何 / 誰 印

地元「戸長」
何 / 誰 印

「縣 令」宛

丙號

工事中ノ地所再應着手ノ儀ニ付御届

何國何郡何村

字何々何番地

何反別何程

外反別何程

畦畔或ハ何々

内

反別何程

外反別何程

竊ニ工事着手ニ付既
ニ地種變換御許可分

畦畔或ハ何々

反別何程

外反別何程

今般工事着手ノ分

畦畔或ハ何々

何國何郡何村字何々何番地

何反別何程ノ内

一 反別何程

外反別何程

畦畔或ハ何々

内

反別何程

外反別何程

竊ニ工事着手ニ付既
ニ地種變換御許可分

畦畔或ハ何々

反別何程

外反別何程

今般工事着手ノ分

畦畔或ハ何々

右ノ地所何々成御許可ニ付竊ニ一旦工事着手ノ處事故有之事業中止ニ付何年何月何
日前書功事着手ノ分地種變換ノ儀相願何年何月何日御許可相成候廉今般再應工事着
手仕候間此段御届仕候也

年 號 月 日

何郡何町何番地
何 / 誰 印

右町「戸長」
何 / 誰 印

丁號 「縣令」宛

潰地々種變換願

何國何郡何村
字何々何番地

地元「戸長」

何 / 誰印

一 何反別何程

外反別何程

哇畔或ハ何々

内

反別何程(最初變換願ノ節)既ニ地種變換御許可ノ分

外反別何程(ハ此項ヲ除ク)

哇畔或ハ何々

反別何程

何年何月ヨリ工事着手ノ分

外反別何程

哇畔或ハ何々

反別何程

何年何月ヨリ工
事着手スヘキ分

外反別何程

哇畔或ハ何々

何國何郡何村字何々何番地

何反別何程ノ内

一 反別何程

外反別何程

哇畔或ハ何々

内

反別何程(最初變換願ノ節)既ニ地種變換
御許可ノ分

外反別何程

哇畔或ハ何々

反別何程

何年何月ヨリ工
事着手スヘキ分

外反別何程

哇畔或ハ何々

反別何程

何年何月ヨリ工
事着手スヘキ分

外反別何程

哇畔或ハ何々

右ノ地所何年何月何日何々成御許可ノ際何年何月ヨリ何年何月迄六ヶ月間工事着手
ノ分前書之通地種變換御許可相成度此段奉願候也

年 號 月 日

何郡何町何番地

何 / 誰印

右町「戸長」

何 / 誰印

地元「戸長」

何 / 誰印

戊號

「縣令」宛

工事未着手ノ儀ニ付御届

何國何郡何村

字何々何番地

一 何反別何程

外反別何程

何國何郡何村字何々何番地

何反別何程ノ内

一 反別何程

外反別何程

畦畔或ハ何々

右ノ地所何年何月何日何々成御許可相成候處何々ノ事故ニ據リ今以テ工事着手不仕候間此段御届仕候也

何郡何村何番地

年 號 月 日

何 / 誰 印

右町「戸長」

何 / 誰 印

地元「戸長」

何 / 誰 印

「縣令」宛

告示第五十號 (明治二十二年六月七日)

民有地ヲ官有地成ノ河川道路堤塘溝渠等へ許可セシモノ明治十六年(三月)本縣甲第百七十八號布達ニ依リ地種變換出願ノ節ハ每地ノ地價ヲ其反別ノ左側へ記シ出願ス

訓令第二十七號 (明治二十五年四月十四日)

郡役所 市役所
町 村 役場

明治十七年第七號布告地租條例第二十四條ノ荒地ニシテ到底起返ノ目的ナキモノハ是迄改メテ地種變換ノ義出願爲致來リ候處自今ハ其川成海成湖水成ノ届書ヲ受理スルト同時直ニ官有地ニ編入スルヲ以テ別ニ地種ノ變換ヲ出願セシムルニ及ハサル義ト心得ヘシ

訓令第三十五號 (明治三十三年五月十二日)

市町村 警察署
警察 分署

陸地測量標及全敷地監守方ニ就テハ明治二十八年(九月)本縣訓令第四十號ヲ以テ市町村一訓第三一五號ヲ以テ警察署警察分署へ訓令及ヒタル義有之候處尙市町村長及警察官ハ陸地測量標及敷地ノ監守ニ注意シ若シ亡失毀損其他ノ異狀アルトキハ其事由ヲ具シ又規標ニ異狀アルトキハ其下ニ埋定アル標石ノ異狀ノ有無ヲモ取調市町村長ヨリ直ニ本縣内務部ニ届出ヘシ警察官ニ於テ右等ノ異狀ヲ發見シタルトキハ直ニ市町村長ニ通知スヘシ

地 籍

甲第二百九號 (明治十五年九月廿二日)

地籍編纂規則則册ノ通相定メ一郡ヨリ漸次着手候條此段布達候事
但着手郡村名等ハ追テ可相達候事

地籍編製規則

第一章 綱領

第一條 地籍編製ハ其所有ノ官民ヲ論セス總テ土地ノ經界ヲ釐正シ廣狹ヲ測量シテ其方積ヲ求メ地種ノ名稱ニ據テ圖籍ヲ製シ字名請番號ニ到ルマテ一日瞭然ナラシムルモノニシテ實ニ國家一日モ欠クヘカラサル一大緊要ノ典籍ナリ故ニ苟モ本業ニ從事スルモノハ宜シク此旨趣ニ悖戾セサルヲ要ス

第二條 地籍ハ全國地籍府縣地籍州地籍町村地籍ノ五種アリ其町村地籍ハ地元町村ニ於テ之ヲ編製シ郡地籍以上ハ管廳ニ於テ管理スルモノトス

第三條 地籍下調順序ハ每一筆ヨリ起リ一耕地(或ハ何)又ハ一字限り表(丙丁號雜形ニ據ル)ヲ製シ而シテ全町村ニ及ホスモノトス

第四條 地籍ハ一ケ年毎ニ土地ノ變換ヲ添刪更正スルモノトス

第二章 地所經界

第一條 土地ノ區界ヲ釐正スルハ地籍編纂ノ最モ主要トスル所ナレハ各町村及各切圖字各一筆限リ等四至ノ經界ヲ判明ナラシムルヲ以テ第一着之事業トス

第二條 國郡町村四至ノ經界ハ双方(戶長及人民總代等)立會之上從來ノ証跡又ハ慣例等ニ仍リ取調適宜(可成不特ノ品ヲ用ニヘシ)ノ目標ヲ建設シ以テ一日瞭然ナラシムヘシ

第三條 經界ノ他府縣下ニ交接スルモノハ本郡長ヨリ該郡長ヘ照會シ郡長又ハ主務ノ書記並ニ双方ノ「戶長」及人民總代等ト俱ニ實地ニ莅會シテ第二條ニ準シ目標ヲ

建設スヘシ

但前二條ノ目標建設ニ臨ミ双方其境界ノ所見ヲ異ニスルカ如キ場合ニ於テハ暫ラ右目標建設ヲ中止シ處分方向出ヘシ

第四條 嶋嶼ニシテ其村浦ノ所屬明瞭ナルモノハ其村浦(最近キ何岬又ハ何岩類)ヨリノ方位ヲ求メ距離ヲ量リ之レヲ圖面ニ詳記スヘシ若シ又從來何村浦ノ所屬不明瞭ノモノハ最近寄ノ村浦協議ノ上何村浦ヘ所屬ノ見込ヲ立テ地景明瞭ナル圖面ヲ製シ處分方向出ヘシ

第三章 丈量方積

第一條 地籍ハ總テ水平面ヲ實測スルヲ法トス

但耕宅地山林等明治九年地租改正ノ際既ニ丈量濟ノ分ハ暫ラ該反別ヲ登錄スヘシ尤堤塘道路畦畔ノ如キハ平面積ノ反別ヲ量ルモノトス

第二條 嶋嶼ハ滿潮ノトキ水上ニ現ル、所ヲ界トシ丈量スヘシ

第三條 土地ヲ度ルハ曲尺六分ヲ壹釐トシ十釐六ヲ壹步トナシ十步六一間トナシ總テ何万何千何百何十何間何步何釐ヲ以テ計算スヘシ

第四條 官有地ノ内嵯峨タル山岳廣漠ナル原野其他河川堤塘道路等未タ實測シ無之分ハ先概反別ヲ見積リ掲載シ置クヘシ

(但)

第五條 道路堤塘河川ノ類數耕地(或ハ)又ハ數字ニ連亘セルモノハ一耕地(或ハ)又ハ

十六年甲第六號ヲ以テ第四條但書中割註例除全甲第百六十二號ヲ以テ例

一字限りヲ以一筆ニ取調ヘシ

但一耕地(或ハ山)又ハ一字中ニ於テ其地ノ分離スルモノハ別筆ニ取調ヘシ

第六條 土地ノ方積ヲ求ムル市街ハ坪數ノ稱ヲ以テ勾位迄ヲ須ヒ郡村ハ町反畝歩ヲ以テ歩位ニ止メ右以下ハ各切捨タルヘシ尤一筆ニシテ坪未滿ノモノハ何合何勾ト記載スヘシ

但一繩毎ノ丈量ハ市街地ハ才位迄郡村地勾位迄ヲ記載スヘシ

第四章 地所名稱

第一條 地所ノ名稱ハ明治七年第二百十號全八年第四百十四號全年第五百五十四號全九年第八十八號全十三年第四十三號公布ニ仍ルヘシト雖モ尙別冊書式ニ倣ヒ科目毎無遺漏取調ヘシ

第二條 地籍牒ニハ地租改正ノ際一筆ノ内ニ取調タル瑣々タル各種類ハ別ニ顯スニ及ハスト雖モ本地ノ外書ニナシタルモノハ各種類集シテ掲クヘキモノトス

第三條 一耕地又ハ一字限表中堤塘道路敷地或ハ社寺耕宅地等ノ區域ヲナシタル官有地又ハ民有地ノ内ニ有之電信架線柱敷地及ヒ揭示場各種ノ類ハ本地ノ内書ニ步數ト名稱トヲ顯シ置ヘシ

第四條 官有空地及ヒ堤塘道路敷地中ニ神社堂宇又ハ人民居宅ヲ建設シ或ハ林藪桑植付等ノ爲メ許可ノ箇所ハ其事由ト反別トヲ内書ニ顯スヘシ

第五條 河川内ニアル附寄洲ヲ林藪又ハ畑等ニ仕用許可ノ箇所ハ其河川反別ノ内書

十六年甲第六十六號ヲ以テ第二條ノ冒頭ニ「地籍牒ニハ」ヲ加ヘ「モノハ」ヲ下別ニ「各」種ト改ム
十六年甲第六十六號ヲ以テ第三條ノ冒頭ニ「耕地」以下十字ヲ加ヘ「揭示場等」以下各「種」ノ二字挿入

ニ顯スヘシ

第六條 社寺ニ境内ニシテ官民有兩種混同ノ地所ハ官有地ヲ記載スルトキハ民有地ヲ外書ニシ民有地ヲ記載スルトキハ官有地ヲ外書ニ記載スヘシ

第五章 土地名稱

第一條 官有地ハ總テ其直轄スル官省廳ノ名ヲ以テシ道路堤塘溝渠等ノ類ハ其欄内ニ空野ニ置キ民有地ハ其所有者ヲ登記スルシテ其地ノ名稱ハ其欄内ニ記載スヘシ

第二條 地籍編製ノ際地名所有等未定ノ廉アリ現今伺中ニテ指令未濟ノ者ハ其原稱ニ據テ記載スヘシ

第三條 土地番號

第一條 土地ノ番地ハ地租改正ノ地番ヲ記載スヘシ

但道路堤塘河川ノ類ニシテ未タ地番ノ設ケナキ者ハ新タニ番號(尤番外何番)ヲ付

第七章 地籍地圖

第一條 地圖地籍ハ相待テ用ヲ爲スモ以テ付前章各種地籍編纂ニ劣リ地圖細密ナラサレハ實地明瞭ヲ得難シ故ニ別紙(甲號)凡例ニ倣ヒ精敷ナル圖面ヲ調製スルモノトス

但改租ノ際調製シタル圖面ヲ根據トシテ取調ルモ妨ケナシ
第二條 町村全圖ハ其周圍ヲ限リ三千分一(二厘ヲ以テ)ノ實測圖ヲ調製シ測点ヲ記入スル

十六年甲第六十六號ヲ以テ第二條改正ノ際「九」ヲ「十」ニ改メ「下」ヲ「下」ニ改メ「測点」以下六字挿入

十七年甲第七十三號ヲ以テ第一條中「類」以下「下」地目以下七字ヲ去リ其欄以下九字ニ改ム

十六年甲第六號ヲ以テ第三條調製スヘシノ下尤以下列ノ除

十八年甲第六號ヲ以テ第四條改正

十九年甲第八十四號ヲ以テ第七條中「編製シ」ノ下「測点記」以下十九字及「留置」通ハノ下該点測以下七字ヲ挿入シテ「縣令第四十五號ヲ以テ」都役所ヲ經由シ「ノ七字」ヲ除クノ十八年甲第六號ヲ以テ第九條追加

但改租ノ際一厘間(六十分)又ハ一分間(六百分)等ヲ以テ調製セシ町村ハ今般新タニ實測ヲ要セス最前ノ圖面謄寫ノ上其縮圖ノ歩合ヲ登記シ置ヘシ

第三條 町村地籍ハ全圖ノ外ニ乙號凡例ニ據リ地番ヲ付シタル切圖(何番耕地(或ハ何號)山)又ハ一字限リ圖)ヲモ調製スヘシ

第四條 切圖ノ内木山及林ハ其木種竹山草山又ハ數株場木生草地等ノ類ハ其種類ノ一字ヲ番號ノ肩書ニスヘシ

第五條 切圖ニハ一村全圖ニ對照シ其個數ニ應シテ番號ヲ付スヘシ

第六條 岩礁(潮ノ満干ニ仍)ト暗礁(常ニ水底)トヲ區別取調圖面ハ其位置ト名稱ヲ記載スヘシ

第七條 地籍及地圖ハ各二通ヲ編製シ測点記(方位間數ヲ)一通ヲ添ヘ縣廳ニ差出スヘシ

第八條 二町村ノ全圖ニハ四隣町村「戸長」并ニ村民總代二名以上ノ連署ヲ要ス

第九條 本地内書ノモノト雖モ池ノ堤塘ニシテ道路ヲ兼テ前後普通道路ヘ連絡スルモノニ限リ町村全圖ヘ顯ハスヘシ

第八章 地籍變換並改正年度

第一條 町村ニ於テ地籍變換ノアル毎遺漏ナク之レヲ記入シ置キ每一ケ年檢査ノ需用ニ供スヘシ

十六年甲第六十六號ヲ以テ第二條改正

第二條 每一ケ年ノ改正ハ毎年一月一日ニ起リ三月卅一日ニ畢ル即チ前年一月一日ヨリ其年三月卅一日迄ノ土地變換ヲ簿冊上ニ於テ査閲シ或ハ實地ニ就テ檢査スルモノトス

地籍帳

何郡	何町	何村
----	----	----

何郡何町(村)

何ヶ所(筆數)

官有地

此反別

内譯

第一種

反別

何ヶ所(筆數)

一神地

此反別

何ヶ所(筆數)

内

十九年甲第八十四號ヲ以テ地籍帳書式中各地目反別ノ下「何ヶ所數」ノ五字追加

官舍	反別	何ヶ所(筆數) (官宅至此内三入)
陸軍省用地		
此反別		何ヶ所(筆數)
内		
鎮臺分營	反別	何ヶ所(筆數)
練兵場	反別	何ヶ所(筆數)
火藥庫	反別	何ヶ所(筆數)
雜庫	反別	何ヶ所(筆數)
病院	反別	何ヶ所(筆數)
射的場	反別	何ヶ所(筆數)
練兵工作場	反別	何ヶ所(筆數)
司法省用地		
此反別		何ヶ所(筆數)
内		
裁判所	反別	何ヶ所(筆數)
工部省用地		
此反別		何ヶ所(筆數)
内		

電信分局	反別	何ヶ所(筆數)
海底線陸揚場	反別	何ヶ所(筆數)
第三種	反別	何ヶ所(筆數)
一山岳		
此反別		何ヶ所(筆數)
内		
銀坑		
此反別		何ヶ所(筆數)
内		
官坑	反別	何ヶ所(筆數)
借區	反別	何ヶ所(筆數)
銅坑		
此反別		何ヶ所(筆數)
内		
官坑	反別	何ヶ所(筆數)
借區	反別	何ヶ所(筆數)
鐵坑		
此反別		何ヶ所(筆數)

内	官坑	反別	何ヶ所(筆數)
借區	官坑	反別	何ヶ所(筆數)
此反別	内		何ヶ所(筆數)
官坑	内	反別	何ヶ所(筆數)
借區	内	反別	何ヶ所(筆數)
安質母尼坑			何ヶ所(筆數)
此反別			何ヶ所(筆數)
内			何ヶ所(筆數)
官坑		反別	何ヶ所(筆數)
借區		反別	何ヶ所(筆數)
右炭坑			何ヶ所(筆數)
山此反別			何ヶ所(筆數)
内			何ヶ所(筆數)
官坑		反別	何ヶ所(筆數)
借區		反別	何ヶ所(筆數)

十六年甲第百六十
二號ヲ以テ一等官
林ヨリ眞外官林ニ
至ル此木數一ノ三
字削除

石研坑			何ヶ所(筆數)
此反別			
内			
官坑		反別	何ヶ所(筆數)
借區		反別	何ヶ所(筆數)
砥石坑			何ヶ所(筆數)
此反別			
内			
官坑		反別	何ヶ所(筆數)
借區		反別	何ヶ所(筆數)
一等官林			何ヶ所(筆數)
此反別			
二等官林			何ヶ所(筆數)
此反別			
三等官林			何ヶ所(筆數)
此反別			
禁伐官林			何ヶ所(筆數)
此反別			

内	
水源涵養	何ヶ所(筆數)
此反別	
土砂扞止	何ヶ所(筆數)
此反別	
風潮除	何ヶ所(筆數)
此反別	
額雪止	何ヶ所(筆數)
此反別	
漁付場	何ヶ所(筆數)
此反別	
回船目標	何ヶ所(筆數)
此反別	
國郡村境界目標	何ヶ所(筆數)
此反別	
員外官林	何ヶ所(筆數)
此反別	

(種類毎ニ區別シ一廉限リ記載スヘシ以下之ニ倣フ)

貸山地	何ヶ所(筆數)
此反別	
内	
柴草場	何ヶ所(別數)
此反別	
芻採場	何ヶ所(筆數)
此反別	
一丘陵	何ヶ所(筆數)
此反別	
一藪	何ヶ所(筆數)
此反別	
一原野	何ヶ所(筆數)
此反別	
一荒蕪地	何ヶ所(筆數)
此反別	
一河川	何ヶ所(筆數)
此反別	
一沼	何ヶ所(筆數)

十八年甲第六號ヲ以テ溝渠書式改正

十八年甲第六號ヲ以テ堤塘兼道路書式追加

一池	此反別	何ヶ所(筆數)
一澤	此反別	何ヶ所(筆數)
一溝渠	此反別	何ヶ所(筆數)
内		
用水路	反別	何ヶ所(筆數)
惡水路	反別	何ヶ所(筆數)
一堤塘	此反別	何ヶ所(筆數)
一堤塘兼道路	此反別 (民有地モ之ニ準ス)	何ヶ所(筆數)
内		
堤塘兼縣道	反別	何ヶ所(筆數)
全 本道	反別	何ヶ所(筆數)
全 支道	反別	何ヶ所(筆數)

二十一年縣令第八十一號ヲ以テ「國道」下「三等」ヲ「何號線」ト改ム

全 作場道	反別	何ヶ所(筆數)
一道路	此反別	何ヶ所(筆數)
内		
國道何號線	反別	何ヶ所(筆數)
縣道 一等	反別	何ヶ所(筆數)
全 二等	反別	何ヶ所(筆數)
全 三等	反別	何ヶ所(筆數)
里道以下		
全 本道	反別	何ヶ所(筆數)
全 支道	反別	何ヶ所(筆數)
全 作場道	反別	何ヶ所(筆數)
一貸田(畑)(宅地)	此反別	何ヶ所(筆數)
一木生地	此反別	何ヶ所(筆數)

- 一 竹生地
此反別
何ヶ所(筆數)
- 一 草生地
此反別
何ヶ所(筆數)
- 一 石寄場
此反別
何ヶ所(筆數)
- 一 温(冷)泉場
此反別
何ヶ所(筆數)
- 一 河(海)岸場
此反別
何ヶ所(筆數)
- 内
物揚場
此反別
何ヶ所(筆數)
- 物置場
此反別
何ヶ所(筆數)
- 一 電信架線柱敷地
此反別
何ヶ所(筆數)
- 一 燈明臺敷地
何ヶ所(筆數)

(明治十二年本縣乙第三百廿八號
達乙號離形ノ通り取調タルモノ)

- 此反別
何ヶ所(筆數)
- 一 舊跡
此反別
何ヶ所(筆數)
- 一 名所
此反別
何ヶ所(筆數)
- 一 公園地
此反別
何ヶ所(筆數)
- 一 揭示場
此反別
何ヶ所(筆數)
- 一 堂宇敷地
此反別
何ヶ所(筆數)
- 一 墳墓地
此反別
何ヶ所(筆數)
- 一 舊行刑場
此反別
何ヶ所(筆數)
- 一 火葬場
此反別
何ヶ所(筆數)
- 一 縣廳附屬地
何ヶ所(筆數)

此反別	何ヶ所(筆數)
一陸軍省附屬地	
此反別	何ヶ所(筆數)
第四種	何ヶ所(筆數)
一寺院敷地	
此反別	何ヶ所(筆數)
一學校敷地	
此反別	何ヶ所(筆數)
内	
師範學校	
此反別	何ヶ所(筆數)
中學校	
此反別	何ヶ所(筆數)
小學校	
此反別	何ヶ所(筆數)
一教説場	
此反別	何ヶ所(筆數)
一病院	

民有地	此反別	何ヶ所(筆數)
此反別		
内譯		
第六種		
一田	反別	何ヶ所(筆數)
外畦畔	反別	何ヶ所(筆數)
何々山	反別(以下之ニ準ス)	
一畑	反別	何ヶ所(筆數)
一宅地	反別	何ヶ所(筆數)
一鹽田	反別	何ヶ所(筆數)
一鹽濱	反別	何ヶ所(筆數)
一製鹽場	反別	何ヶ所(筆數)
一試作地	反別	何ヶ所(筆數)
内		
反別	何ヨリ何迄何ヶ年季	何ヶ所(筆數)
反別	何ヨリ何迄何ヶ年季	何ヶ所(筆數)
一切替畑	反別	何ヶ所(筆數)

一山	反別	何ヶ所(筆數)
内		
草山	反別	何ヶ所(筆數)
内		
柴草場	反別	何ヶ所(筆數)
芻秣場	反別	何ヶ所(筆數)
木山	反別	何ヶ所(筆數)
内		
檜山	反別	何ヶ所(筆數) <small>(種類毎ニ區別シテ記載スヘシ林ノ部モ亦同シ)</small>
松山	反別	何ヶ所(筆數)
桐山	反別	何ヶ所(筆數)
雜木山	反別	何ヶ所(筆數)
諸坑山	反別	何ヶ所(筆數)
内		
石炭山	反別	何ヶ所(筆數)
礫石山	反別	何ヶ所(筆數)
砥石山	反別	何ヶ所(筆數)
一林	反別	何ヶ所(筆數)

内		
檜林	反別	何ヶ所(筆數)
松林	反別	何ヶ所(筆數)
栗林	反別	何ヶ所(筆數)
雜木林	反別	何ヶ所(筆數)
一草生地	反別	何ヶ所(筆數)
一學校敷地		
此反別		
内		
中學校敷地		
此反別		
小學校敷地		
此反別		
一病院敷地		
此反別		
一鄉藏敷地		
此反別		
一物干場		

此反別	何ヶ所(筆數)
一牧場	何ヶ所(筆數)
此反別	何ヶ所(筆數)
一水車揚	何ヶ所(筆數)
此反別	何ヶ所(筆數)
一堂宇敷地	何ヶ所(筆數)
此反別	何ヶ所(筆數)
一郷社	何ヶ所(筆數)
此反別	何ヶ所(筆數)
一村社	何ヶ所(筆數)
此反別	何ヶ所(筆數)
一神社遙拜所	何ヶ所(筆數)
此反別	何ヶ所(筆數)
一祖靈社	何ヶ所(筆數)
此反別	何ヶ所(筆數)
一寺院敷地	何ヶ所(筆數)
此反別	何ヶ所(筆數)

(但他人無格社ハ何ヶ所此反別)
何程ト取束子此次ヘ記載スヘシ

一寺院遙拜所	何ヶ所(筆數)
此反別	何ヶ所(筆數)
一池	何ヶ所(筆數)
此反別	何ヶ所(筆數)
一沼	何ヶ所(筆數)
此反別	何ヶ所(筆數)
一荒地	何ヶ所(筆數)
此反別	何ヶ所(筆數)
一内	何ヶ所(筆數)
一田	何ヶ所(筆數)
畑	何ヶ所(筆數)
第二種	何ヶ所(筆數)
一郷社	何ヶ所(筆數)
此反別	何ヶ所(筆數)
一村社	何ヶ所(筆數)
此反別	何ヶ所(筆數)
一墳墓地	何ヶ所(筆數)
此反別	何ヶ所(筆數)

反別 何ヨリ何迄何ヶ年免租 何ヶ所(筆數)
反別 何ヨリ何迄何ヶ年免租 何ヶ所(筆數)
反別 何ヶ所(筆數)

一 火葬場	此反別	何ヶ所(筆數)
一 石寄場	此反別	何ヶ所(筆數)
一 池	此反別	何ヶ所(筆數)
一 沼	此反別	何ヶ所(筆數)
一 井戸敷	此反別	何ヶ所(筆數)
一 泉敷	此反別	何ヶ所(筆數)
一 堤塘	此反別	何ヶ所(筆數)
一 溝渠	此反別	何ヶ所(筆數)
用水路	反別	何ヶ所(筆數)

一 道路	惡水路	反別	何ヶ所(筆數)
此反別			何ヶ所(筆數)
内			
本道		反別	何ヶ所(筆數)
支道		反別	何ヶ所(筆數)
作場道		反別	何ヶ所(筆數)
寄			
合反別何程			何ヶ所(筆數)
此譯			
官有地			何ヶ所(筆數)
此反別何程			
民有地			何ヶ所(筆數)
此反別何程			
右之通ニ御座候也			
年 號 月 日			
何村 總代			何
何村 戸長			何
「縣 令」宛			某

丙號

何號地籍							何郡何村		
字	地種	地番	地	目	反別	在籍	名	受	
何々	民一	一	畑		何反歩 外何歩何々	何郡何村	何	誰	
同	同	二	同		何反歩	同	同	同	
同	官三	三	荒蕪	地	同				
同	民二	四	墓	地	同	何郡何村	何	誰 外何人	
同	民一	五	畑		同	同	何	誰	
同	同	六	同		同	同	同	同	
同	同	七	宅	地	同	同	同	同	
同	官二	八	警察署		同			愛媛縣	

(紙末へ全町村地籍書式ニ倣ヒ類寄スヘシ)
右何號(耕地)地番名等書面ノ通相違無之候也

何町村

年月日

惣代 何 誰印

何町村

「戸長」 何 誰印

丁號

何號地籍					何郡何村				
字	地種	地番	地	目	反別	在籍	名	受	
何々	民一	一	松	山	何反歩	何郡何村	何	誰	
同	同	二	何社 <small>(縣社又ハ村社無 格社等社格ヲ云)</small>		同	同	何	神社	
同	官三	三	何等官林		同				
同	同	四	燈明臺敷地		同				
同	民一	五	杉山		同	何郡何村	何	誰 外何人	

十八年甲第六號ヲ
以テ丁號地籍表
中ノ
社地及禁伐官林ノ
廢改正

同	同	六	檜	山	同	同	何	誰
同	官三	七	何(社境外禁伐官林又ハ風々潮除禁伐官林ヲ云フ)	同	同	何郡何村	何	誰
同	民一	八	竹	山	同	何郡何村	何	誰

(紙末へ全町村地籍書式ニ倣ヒ類寄スヘシ)

右何號(或ハ)山林地番名受等書面之通相違無之候也

何町村 誰印
 何町村 誰印
 總代 何 誰印
 何町村 「戸長」何 誰印

(左ノ圖式等ハ畧之)

- 一 甲號 町村全圖 (十八年甲第 六號參看)
- 一 甲號 凡例 (二十一年縣令第 八十一號參看)
- 一 乙號 切圖 (十五年甲第 二百 四十五號參看)
- 一 乙號 凡例 (十八年甲第 六號參看)

各郡町村

乙第六十四號 (明治十六年五月五日)
 客年九甲 第二百九號布達地籍編纂規則第七章第二條町村全圖之儀ハ郡地籍圖之基
 本ニ付一層緻密之調査ヲ要スルハ論ヲ俟タサル儀ニ候得共或ハ實測ニ際シ測点又ハ
 間數等ノ登記ニ於テ粗漏誤謬アルルハ製圖上實地下相反シ四隣町村圖ト自然齟齬ヲ
 生シ候様立至リ候ニ付右等厚ク注意シ取調ヘク萬一四至ノ境界符合セサル場合ニ於
 テハ其ヶ所限り再調セシムル歟若シクハ係リ官吏派遣更ニ實測爲致候儀モ可有之候
 條後日看易キ爲メ必ス每測点ニ假目標(第何號點ト)建設シ追而査閱濟マテ存置候様可
 致

但町村ノ都合ニ依リ一字限り又ハ一耕地限り分割實測セシモノモ本文ニ準ス
 甲第四百十四號 (明治十六年九月十一日)
 客年九甲 第二百九號ヲ以テ地籍編纂規則制定一郡ヨリ漸次着手スヘキ旨及布達置候
 處詮議ノ次第有之更ニ管内一般ニ着手ス
 但各町村ハ着手時日確定ノ上其旨届出ヘシ
 乙第四十二號 (明治十七年三月十二日) 各郡町村

明治十五年九甲 第二百九號布達地籍編纂規則離形ノ内社寺院佛堂等ノ兼ハ明治十二
 年乙 第二百三十一號達ニ據リ取調タル社寺佛堂明細帳ニ登記有之モノニ限り候條
 其旨可相心得

但舊小祠堂字數ノ類ハ總テ現在ノ地目ヲ付スヘキ義ト可心得尤地租改正ニ懸ル諸

帳簿ノ内明治九年現在ノ地目ニ牴觸スルモノハ至急訂正方願出ヘシ
訓第五號 (明治二十年一月十八日) 各 郡

地籍編纂費負擔又ハ賦課ノ義ニ付「戸長」ヨリ伺出ノ向モ有之候處右ハ其町村人民ノ負擔ニ屬シ且賦課之義ハ該町村人民ノ協議ヲ以テ適宜支辨可致義ニ有之尤費用賦課ノ方法等協議ノ爲メ總代ヲ設クルハ苦シカラス候條爲心得各町村「戸長」ヘ示達セラ
ルヘシ

但費用等ノ儀ニ付「戸長」ヨリ伺中ノ分ハ別段指令及ハス且本文ニ牴觸スル從前ノ指令ハ消滅タルヘシ

各 郡 長 宛

訓第一五號 (明治二十年二月一日)

地籍編纂ノ儀ニ付テハ明治十六年甲第四百四十四號ヲ以テ及布達候以來今以テ未着手ノ町村アリ不都合不少候右ハ既往ノ情況ニ據レハ將來事業成功ノ目的相立タサルノミナラス既ニ着手ノ向モ現今ノ如ク各町村ノ適宜ヲ以テ區々整理セシメ候テハ忽チ郡地籍ノ編纂上ニ差支ヲ生シ尙且徒ラニ町村ノ境界實測等ニ許多ノ手數ヲ要シ費用相嵩ミ候義ニ付自今更ニ各町村ニ於テ協議ヲ遂ケ每郡一齊ニ着手編纂セシメ候様致度然ルルハ事業自カラ速成シ隨テ穴費可相省候條右特ニ注意ヲ加ヘ各町村「戸長」以下ヲ督勵シ速ニ編製ノ効ヲ奏セシメラルヘシ依テ每郡其整頓期限ヲ定メ來ル三月十日限開申セラルヘシ

各 郡 長 宛

官有地及水面

乙第二十一號 (明治十三年二月廿日)

各 郡 町 村

中小學區學校設立ノ地所無代價下渡ノ儀自今公立小學校ハ五百坪以内公立中學校公立專門學校ハ千坪以内ノ地ヲ該學校設置ノ地所トシテ官有地ニ於テ無差支場所ヲ撰ヒ無代價下渡シ可相成旨公達ノ趣モ有之候條爲心得此段相達候事

訓令第九十五號 (明治二十三年十一月廿一日)

市 役 所
町 村 役 場

本年勅令第六十九號及同第三百三十五號官有地特別處分規則ニ依リ官有地ノ賣渡シ又ハ貸渡シテ出願スル者アルトキハ自今別紙書式ノ取調書ヲ添付シ差出スヘシ

官有地賣渡出願ニ付取調書

(賣渡出願ノ片)

△印ハ朱書

賣 渡 出 願 地				比 準 ス ヘ キ 地			
町村名字 番地	地目	反別	△又ハ收利金額	町村名字 番地	地目	反別	賣買價
			賣渡代價 △比準地價				反金

(貸渡出願ノ片)

貸渡出願地		△又ハ收利金額		比準スヘキ地		
町村名字 番地	地目 反別	貸渡料額 △比準地價	反金	町村名字 番地	地目 反別	地價反金 賣買實 價反金

右精覆取調候處聊相違無之候也

年 月 日

何郡市町村長

何ノ誰印

知事宛

凡例

- 一 賣渡代價並貸渡料ノ欄内ニハ市町村長ニ於テ最モ適切ト認ムル所ノ代價又ハ料額ヲ記入スルモノトス
- 但賣渡比準地ハ其素地目貸渡比準地ハ其使用地目ニ依ルヘシ
- 一 比準地價ノ欄内ニハ上部ノ賣渡貸渡ヲ請フ反別ニ對スル地價ヲ算出シテ記入スルモノトス

一 反金ノ欄内ニハ上部ニ對スル反別及其代價並料額ノ壹反歩當リヲ記入スルモノトス

一 比準地價又ハ收利金額ハ見易キ爲メ朱書ヲ以テ記入スルヲ要ス

一 池沼ノ類ニシテ民有地中ニ比準スヘキモノナキトキハ一ケ年ノ收利見積リ金額ヲ記載スヘシ

一 賣買實價反金ナキトキハ斜線ヲ畫シテ其無キヲ示スヘシ

一 賣渡代價即チ市町村長ニ於テノ見込價格ト比準地價ト差違アルトキハ表尾ニ備考ヲ設ケ其事由ヲ成ルヘク詳悉スルヲ要ス

訓令第三十七號 (明治二十四年四月二十二日)

市役所
町村役場

明治二十三年勅令第六十九號及同百三十五號官有地特別處分規則ニ據リ官有地ノ賣渡シ又ハ貸渡ヲ出願スル者アルトキハ自今該地ノ故障有無ヲ取調副申スヘシ

郡役所
市役所
町村役場

訓令第六十一號 (明治二十四年六月十二日)

官ニ屬スル公有私有ノ水面埋立及公有水面使用願書ヲ差出スモノアルトキハ市町村長ハ市町村會ニ諮問シ其意見ヲ聞キ願書ト俱ニ之ヲ差出スヘシ

官有土地水面貸渡規程

明治二十七年十二月二十八日
告示第七十六號

第一條 此規程ニ官有土地水面トアルハ隨意ノ契約ニ依リ貸渡シ得ヘキ官ニ屬スル私有ノ土地水面ヲ云フ

前項ノ土地水面ヲ借受ケントスル者ハ本規程ニヨルヘシ

二十九年告示第二十五號ヲ以テ第三條第四條第六條第七條第二項中證書ヲ請書ト改ム

第二條 官有土地水面ヲ借受ケントスルモノハ甲第一號様式ニ依リ願書ヲ差出スヘシ
 前項ノ土地、水面ヲ借受ケントスルモノハ管内在籍者ニシテ身元確實ナル保証人ヲ立ツヘシ
 保証人ハ借受人契約ノ義務ヲ怠リタルハ借受人ニ代リ其義務履行ノ責ニ任スヘシ
 第三條 官有土地、水面貸渡ノ許可ヲ得タルハ其指令書ヲ受領シタル日ヨリ五日以内ニ乙第一號様式ノ請書ヲ差出スヘシ
 第四條 貸渡許可ノ期限ハ通常一期五ヶ年以内トス若シ満期ニ至リ引繼キ借受ケントスルモノハ遅クモ期明三ヶ月以前甲第二號様式ニ依リ出願シ許可ヲ得タル上ハ更ニ乙第一號様式ノ請書ヲ差出スヘシ
 第五條 借受人死亡、退隱ニ依リ家督相續人ニ於テ前約ヲ繼續セントスルモノハ其相續ノ日ヨリ三十日以内ニ甲第三號様式ニ依リ届出ツヘシ
 前項ノ届書ニハ保証人連署ノ上尙死亡ニ係ルモノハ親戚退隱ニ係ルモノハ退隱者之レニ連署スヘシ
 第六條 借地上ニ在ル物件ノ遺産相續人ニ於テ前約ヲ繼續シ借受ケント欲スルモノハ其相續ノ日ヨリ三十日以内ニ乙第二號様式ノ請書ヲ差出スヘシ
 前項ノ證書ニハ保証人連署ノ上尙該家ノ戸主ハ之レニ連署スヘシ
 第七條 借地上ニ在ル物件ヲ賣買、讓與ニ依リ其讓受人ニ於テ前約ヲ繼續シ借受ケントスル者ハ特ニ許可スルコトアルト雖モ最前契約ノ條件ハ之ヲ變更スルコトヲ許サズ

二十八年告示第二十二號ヲ以テ第九條改正

前項ノ出願ヲ爲サントスルモノハ甲第四號様式ニ依リ願出許可ヲ得タルハ其指令書ヲ受領シタル日ヨリ五日以内ニ乙第三號様式ノ請書ヲ差出スヘシ
 第八條 借受期限内中使用目ヲ變更セントスルハ甲第五號様式ニ依リ願出許可ヲ受クヘシ其地形ヲ變更スルノトキ亦同シ
 第九條 借受期限内ニ於テ其土地水面ヲ返却セントスルハ情ヲ具シ出願許可ヲ受クヘシ但満期返却ノトキハ期日以前ニ於テ其旨届出ツヘシ
 第十條 土地水面ノ借受人改姓名又ハ轉籍、轉居等ヲ爲シタルハ十五日以内ニ其旨届出ツヘシ
 第十一條 官有土地、水面ノ借受人ハ期限内中其土地水面、保護ノ責ニ任スヘシ
 第十二條 貸渡土地、水面ハ期限内ト雖モ官ニ於テ使用ノ必要アルトキ又ハ公共事業ノ爲メ又ハ公共ノ利益トナル事業ノ爲メ其土地、水面ヲ要スルハ借受人契約ノ條件ニ違背シタルハ何時ニテモ契約ヲ解除シ返却セシムルコトアルヘシ
 前項ニ依リ契約ヲ解除スルハ借受人ハ常應ノ命令シタル日限内ニ返却スヘシ
 第十三條 常應ノ許可ヲ得テ地形ヲ變更シ又ハ地上ニ物件アルトキ契約解除ノ命令ヲ受ケタルトキハ其命令セシ日限内ニ満期返却ノ場合ニ於テハ其期限内ニ物件ハ取除キ地形ハ原形ニ復シ返却スヘシ
 第十四條 借受土地、水面ハ常應ノ許可ヲ得ルニアラサレハ之ヲ他人ニ轉貸スルコ

二十八年告示第二十二號ヲ以第十六條改正

二十九年告示第二十五號ヲ以第十八條改正

廿八年告示第二十二號ヲ以樣式中改正

トナ許サス

第十五條 借受人故意、怠慢ニ依リ貸渡土地ヲ荒廢ニ歸シ又ハ破壞亡失セシメタルトキハ借受人ニ其損害ヲ賠償セシムヘシ

第十六條 第十二條ニ依リ契約ヲ解除シタル場合ニ於テ借受人ニ何等ノ損失ヲ受ケルコトアルモ之レカ賠償ヲ求ムルコトヲ得サルモノトス

第十七條 貸渡土地ニ對スル公費ノ賦課ハ借受人ノ負擔トス

第十八條 本規程ニ依リ差出ス願屆書及請書ハ總テ郡市町村ヲ經由スルヲ要ス

甲第一號樣式 (正副二通ヲ要ス)

官有土地(水面)借用願

何郡(市町村)大字何番地(地番)ノ設ケナキモノハ何番地先ト記スヘシ)

一 官有何々地反別何程 (市街地ハ坪數ヲ以テ記スヘシ)

但地上立木竹何程(立木竹ハ其種類本數目通長等ヲ詳記スヘシ)

此一ケ年借地料金何程

借地期限 何年何月ヨリ何年間

右ハ何々用(使用)ノ目的ヲ詳記スヘシ)ノ爲メ前書ノ期間借用仕度尤モ御許可ノ上ハ

明治廿七年十二月御縣告示第七十六號官有土地水面貸渡規程ノ各條項ハ勿論今後發布ノ諸規則ヲモ遵守可致且借地料金ハ御指定ノ通上納可仕候間御貸渡被成下度別紙圖面相添ヘ此段奉願候也

年月日

住所

借用人

何 某印

住所

保證人

何 某印

(水面ハ隣接地主又ハ水理關係者ノ連署ヲ要ス) 前書ノ通出願ニ付奥書候也

(市)町村長

何 某印

愛媛縣知事宛

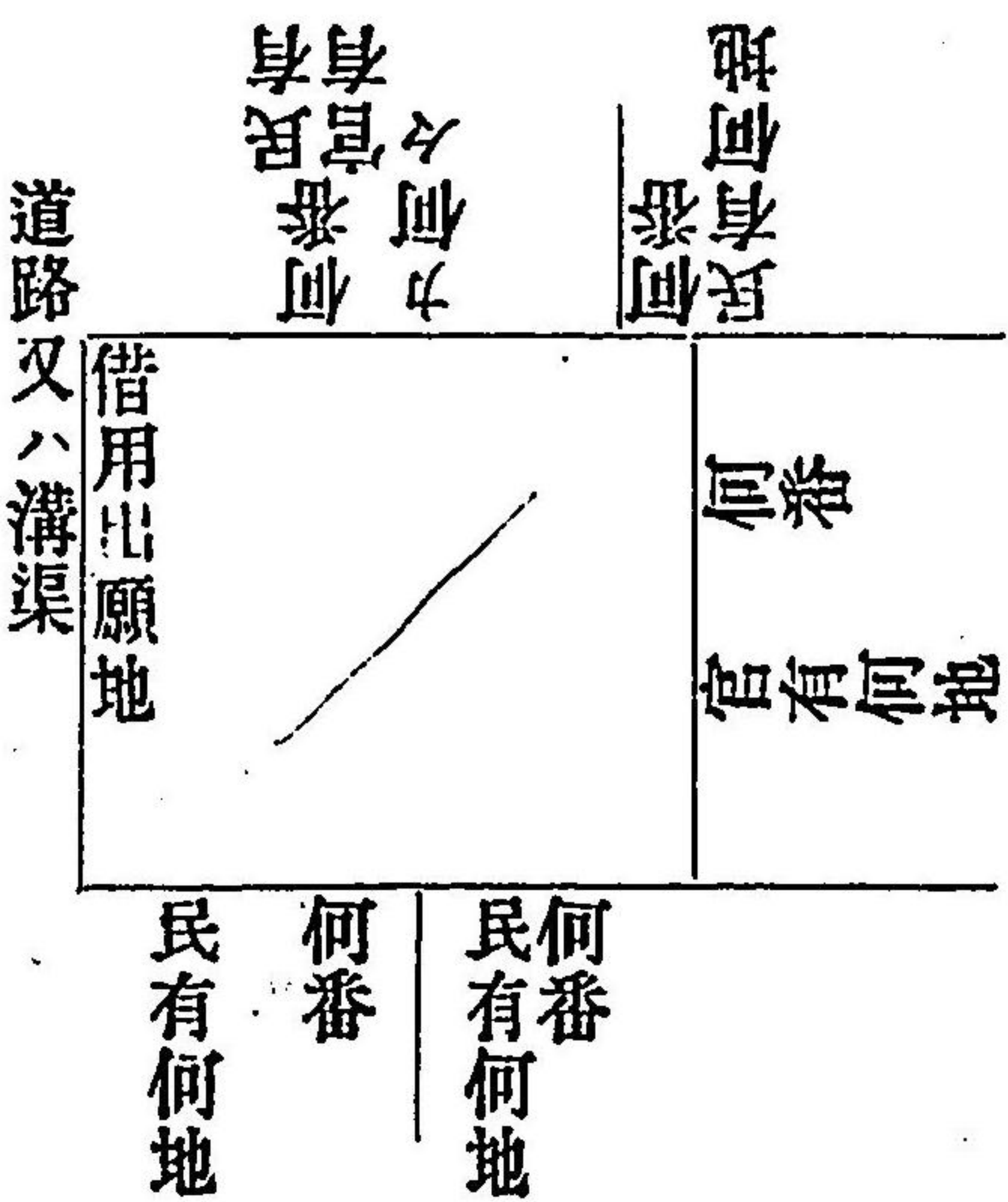
(圖面ノ例)

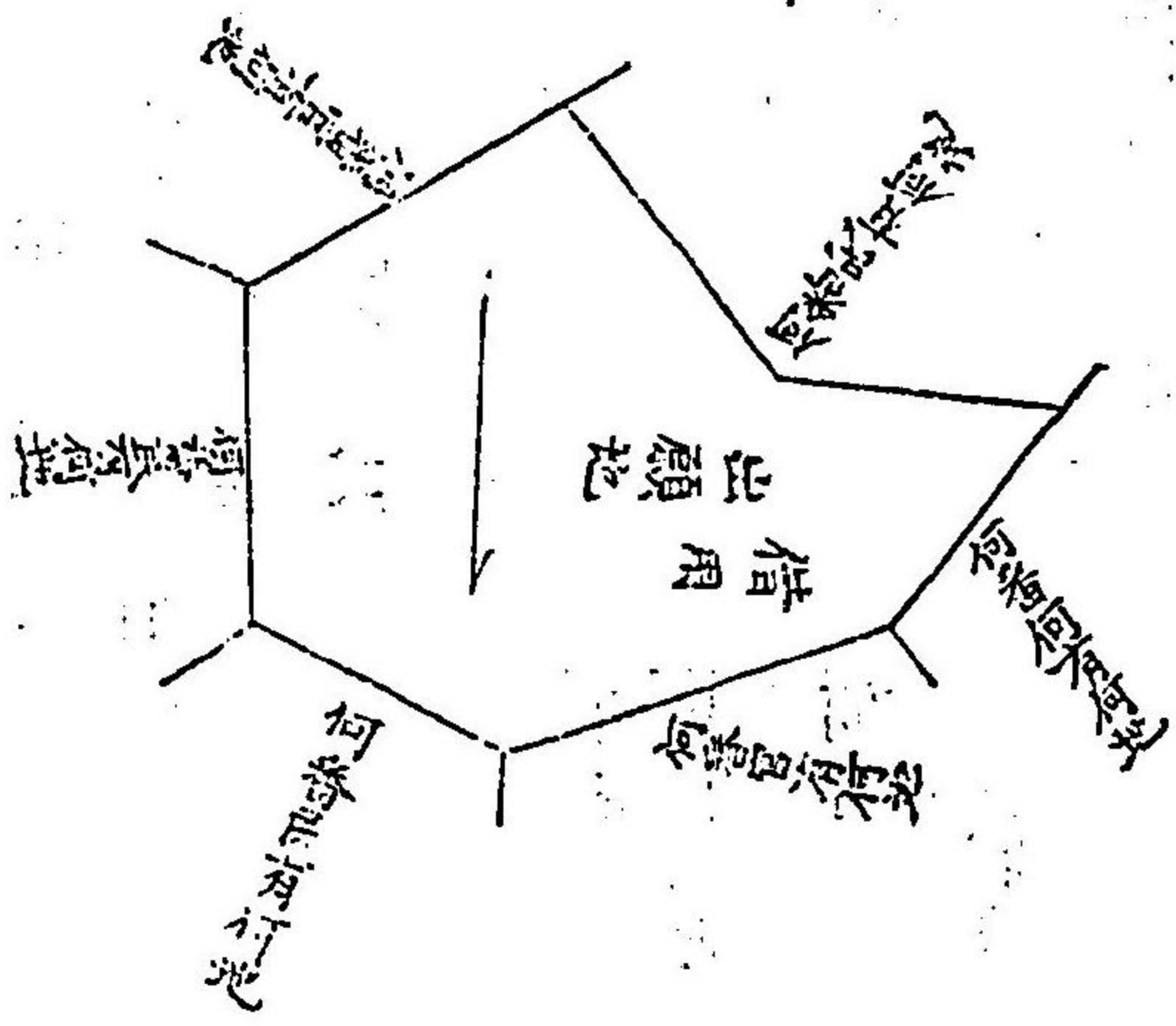
借用願人

何 某印

何郡(市)町村大字字番地

一官有土地(水面)反別(坪)何程





甲第二號樣式 (正副二通ヲ要ス)

官有土地(水面)借用繼續願

何郡(市)町村大字、字、何番地(地番)ノ設ナキモノハ何番地先ト記スヘシ)

一 官有何々地反別何程(市街地ハ坪數ヲ以テ記スヘシ)
但地上立木竹何程(立木竹ハ其種類、本數、目通、長等ヲ詳記スヘシ)
此一ヶ年借地料金何程 (但一反歩(或ハ一坪)ニ付
金何程)

借地期限 何年何月ヨリ何年間
何年何月マテ

二十八年告示第二
十二號ヲ以樣式中
改正

右ハ何々ニ使用ノ爲メ明治何年何月ヨリ全何年何月マテ借用罷在候處該土地(水面)
ト(何々事情ヲ詳記スヘシ)ニ付尙前書ノ期間繼續借用仕度尤明治二十七年十二月御
縣告示第七十六號官有土地水面貸渡規程ノ各條項ハ勿論今後發布ノ諸規則ヲモ遵
守可致且借地料金ハ御指定ノ通上納可仕候間御許可被成下度別紙圖面相添ヘ此段奉
願候也

年 月 日

住所

繼續借用人

何 某印

住所

保證人

何 某印

(水面ハ隣接地主又ハ水利關係者ノ連署ヲ要ス)

(市)町村長

何 某印

愛媛縣知事宛

甲第三號樣式

家督相續ニ付御届

何郡(市)町村大字、字、何番地(地番)ノ設ケナキモノハ何番地先ト記スヘシ)
一 官有何々地反別(坪數)何程
右ハ從來私何(續柄)某ニ於テ何々ニ使用ノ爲メ借用罷在候處全人義ハ何年何月何日
死亡(退隱)仕候ニ付何年何月何日私家督相續仕候ニ付テハ何某ヨリ何年何月何日付
ヲ以テ差出候契約ノ條件ハ爾來私ニ於テ確守履行仕候間此段御届申上候也

廿八年告示第二十
二號ヲ以テ様式中
改正

住所 住相續人 何 某印

住所 親戚(退隱者) 何 某印

住所 保証人 何 某印

(水面ハ隣接地主又ハ水利關係者ノ連署ヲ要ス)

前書ノ事實相違無之ニ付奥書候也

愛媛縣知事宛

(市)町村長 何 某印

甲第四號様式 (正副二通ヲ要ス)

官有土地(水面)借用權利換願

何郡(市)町村大字、字、何番地(地番ノ設ケナキモノハ何番地先ト記スヘシ)

一 官有何々地反別何程(市街地ハ坪數ヲ以テ記スヘシ)

但地上立木竹何程(立木竹ハ其種類、本數、目通、長等ヲ詳記スヘシ)

此一ケ年借地料金何程 但一反歩(一坪)ニ付 金何程

右官有土地(水面)ハ何某ニ於テ何々(從來使用ノ事故ヲ記スヘシ)ノ爲メ明治何年何月ヨリ何年何月マテ何年間借用罷在候處今般該地上(水面繫留)ノ物件賣買(或ハ借用權利與ノ事故ヲ詳悉スヘシ)仕度候ニ付爾來何某借用ノ權利ヲ其儘何某ニ於テ繼承ノ上契約履行仕度候間特別ノ御詮議ヲ以テ御許可被成下度此段連署ヲ以テ奉願候也

二十八年告示第二十
二號ヲ以テ何某
ノ三字削除

年月日

住所 繼承人 何 某印

住所 前借用人 何 某印

住所 保証人 何 某印

(前拜借人ト繼承人ト保証人ヲ異ニスル片ハ共ニ
連署シ前後借用人ノ保証人タルヲ肩書スヘシ)

前書ノ通出願ニ付奥書候也

愛媛縣知事宛

(市)町村長 何 某印

甲第五號様式 (正副二通ヲ要ス)

官有土地(水面)使用目換願

何(市)町村大字、字、何番地(地番ノ設ケナキモノハ何番地失ト記スヘシ)

一 官有何々地反別(坪數)何程

右ハ從來何々(從來ノ使用目ヲ記スヘシ)ニ使用ノ爲メ借用罷在候處今般何々(使用目ノ變更ヲ要スル事由ヲ詳記スヘシ)ニ付將來何々(將來ノ使用目)ニ使用仕度尤モ御許可ノ上ハ明治何年何月何日付ヲ以テ差出候契約ノ條件ハ從前ノ通履行可致候間特別ヲ以テ御許可被成下度此段奉願候也

年月日

住所

借用人 何 某印

住所

保證人 何 某印

(水面ハ隣接地主又ハ水利關係者ノ連署ヲ要ス)

前書之通出願ニ付與書候也

(市)町村長 何 某印

愛媛縣知事宛

乙第一號様式

消印

印紙 請書

二十九年告示第二十五號ヲ以テ様式中改正

何郡(市)町村大字、字、番地(地番)ノ設ケナキモノハ何番地先ト記スヘシ

一 官有何々地反別(坪數)何程

但地上立木竹何程(立木竹ハ其種類、本數、目通、長等ヲ詳記スヘシ)

此借地料一ヶ年金何程 但一反歩(一坪)ニ付 金何程

右官有土地(水面)今般何々(使用ノ目的ヲ詳記スヘシ)ノ爲メ明治何年何月ヨリ全何

年何月マテ何年間借用ノ義御許可相成候ニ付テハ明治廿七年十二月御縣告示第百七

十六號官有土地水面貸渡規程ノ各條項ハ勿論今後發布ノ諸規則ヲモ遵守シ尙借用料

金上納ニ付テハ明治廿四年三月御縣告示第四十五號官有土地森林原野收入金徵收規程ヲ遵守可致万一右等御規程ノ條項ニ違背シタルルハ直ニ御引揚ケ相成候共異議不申立ハ勿論爲メニ官廳ニ於テ損害ヲ生シタルルハ借用人ニ於テ賠償可仕候尤モ借用人負擔ノ義務ヲ怠リ候節ハ保證人ハ借用人ニ代テ義務ヲ履行可致候因テ保證人連署ヲ以テ請書差出候也

住所

借用人 何 某印

住所

保證人 何 某印

年月日

愛媛縣知事宛

乙第二號様式

消印

印紙 請書

二十九年告示第二十五號ヲ以テ様式中改正

何郡(市)町村大字、字、番地(地番)ノ設ケナキモノハ何番地先ト記スヘシ

一 官有何々地反別(坪數)何程

但地上立木竹何程(立木竹ハ其種類、本數、目通、長等ヲ詳記スヘシ)

右官有土地(水面)從來私何(續柄)某ニ於テ借用罷在候處全人義ハ明治何年何月何日

死亡(退隱)ニ付上ニ現在(水面ニ繫留)スル全人ノ財産ハ今般私ニ於テ相續仕候ニ付

テハ全人ヨリ明治何年何月何日付テ以テ差出候契約ノ條件ハ爾來私ニ於テ確守履行可致候因テ關係人一同連署ノ上更ニ請書差出候也

一 年 月 日 住所 繼承人 何 某印

住所 親戚(退隱者) 何 某印

住所 保証人 何 某印

愛媛縣知事宛

乙第三號様式

○消印

印紙 請書

何郡(市)町村大字、字、番地(地番ノ設ケナキモノハ何番地先ト記スヘシ)

一 官有何々地反別(坪數)何程

但地上立木竹何程(立木竹ハ其種類、本數、目通、長等ヲ詳記スヘシ)

右官有土地(水面)從來何某ニ於テ何々(從來使用ノ事故ヲ詳記スヘシ)ノ爲メ明治何年何月ヨリ全何年何月迄拜借中ノ處今回該地主(水面繋留)ノ物件賣買仕「又ハ該地借用權讓與仕度」候ニ付何某へ借用換ノ義御許可ヲ得候ニ付テハ何某ヨリ何年何月

二十九年告示第二十五號ヲ以テ様式中改正

二十八年告示第二十二號ヲ以テ様式中改正

何日付テ以テ差出候契約ノ條件ハ爾來何某ニ於テ確守履行可致候因テ双方及保証人連署ノ上更ニ請書差出候也

年 月 日 住所 繼承人 何 某印

住所 前借用人 何 某印

住所 保証人 何 某印

愛媛縣知事宛

訓令第五十一號 (明治廿七年十二月廿八日)

各 郡

官ニ屬スル私有ノ土地水面貸渡規程今般告示第七十六號ノ通相定メ候ニ付テハ自今右ニ基キ出願スルモノアルトキハ篤ト其願書ヲ調査シタル後進達スヘシ

前項ノ出願ニシテ若シ該規程ニ違フモノナルカ又ハ適法ノ手續ニヨラサルモノアル片ハ直ニ訂正又ハ更正セシメ意見アラハ別途副申スヘシ

官有土地水面借用願ニ對シ許可ノ指令ヲ典ヘタル片ハ右規程ノ定ムル所ニ從ヒ其請書ヲ徴シ差出スヘシ

官ニ屬スル公有私有水面埋立並ニ公有水面及河川寄洲使用出願手續

明治二十八年九月二十七日 告示第三百三十五號

第一條 官ニ屬スル公有及私有水面ノ埋立並ニ公有水面又ハ河川寄洲ノ使用ヲ請ハ

二十九年訓令第六號ヲ以テ三項中改正

ント欲スルモノハ管内在籍者ニシテ身元確實ナル保証人二名以上ヲ立テ左ノ事項ヲ
詳記シタル知事宛ノ願書ニ實地丈量圖及其周圍凡ソ一丁以内ノ地形地目等明瞭ニ摸
寫セル色分け圖面(港灣内ニ屬スルモノハ該港灣ノ全形ヲモ描出スヘシ)並ニ埋立又ハ使用方法書ヲ添ヘ地元市町村
役場及郡役所ヲ經テ提出スヘシ

水面埋立ニ屬スル分

- 一 埋立ノ位置並ニ區域
 - 一 埋立ノ目的
 - 一 埋立着手ノ期限
 - 一 埋立成功ノ期限
 - 一 素地代金(私有水面埋立ノ場合ニ限ル)
 - 一 水面又ハ河川寄洲使用ニ屬スル分
 - 一 使用ノ位置並ニ區域
 - 一 使用ノ目的
 - 一 使用ノ期限
 - 一 使用料金
- 第二條 埋立及使用ヲ爲サント欲スル場所ニシテ海面ニ屬シ又ハ其箇所河口若クハ
溝渠ノ吐口ニ接スルトキハ潮水ノ干満ニ基キ最高最低ノ深サ又ハ河川及溝渠ノ延
長河口及溝渠吐口ノ幅員并河川名等ヲ前條色分け圖面ニ明記スヘシ

第三條 埋立ノ大工事ニ屬スルモノハ埋立方法書ノ外精密ナル設計書ト實測圖トヲ
製シ之ヲ其願書ニ添付スヘシ

告示第一號 (明治三十一年一月八日)

從來本縣ニ於テ取扱來候官有山林原野ノ事項ハ總テ愛媛大林區署ヘ引繼キ候ニ付自
今以後右ニ關スル願伺届等ハ該大林區署長宛ヲ以テ當該小林區署ヘ差出スヘシ

但本文ノ手續ハ當分從前ノ規定ニ據リ提出スヘシ

告示第六十二號 (明治三十二年九月十四日)

官ニ屬スル公有水面ノ埋立使用及公有土地ノ使用等ヲ出願シ許可ヲ受ケタルトキハ
自今左ノ書式ニ倣ヒ其受書ヲ差出スヘシ

但本文ノ使用ニシテ其期限三ヶ月未滿ノモノハ此限ニアラス

(書式)

○消印
印紙

受書

明治何年何月何日付ヲ以テ官ニ屬スル公有水面埋立(使用)(又ハ公有土地使用)出願
仕候處何年何月何日愛媛縣指令内ニ第何號ヲ以テ御許可相成候ニ付テハ右御命令ノ
條項堅ク遵守可仕候由テ保証人連署ヲ以テ御請仕候也

住所

年月日	住立(使用)人	氏名	名印
	住所	氏名	名印
	保証人	氏名	名印

愛媛縣知事宛

山林原野及樹木

甲第七十四號 (明治十三年五月十七日)

自今官林接續ノ私林伐採并ニ官林内ヲ通行シテ材木運搬等ノ節ハ凡ソ其日數ヲ定メ豫テ該地「戸長役場」及ヒ「官林監守人」ヘ其旨届出ヘク此段布達候事

乙第二十九號 (明治十三年三月十六日) 各郡町村

明治七年^九本縣坤第百四號全^十坤第百三十四號八年^一坤第一號全^十坤第百六十一號舊區戸長ヘ達取消候條自今枯損木等有之節ハ「戸長」ニ於テ其譯記載至急郡役所ヘ可届出

乙第一百一號 (明治十三年九月廿八日) 各郡町村

官木等盜採ニ罹リ候節ハ其都度最寄警察署亦ハ分署交番所及ヒ本廳郡役所ヘ可届出ハ勿論ニ有之候處中ニハ警察署ヘ何等不届出向モ有之不都合候條今後ハ其都度無違

十四年甲第二十八號ヲ以テ「及ヒ官林監守人」ノ七字追加

十四年乙第七十號ヲ以テ「本廳」ノ下ヘ「郡役所」ヲ加フ

緩届出候様注意可致

甲第二號 (明治十四年一月八日)

抑山林ナルモノハ水陸生産ノ殖スル所國家經濟ノ忽ニスヘカラサル所ニシテ苟モ其制ヲ愆レハ寒暑序ヲ失ヒ水旱禍ヲ致シ之ヲ大ニシテハ全國殖産ノ道ヲ妨ケ之ヲ小ニシテハ一家需用ノ缺ヲ來スハ必然ノ勢ヒニ有之就テハ官民有ノ別ナク山林在來ノ材料ヲ愛惜シ濫伐野焚等ノ憂ヲ防クヘキハ勿論自今些少ノ閑地ト雖モ樹木植栽等ニ着手シ山林繁殖ノ道相立候様人民ニ於テモ深ク其意ヲ注シ且ツ近年諸山林ノ荒衰ニ及ヘルモノ漸次鬱蒼繁茂ニ屬セシメ候様致度官民兩様ノ爲メ冀望不啻候町村戸々互ニ相報道シテ心得違無之様可致追々相達候次第モ可有之候得共先以此旨及諭達候事

丙第五號 (明治十四年一月十八日) 各郡

官有倒木取拂方及取拂費用之儀ニ付明治十二年^{十一}本縣乙第三百六十二號ヲ以テ相達置候趣モ有之候處其道路若シクハ耕宅地中ヘ横倒候分取拂方ノ義ハ出張官ニ於テ左ノ通心得可成費用減省候様注意可致

- 一 道路ニ横倒スル官木ヲ取方附ルニハ目下行客等ノ支障アル分ニ限り其儘路傍ヘ取ヨセ置クヘシ
- 一 耕宅地ニ倒ル、モノト雖モ忽チ難捨置程ノ場合ニ無之且地主ニ於テモ之レヲ承諾スル分ハ其儘公賣スヘシ
- 一 耕宅地ニ横倒忽チ難捨置分ニシテ其儘運搬シ得ヘキモノハ別ニ伐仕成ニ及ハス其儘近傍空地等ヘ取寄セ置クヘシ

十九年勅令第五十四號ニ依リ十一年太政官達第三十二號消滅

二十年縣令第四十四號ヲ以テ一本縣「遼警罪」云々ヲ「刑法」以下二十二字ニ改ム

但道路耕宅地共其儘取除ケ難相成モノハ僅カニ取除ケ得ヘキ文ニ截斷スヘシ

丙第四百四十六號 (明治十四年十二月八日)

各 郡

明治十一年七月第三十二公達府縣官制職制中郡區長ニ於テ處分スヘキ條目第五項ニ掲載有之倒木枯木云々ハ天災ノ爲ニ轉倒シタル者及ヒ天然枯死ノ者ニ相限リ候義ニシテ其枝條若クハ樹幹ノ幾分ヲ枯凋シタル損木ノ如キハ本項ニ含蓄セサル儀ト可心得

無號 (明治十五年二月廿四日)

各郡町村

官有地損木有之候節ハ其都度所轄郡役所へ届出該郡役所ニ於テ實地檢査ノ上處分致來候處樹頭及ヒ枝葉等ノ幾分ヲ枯槁シ生育ノ見込有無ニ拘ハラズ損木ト看做シ可届出向モ間々有之夫レカ爲メ檢査上彼是手數ヲ要シ不都合ノ趣相聞ヘ右ハ元來全身腐死ノ者ニ限り可届出筈ニ有之候條實地ニ就キ右様ノ義無之様一層注意ヲ加ヘ可申

甲第十七號 (明治十八年二月二十七日)

民有ノ茅野秩場等肥饒ノ爲メ火入ト唱ヘ其枯草ヲ燒拂候ヨリ官民林延燒ノ害不勘ニ付自今右火入候節ハ必ス前以テ其四至境界筋貳間幅以上ノ火除道ヲ開設シ「戶長」へ届出「官林接續ニシテ「監守人」配置ア檢査ヲ受クヘシ若シ其手續ヲ履行セスシテ燒拂タルモノハ刑法第四百二十六條第一項ニ據リ處分セラルヘシ

乙第十六號 (明治十八年六月十日)

各郡町村

官民林ヲ問ハス非常失火等ノ節最寄人民急テ救ヒ防禦スルハ當然ノ儀ニ有之候處若

シ右等ノ節傍觀坐視之ヲ顧ミサル様ノ儀有之候テハ保護上不都合ニ候條自今地元

戶長」於テ最寄人民ヲ獎募シ防禦候様可致

丙第九十七號 (明治十八年十一月廿八日)

各 郡

縣下官林事務ノ義ハ「農商務省愛媛縣山林事務所」ニ於テ取扱候得共道路耕宅地等ハ顛倒又ハ顛倒セントスル如キ暫時モ難捨置官林木ニ於テハ追テ其取扱方順序相立候迄先從前ノ手續ニ依リ郡役所ニ於テ處分シ其旨速ニ右事務所へ通報シ該費金同時請求可致尤精々冗費相嵩サル様顛倒木ハ通行等ニ差支アラサル迄ニ取除キ顛倒セントスル者ニ在テハ其危害ヲ防禦スルニ足ルヘキ程ニ伐除處分候様注意可致

甲第六十五號 (明治十八年十二月二日)

縣下官林ニ係ル諸願伺等ノ義ニ付テハ本年甲第三百三十號ヲ以テ及布達置候處道路溝渠溜池新設變更又ハ社寺學校等建築ヲ要スル節ハ其旨先以テ當廳へ願出指令ノ上「農商務省愛媛縣山林事務所」へ申出ヘシ

訓第三七九號 (明治二十四年十月十三日)

市郡役所

本年七月農商務省令第八號ヲ以テ官有林野ノ立木又ハ木材ノ檢査及引渡シニ用ユル極印雛形及使用區別制定相成候ニ付右使用規則別紙ノ通之ヲ定ム

極印使用規則

第一條 官有林野ノ立木又ハ木材ノ檢査及引渡ニ用ユル極印ハ明治二十四年七月農商務省令第八號雛形ノ通調製シ自今左ノ區別ニ依リ使用スヘシ

十九年勅令第十八號ニ依リ十八年甲第三百三十號消滅

第二條 賣渡讓與ノ爲メ豫メ立木損木及木材ノ檢査ヲ爲シタルトキハ立木損木ハ其樹幹目通ニ第一號雛形ノ檢印及其幹脚(幹部伐採後殘存スヘキ部分)ニ第三號雛形ノ山印木材ハ其端部ニ第一號雛形ノ檢印ヲ打印スヘシ

第三條 賣渡讓與ニ依リ立木損木及木材ノ引渡ヲ爲ストキハ前條ニ依リ打印シタル檢印ノ傍ラニ尙第二號雛形ノ拂印ヲ打印スヘシ

但檢査木ノ内幾部分ノ賣渡讓與ニ依リ引渡ヲ爲ス場合ニ於テハ其殘存スヘキ分ヘハ前條ニ依リ打印シタル檢印及山印ノ傍ラニ尙山印ヲ打印スヘシ

第四條 伐採跡地ノ檢査ヲ爲シタルトキハ其伐採斷面ニ第一號雛形ノ檢印ヲ打印スヘシ

第五條 根株拂下ヲ爲シ之ヲ引渡シタルトキハ前條ニ依リ打印シタル檢印ノ傍ラニ尙第二號雛形ノ拂印ヲ打印スヘシ

第六條 雜木林等ニシテ反別ノ區畫ヲ以テ引渡ヲ爲スヘキモノハ其區界標木(風曲毎十間毎ニ之ヲ設クヘシ)ノ樹幹目通ニ第三號雛形ノ山印ヲ打印シ其數二本以上ナルトキハ該極印ノ傍ラヘ順テ逐ヒ番號ヲ付スヘシ

第七條 前條雜木林ノ伐採跡地ヲ檢査シタルトキハ區界標木ノ山印ヲ全印ヲ以テ消印スヘシ

第八條 盜誤伐木ヲ發見シタルトキハ根株及幹部其他見易キ所ニ第三號雛形ノ山印ヲ打印スヘシ

第九條 林野ノ境界標木ニ打印ヲ要スヘキ場合ニハ第三號雛形ノ山印ヲ用ユヘシ

第十條 第七條ノ消印及第九條ノ山印ハ朱肉ヲ用ヒ其他ハ黒肉ヲ用ユヘシ

第十一條 極印ヲ誤打セントキハ朱肉ノ同印ニテ消印スヘシ

但朱肉ヲ用ヒタル山印ヲ消印スルトキハ黒印ヲ用ユヘシ

告示第十號 (明治三十三年一月十三日)

不要存置國有林野處分ニ關スル事務取扱ノ爲メ愛媛大林區署觀音寺小林區署内へ林野整理局愛媛支局臨時出張所ヲ設置シ本月十六日ヨリ開廳シ其名稱管轄區域左記之通定メタル旨申牒アリタリ

一 名稱 觀音寺臨時出張所

一 管轄區域 觀音寺小林區署管内全部

山林植樹費補助規程 明治三十三年一月二十四日 縣令第七號

第一條 新ニ保安林、公有林、共有林ニ樹苗ノ植栽ヲ爲スモノハ本規程ニ依リ其費用ヲ補助ス

但補助ハ植樹必要ノ緩急ニ依リテ取捨スルモノトス

第二條 補助費ヲ下付スヘキ樹種ハ左ノ七種トス

扁柏、杉、樟、樺、桐、櫻、松

第三條 補助費ハ左ノ標準ニ依リ事業ノ難易精粗及苗木ノ良否ヲ參酌シテ之ヲ下付ス

扁柏 一千本ニ付 金貳圓五拾錢以內

杉 全 金壹圓五拾錢以內

松、檜、桐、櫻、樺 全 參圓以內

但保安林内ノ補防造林ニ係ルモノハ本條最高補助額ノ三倍ニ滿ツル迄増加スル

コトアルヘシ

第四條 左ノ各項ニ該當スルモノハ補助費ヲ下付セス

一 公有林又ハ共有林ニシテ一年一ヶ所ノ植栽面積壹町歩ニ滿タサルモノ

二 公有林又ハ共有林ニシテ一ヶ年一ヶ所ノ植栽苗木數扁柏、杉、松ハ三千本樟

櫻、桐ハ壹千本ニ滿タサルモノ

第五條 保安林ヲ除ク外補助ノ限度ハ面積壹町歩ニ付扁柏杉松ハ九千本樟、櫻、

桐ハ三千本迄トス此割合ヲ超過シタル苗木數ニ對シテハ補助ヲ爲サス

第六條 植樹費下附ノ出願金額カ當該年度ノ豫算金額ニ超過シタルトキハ左ノ順序

ニヨリ補助費ヲ下附ス

第一 保安林

第二 公有林又ハ共有林

第七條 植樹費ノ下附ヲ請ント欲スルモノハ左ノ第一號書式ノ願書ニ第二號書式ノ

作業明細書圖面及左記ノ書類ヲ添付シ所轄町村長及郡長ヲ經テ出願スヘシ

一 豫算ニ關スル當該團體ノ決議書及費用徵收方法書

三十三年縣令第七
十一號ニテ第七條
中改正

一 將來ノ保護及看守方法ニ關スル書類

第八條 補助費ハ植栽後實地檢査ノ上下附スヘキニ付植栽後七日以內ニ第三號書式

ニ依リ届出ツヘシ

第九條 前條檢査ノ際植栽方法不充分ナリト認ムルトキハ之カ改良ヲ命スルコトア

ルヘシ若シ應セサルモノハ補助費ヲ下附セス

第十條 植樹方法ノ良好ニシテ他ノ模範タルヘキモノハ第三條ノ補助金額ノ外特ニ

該補助金額以內ノ賞金ヲ下附スルコトアルヘシ

第十一條 本規程ニ依リ補助費ヲ受ケタルモノニシテ植付ノ目的ニ反スル人所爲ア

リタルトキハ既ニ下附シタル補助費ノ還付ヲ命スルコトアルヘシ

第十二條 本規程ハ明治三十三年四月一日ヨリ施行ス

第一號書式

植樹補助費下附願

郡町村大字字地番山林反別何程

何々林

一 植樹反別何程

此植付 杉 何本

何 何本 但何年生

右ハ何々林ニ有之候處何年度内ニ於テ前記ノ通用材林又ハ薪炭林養生ノ目的ヲ以テ

樹木植付致度候條何年何月縣令第何號ニ依リ植樹補助費下付相成度別紙圖面作業明細書及何々相添へ此段相願候也

何郡町村大字何番戸
所有者又ハ共有者總代
何ノ誰印

年 月 日

愛媛縣知事宛

第二號書式

作業明細書

植樹反別何程

植付人 何ノ誰印

内譯

郡	村	大字	字	樹種	植付面積	植付苗數	苗價		植付及地拵入夫		費金合計	付記
							總價	單價	人員	一總費金 一人費金		

備考
一 植付面積、植付苗數、苗價、植付人夫等ハ總テ豫算ノ員數ヲ記入スヘシ

一 付記欄内ニハ苗木ノ產地、苗ノ年齢、地拵ノ方法其他參考上必要ト認ムル事項ヲ記入スヘシ
第三號書式

造林事業卒了届

郡村大字字

一 植付面積何程

但 杉 何程 扁柏 何程

右ハ何年月日指令第何號ヲ以テ愛媛縣令第何號植樹費補助規程ニ依リ補助費下附ノ義御指令相成候處何月日植付事業卒了候間此段御届候也

何郡何村大字何番戸

何ノ誰印

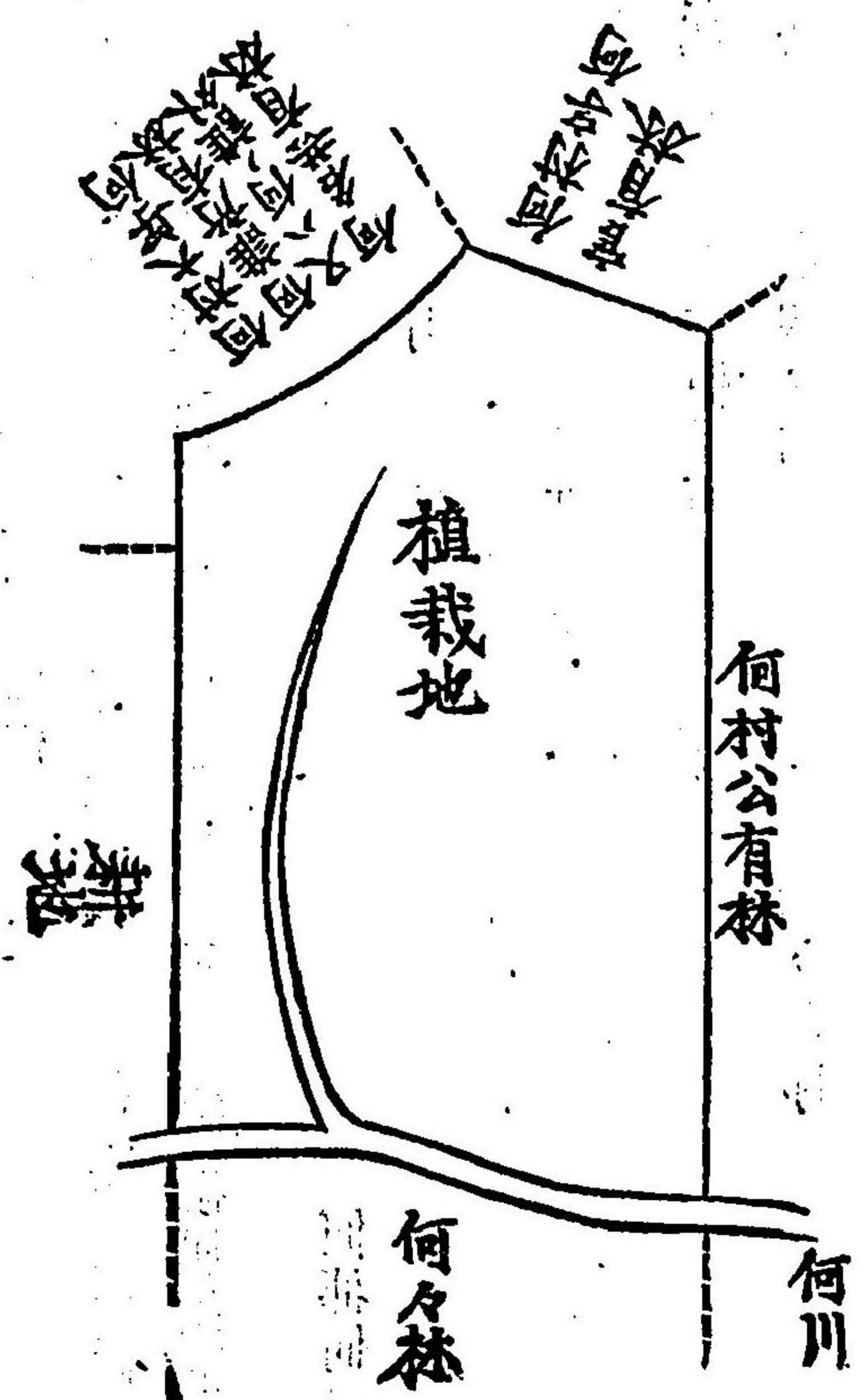
年 月 日

愛媛縣知事宛

何郡何町村大字何字何 地 主

何々林反別何程ノ内 何ノ誰印

一 植樹反別何程



本圖ハ單ニ圖式ヲ示シタルモノナルヲ以テ實地ノ勢狀ニ據リ適實ノ圖ヲ製シ可成植樹必要ノ緩急ヲ見ルノ便ニ供スルヲ要ス
告示第七十七號 (明治三十三年六月五日)
不用存置國有林野處分ニ關スル事務取扱ノ爲メ内子臨時出張所ヲ内子小林區署内へ設置シ本月十五日ヨリ全小林區署ノ管轄區域ヲ以テ其管轄區域トシ事務取扱開始ノ旨其筋ヨリ通知アリタリ

森林法施行手續 明治三十三年七月二十八日 縣令第六十八號

- 第一條 森林開墾并保安林ニ於ケル樹木ノ斫伐土石切芝ノ採取、樹根ノ採掘及牛馬ノ放牧ヲ爲サントスル者ハ第一號乃至第五號書式ニ依リ常廳ニ願出許可ヲ受クヘシ前項ニ依リ許可ヲ受ケタル事項ヲ變更セントスルトキハ更ニ願出許可ヲ受クヘシ
- 第二條 保安林編入又ハ解除ノ申請ハ第六號第七號但書式ニ依ルヘシ
- 第三條 保安林ノ施業ハ特ニ命令アルモノ、外ハ左ノ各號ニ準據スヘシ
- 一 一ヶ所(編入調書ノ一筆チ一ヶ所トス)毎ニ施業スヘシ
 - 但保安林ノ種類同一ニシテ所有者同一ナルカ若クハ所有者異ナルモ各所有者合意ニテ同一事業ヲ爲サントスル場合ニ於テ保安上ノ目的ヲ害セント認ムルトキハ二ヶ所以上ノ保安林ヲ併合シテ一施業ヲ爲スコトヲ得
 - 二 斫伐法ハ擇伐又ハ群成擇伐トスヘシ
 - 三 毎年ノ擇伐ハ區域ハ立木地全面積ヲ輪伐齡ヲ以テ除シタル高ノ三倍ヨリ小ナルヲ得ス
 - 四 擇伐又ハ群成擇伐面積(斫伐スヘキ立木ノ占領面積)ハ立木地全面積ヲ輪伐齡ヲ以テ除シ得タル高ノ五分ノ四ヲ超ユルコトヲ得ス
 - 群成擇伐ハ可成個所ヲ増シニヶ所ノ面積ハカメテ狹少ナラシムヘシ
 - 五 輪伐齡ハ左ノ標準ニ據ルヘシ
- 一 矮林 十五年以上

一 喬林 六十年以上
 一 竹林 三年以上
 一 中林ニアリテハ上木ハ喬林ノ輪伐齡下木ハ矮林ノ輪伐齡
 第四條 切芝ノ採取ハ幅一尺以内トシ其間隔ハ少ナクトモ幅二尺以上ヲ保タシムヘシ
 但傾斜地ニアリテハ水平ニ採取スルヲ要ス
 第五條 牛馬ノ放牧ハ放牧地區域外ニ逸出セサル爲メ山脊溪谷等ヲ以テ境界トシ又ハ柵柵ノ類ヲ設クヘシ
 第六條 公共團體ヨリ提出スル申請書又ハ願書ニハ當該會議ノ決議録謄本ヲ添付ス可シ
 第七條 本則ニ據リ提出スル申請書願書ハ總テ所在町村役場及市郡役所ヲ經由スヘシ
 (第一號書式)

森林開墾願

所在	郡、市、町、村、大字、字地番
所有者	郡市町村大字字何番戸 何某
山林全段別	何町段畝歩

地價	何圓、錢厘
開墾段別	何町段畝歩
開墾段別地價	何圓、錢厘
現況	立木作種類大小疎密等及地勢地質概要
境界	東……西……南……北……
目的ノ地目	田、畑、宅地、道路等
成功期限	許可ノ日ヨリ何ヶ月間

右開墾致度ニ付御許可相成度圖面添付此段相願候也
 年 月 日

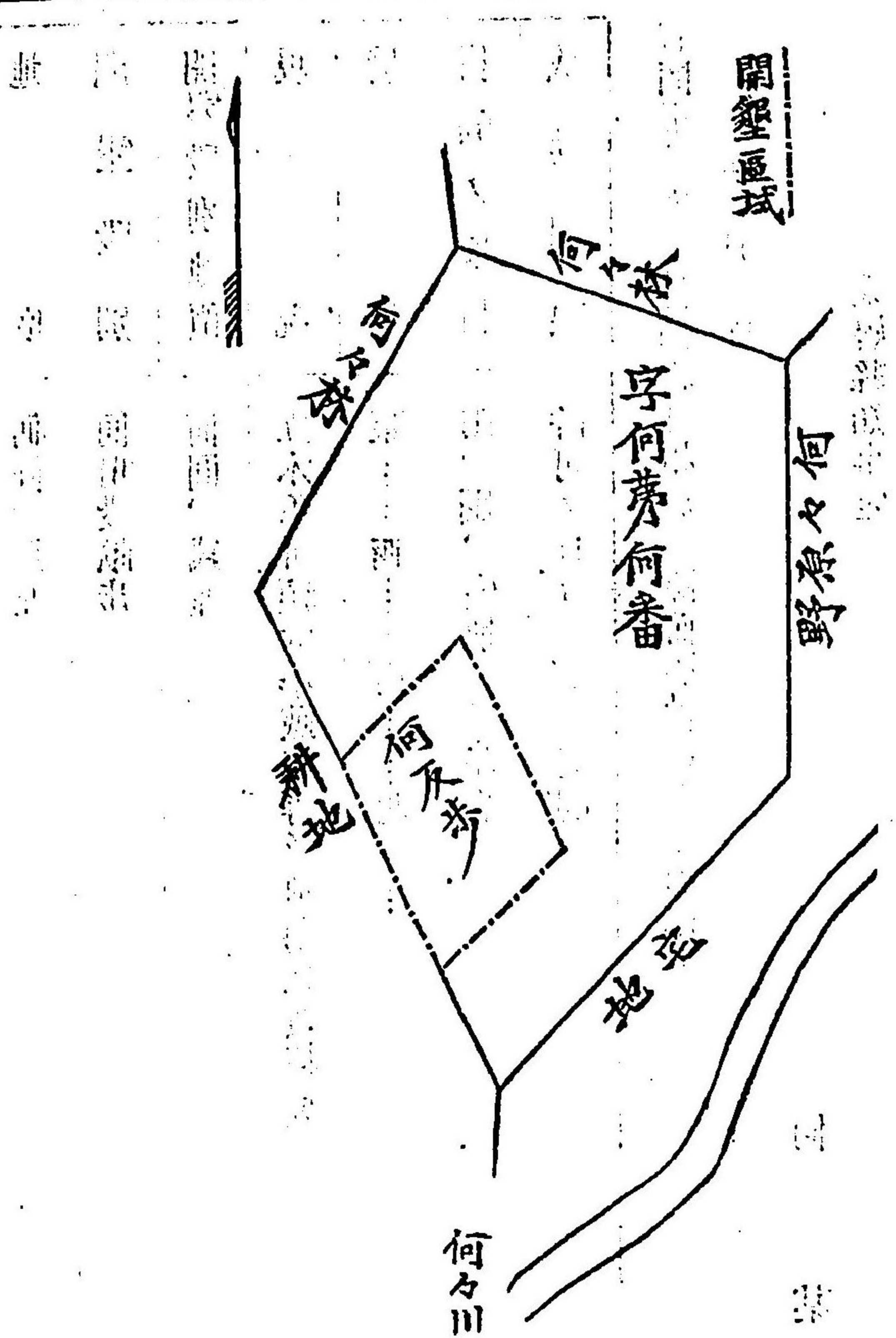
愛媛縣知事宛

何 某 印

備考

- 一 字地番ノ異ナル毎ニ列記スヘシ
- 一 圖面ニハ開墾個處並ニ四至隣接地ハ地目毎ニ色分チナスヘシ

(第一號書式附屬圖)



(第二號書式)

保安林土石(切芝)採取願

保安林種類	水源涵養保安林又ハ何々
所在地	何郡市町村大字字地番
全面積	何町反畝歩
採取地面積	何反畝歩
採取物種類	花崗石、陶土等
採取物收量	何坪又ハ何立方尺
区域内現況	立木竹種類大小疎密等及地勢地質ノ概要

今般町々ノ爲メ何年月日ヨリ何年月日迄石材(切芝)採取致度候ニ付御許可相成度圖面相添へ此段相願候也

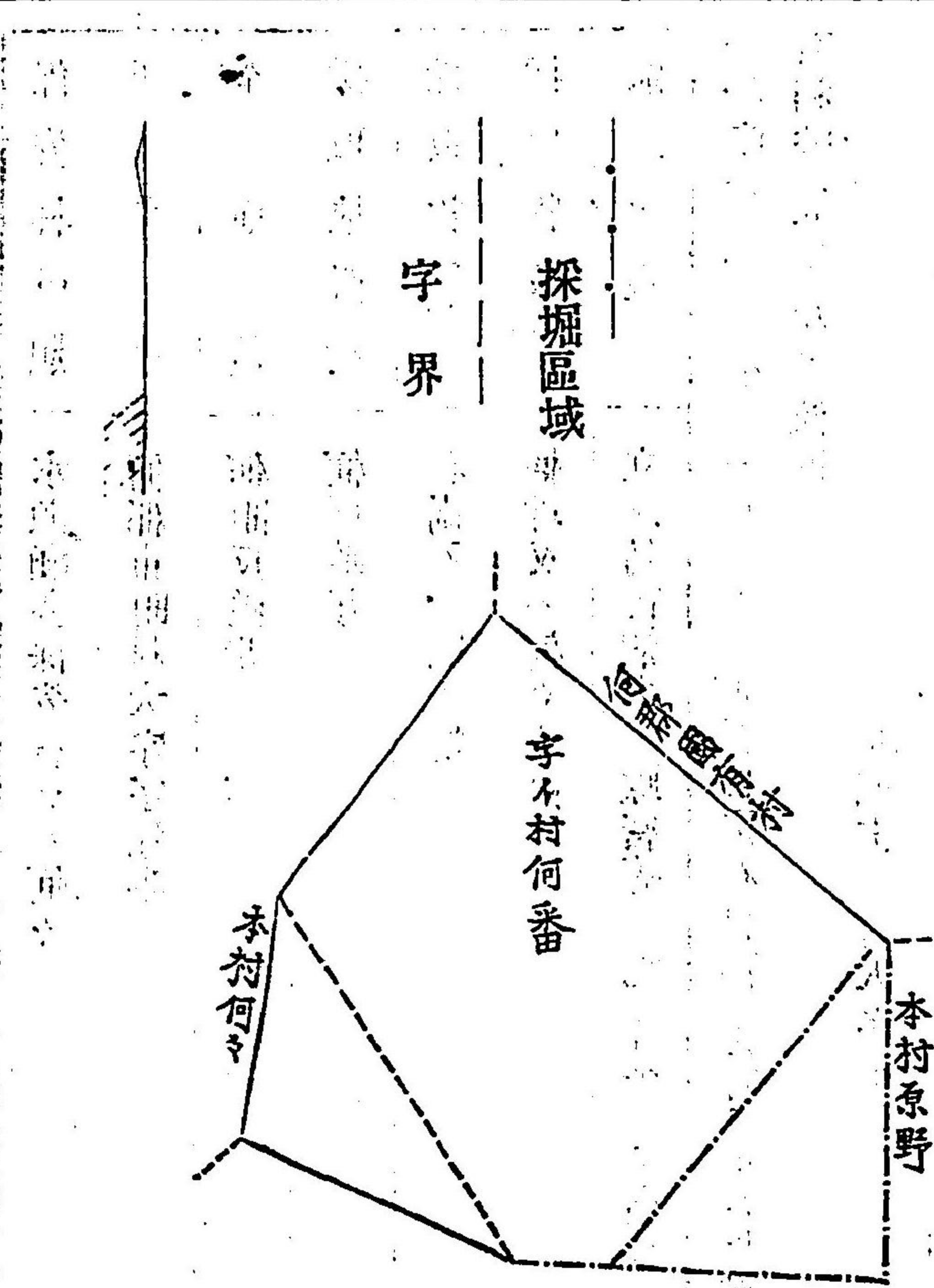
年月日

愛媛縣知事宛

何郡市町村大字番戸

何 某 印

(第二號書式附屬圖)



(第三號書式)

保安林樹根採掘願

保安林種類	水源涵養保安林又ハ何々
所在地	何郡市町村大字字地番
全面積	何町段畝歩
採掘地面積	何反畝歩
區域内現況	林木種類大小疎密等地質地勢ノ概要
樹根數	何株但シ徑大凡ソ何尺ヨリ何尺ニ至ル
跡地施業	埋没ノ上何樹苗植栽又ハ何々

今般何々ノ爲メ何年月日ヨリ何年月日迄樹根採掘致度候ニ付御許可相成度別紙圖面
相添此段相願候也

年 月 日

何郡市町村大字番戸

何 某

印

愛媛縣知事宛

備考 圖面ハ第六號書式附屬圖式ニ依ル

(第四號書式)

保安林内牛(馬)放牧願

保安林種類	水源涵養保安林又ハ何々
所在地	何郡市町村大字地番
全面積	何町反畝歩
放牧地面積	何町反畝歩
放牧區域境界	東ハ峯通り西ヨリ南ハ何々川北ハ木柵ヲ設置ス等
区域内現況	立木竹ノ種類大小疎密等地勢地質ノ概要
放牧畜種及頭數	馬何百頭
放牧期間	何年月ヨリ

今般牛(馬)放牧致度候ニ付御許可相成度別紙圖面添付此段相願候也

年 月 日

愛媛縣知事宛

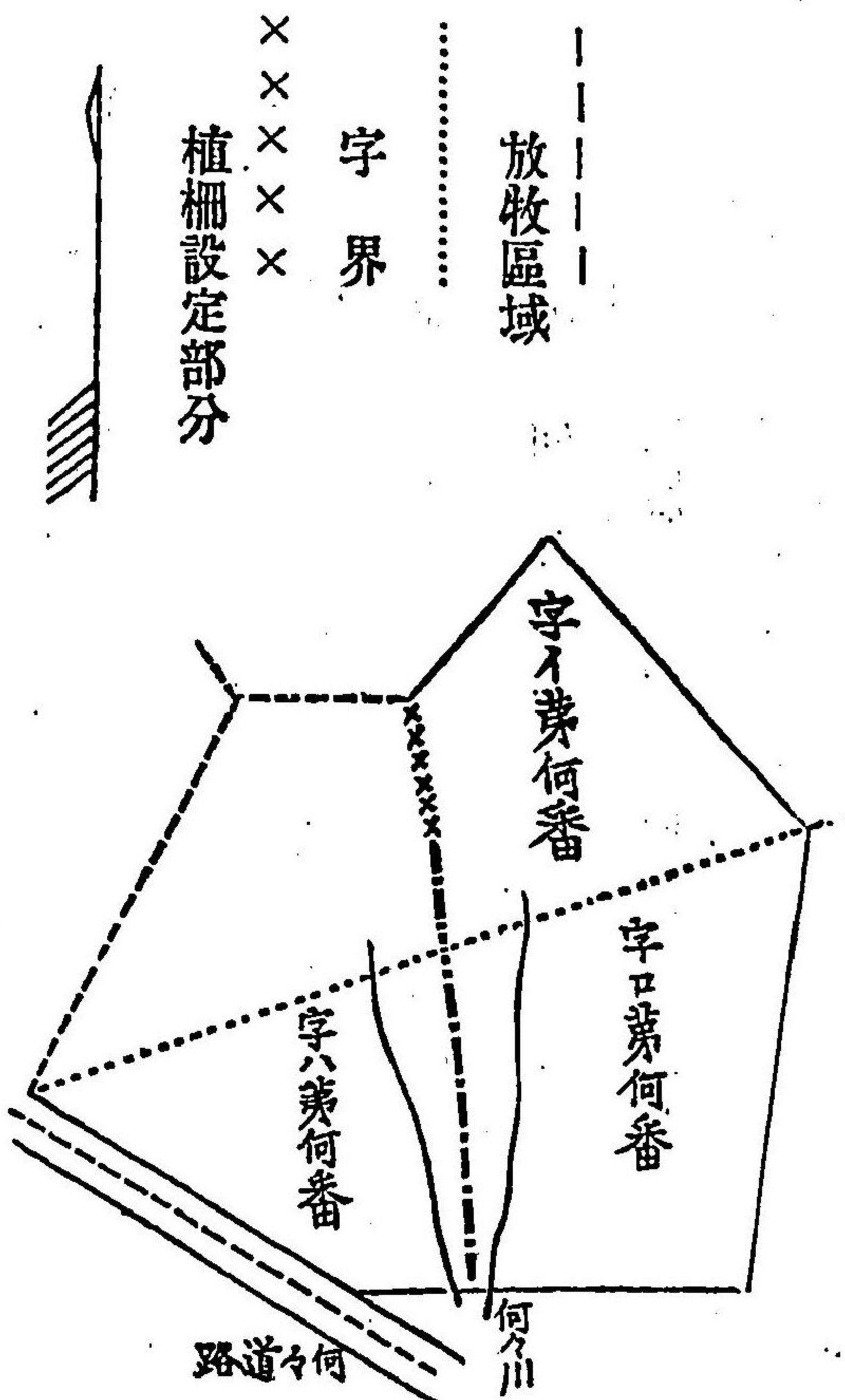
何郡市町村番戸

何

某

印

(第四號書式附屬圖)



(第五號書式)

保安林樹木斫伐願
何郡市町村大字字地番
何々保安林
一 反別何町反畝歩

右保安林ニ於テ何年月ヨリ何年月迄別紙作業書之通り擇伐(群成擇伐)(手入間伐)
(被害竹木斫伐)仕度候間御許可相成度圖面相添へ此段相願候也

年 月 日
 愛媛縣知事宛
 何郡市町村大字何番戸
 林地主 何
 某 印
 保安林樹木斫伐明細書

所在	何郡市町村大字字地番
境界	東……西……南……北
全面積	何町反畝步
立木地全面積	何町反畝步
樹種	杉何分松何分雜木何分等
樹齡	何何十年乃至何十年生(樹種毎ニ區別)
輪伐齡	何年
輪伐樹齡	杉何年生何分何年生何分等
擇伐	何反畝步
面積	何反畝步

群成擇伐	面積	何反畝步
	箇所	何箇所
手入間伐	圖面何々ノ部ニ於テ杉何年生密立ニ付一反步何本ツ、ナ間伐ス	
被害木斫伐	圖面何々ノ部ニ於テ何々樹風損木目通廻リ何尺迄何本ヲ研伐ス	
播殖法	伐採跡地ハ何々樹ノ自然生ヲ撫育シ若クハ何々苗木ヲ植栽ス	
作業期間	斫伐ハ何月日ヨリ何月日迄何十日間ニ之ヲ行フ伐採跡植付ハ何月日ヨリ何月日迄何日間ニ之ヲ行フ	

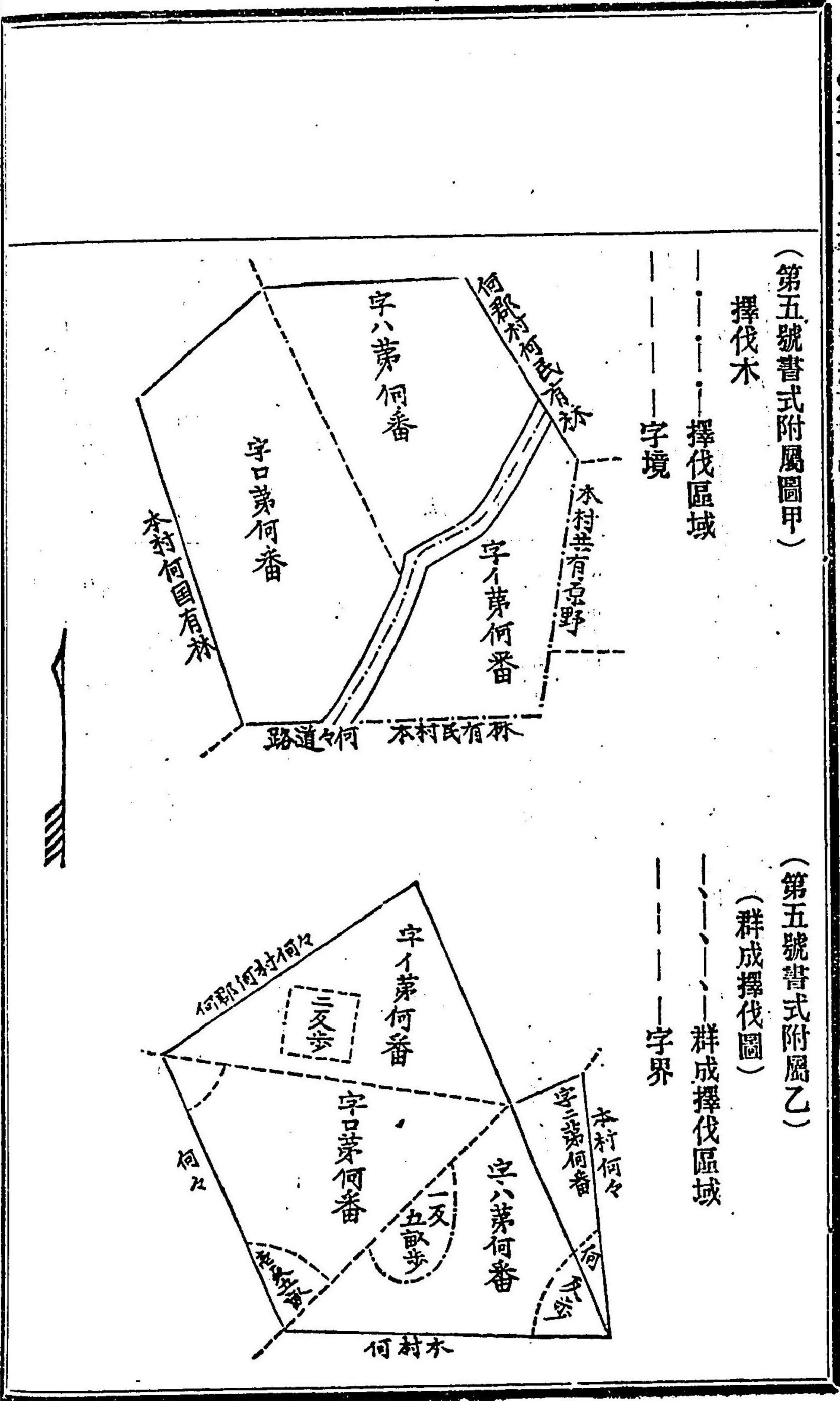
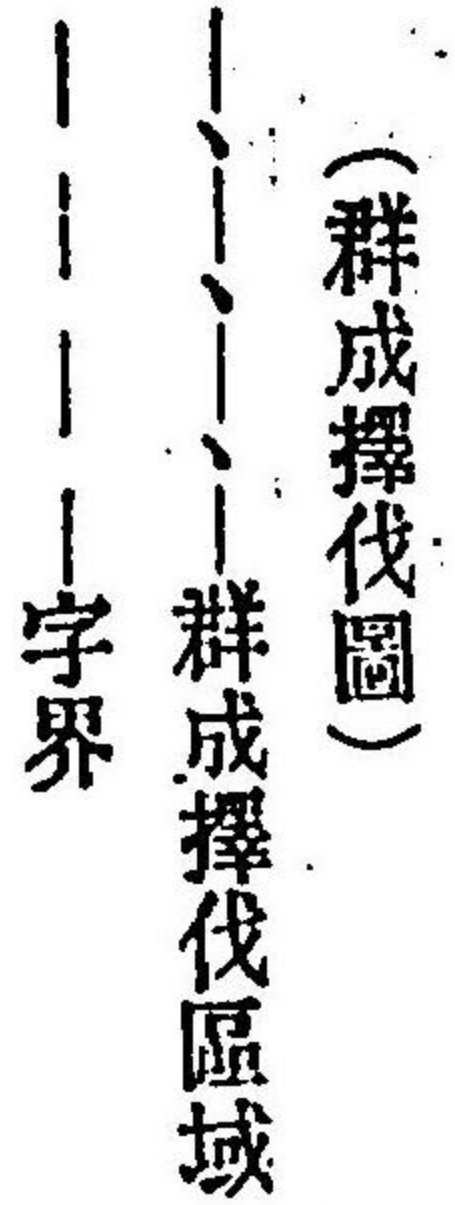
備考

中林ノ樹木斫伐ノ場合ハ第五欄ヨリ第八欄迄上木ト下木トノ内譯ヲ記スヘシ
 圖面ニハ保安林全部ヲ示シ斫伐スヘキ部分ヲ明記スヘシ

(第五號書式附屬圖甲)



(第五號書式附屬圖乙)



(第六號書式)

保安林編入申請書

何國郡市町村大字地番

一 民(國)有林(又ハ何々)何町段歩

内段別ノ申請ニ係ルモノハ左ノ如ク記スヘシ

内

段別何町段歩

何郡市町村大字

所有主 何

某

右民(國)有林(又ハ何々)ノ儀ハ何々(保安林へ編入ヲ要スル理由)ニ付何々保安林へ編入相成度別紙保安林編入調書并ニ圖面相添此段申請候也

明治 年 月 日

何郡市町村大字

申請者 何

某

印

備考

愛媛縣知事宛

一 字地番ノ異ナル毎ニ列記スヘシ

一 臺帳反別ト實測反別ト相違スル片ハ臺帳反別ハ肩書トシテ實測反別ハ親書トス

- ヘシ
- 一 附屬圖面ニハ左ノ各項ヲ明示スヘシ
 - 一 國郡村大字字(林名トモ)地番
 - 一 申請個處及ヒ其附近ノ地形
 - 一 申請個處ニ於ケル林況及地物ノ配置
 - 一 四至境界并隣接地ノ種類
 - 一 方位
 - 一 縮尺

保安林編入調書

所在 地	何府縣何郡市何町村大字何字何番何山又ハ何林
所有者住所氏名	何國何縣何郡市何町村大字何番地何ノ某
申請者住所氏名	何國何縣何郡市何町村大字何番地何ノ某
全 面 積	百十五町五反步
保安林編入面積	七十五町步
現 保安林地價	貳百參拾圓

傾 斜	平均凡三十度
土 性	上層ハ埴質壤土(埴土埴土質土壤土砂質壤土砂土)ニシテ砂及礫ヲ混ス深サ六寸次 ハ砂質粘土上層砂層及礫層ニシテ其合計深サ二尺基岩ハ綠岩ニシテ所々ニ露出ス
地 表	落葉朽土少ナク稍乾燥ニシテ灌木及雜草疎生シ苔蘚ハ谿畔 ニ少許ヲ見ルノミ
境 界	東ハ某所有ノ無立木地ナル山林南ハ何村共有秣場西及北ハ 官有原野ニ接ス
林 木 種	檜六分花柏四分
林 齡	五十年乃至七十年生ヲ主トシ間々十二三年生ノモノヲ混ス
疎 密	疎(最密密中庸疎最疎)ニシテ一町步平均三百本日光殆ント 林地ニ注射ス
慣行ノ伐期	八九十年
雜 產 物	蔬菜、落葉、下草等少許
慣行 施業	需用ヲ俟テ擇伐ス平均一箇年全面積ヲ伐採量千四百尺貫ニ シテ空隙ニハ檜苗ヲ補植ス
被害ノ狀況	良樹ノ伐採過量ナルカ故ニ林相亦昔日ノ觀ナク谿水著シク 減少シ小雨ニモ土砂ヲ流シテ混濁ス
編入ノ事由	水源涵養土砂扞止ニ必要ノ森林ト認

關係區域	施業法				
	保安林種類	伐採法 又ハ禁伐	輪伐齡	伐採面積	雜產物ノ採否
何村何村二箇村ノ水田灌溉ニ影響シ其段別凡何町歩ナリ	水源涵養林	擇伐	百年	五段歩	落葉ノ採收ノミヲ許ス 自然生ヲ撫育シ且ツ勉メテ檜ヲ補植シ速カニ密林トナスヲ要ス 適宜灌木ヲ刈除シテ稚樹ノ生育ヲ保護シ且今後何年間ニ若干ノ間伐ヲ許ス 砂防ノ爲メ積苗工ノ施行ヲ要ス 野火ノ延焼ヲ防クニ注意シ豫メ周圍ニ巾五間以上ノ防火線ヲ設ケシム

(第七號書式)

保安林解除申請書

何郡市町村大字字地番

一 民(國)有林(又ハ何々)何町反畝歩
 内 段別解除ノ申請ニ係ルモノハ左ノ如ク記スヘシ
 内
 段別何町段畝歩
 何郡市町村大字
 所有者 何 某

右民(國)有林ハ明治何年月日何々保安林へ編入相成候處何々(解除ヲ要スル事由ヲ記スヘシ)ニ付保安林解除相成度別紙保安林解除調書并ニ圖面添付此段申請候也

年 月 日

何郡市町村大字
 申請者 何

某 印

愛媛縣知事宛

備考

編入申請書備考ニ同シ

保安林解除調書

保安林種類 水源涵養林(又ハ何々)

所在 地

所有者住所氏名

申請者住所氏名

現況		現況								
伐採法又ハ禁伐	疎密	林齡	林木種	境界	地表面	土性	傾斜	保安林地價	保安林解除面積	全面積
擇伐										

備考 記載例ハ保安林編入調査ニ倣フヘシ

何郡市町村大字字何
民(國)有林
面積
何拾何町段畝歩

(第六號書式附屬圖第七號)



縮尺 1/2000

備考

- 一 圖面用紙ハ可成摺摺引美濃紙半片一枚及二枚繼キノ三種各一葉ヲ以テ全紙トスヘシ
- 一 縮尺ハ可成千分ノ一、二千分ノ一及五千分ノ一ノ三種中ニ就キ撰ムヘシ

堤塘溝渠及河川

明治九年坤第四十三號ハ其當時限リノ者ニ付掲載セス

坤第九十四號 (明治九年七月二十二日)

各區々戸長

本年坤第四十三號ヲ以テ河港道路堤防當春季八年分後半期ニ當ル即チ營繕目論見金高一九年一月ヨリ同月迄トス周歲甲午年七月ヨリ乙午年六月マテテ甲午年一週歲トス定額ニ超過候ニ付一應内務省へ申稟及フヘキ旨概算ヲ以テ相達置猶精算ヲ遂ケ候處各郡村營繕目論見高ノ内其官費ニ該ルモノ總計金壹萬七千〇六拾八圓七拾六錢七厘トス而シテ明治八年分八年七月ヨリ定額金壹萬貳千〇六拾六圓ノ内前半期中八年七月ヨリニ遺拂ヒタル金高五千參百八拾四圓八拾貳錢八厘ヲ除キ残り金高六千六百八拾壹圓拾七錢貳厘トス之ヲ目論見官費金高ニ比較スレハ金壹萬〇參百八拾七圓五拾九錢五厘ノ不足アリ因テ不足金ノ分別途下附コレアテ度旨内務省へ具狀及ヒ候處別途下渡ノ義ハ國費多端ノ際ニ付難開屆候得共事情無餘儀相聞候ニ付金六千〇參拾參圓一週歲定額ノ半數トス當九年七月後經費金ノ内ニ以繰上ケ下渡候條事實難開箇所ノミ修繕差加ヘ精算ノ義ハ九年七月後經費金ノ内ニ以繰上ケ下渡候條事實アリ就テハ再應檢査ノ上更ニ其緩急ヲ較リ其最モ急者ヲ先ニ撰ミ修繕可申付筈ニ候得共各郡村共孰レモ聞キ難キ事情ハ同一儀ニ可有之且再檢査ノ爲メ時日遷延候テハ其時期ヲ失ヒ不都合抄ナカラサルヘキ旨此度限リ難宜ヲ以テ八年分經費殘金六千六百八拾壹圓拾七錢貳厘ト此度九年七月後經費金ノ内ヨリ繰上ケ下付相成ルルキ金高六千〇參拾參圓トノ合計金壹萬貳千七百拾四圓拾七錢貳厘ヲ以テ當春日論見

十三年布告第四十八號ヲ以テ地方稅ヲ以テ支辨スヘキ土木費中官費下渡金ヲ廢ス
十二年乙第二十九號ヲ以テ可致ノ下二十三字削除

官費金高壹萬七千〇六拾八圓七拾六錢七厘ニ割リ付官費金高百圓ニ付金七拾四圓四拾八錢七厘毛位以下切捨ツ、可下渡候條此旨相心得各郡村共土工落成候ハ、金員受取方可申出候尤本年坤第四十三號ヲ以テ相達候如ク昨八年九月全國一般土工經費定額節減改正相成此度下附相成ルヘキ經費金六千〇參拾參圓ノ分ト雖凡別途下附アリシニ非ス固ヨリ九年分經費ノ内ヨリ繰上ケ下附コレアリシ儀ニ付以後ノ經費金是迄ノ通ニハ難下渡都合ニ候條當九年七月以後ハ從前三等營繕箇所ニ當ル溜池井關用惡水路及ヒ樋類等ニ至テハ新規ハ固ヨリ修繕共渾テ官費ヲ仰カス皆民費ヲ以テ取營ムヘク候尤皆民費ト雖凡新築ニテ土地變換コレアル分ハ其都度願出指令濟ノ上着手可致儀ト可相心得

無號 (明治九年十月三十日)

「第十六大區」區戸長

喜多宇和兩郡ヲ流通セル肱川筋筏流出ノ儀從來長幅之定度無之ヨリ最大ノ筏ヲ流シ動モスレハ堤防橋梁ニ衝突損傷致候義有之趣ニ付今後右川筋流出ノ筏ハ左ノ定度ヲ越ヘサル様可爲致萬一定度ヲ餘ル筏ヲ作り流運セシモノ及見聞候ハ、相當ノ可及處分候條心得違無之様區内無洩可申聞

竹木筏長幅定度左ノ如シ

- 一 壹間モノナレハ 八棚以下 此長八間トス 幅六尺
- 一 二間モノナレハ 四棚以下 此長幅右同シ
- 一 四間モノナレハ 二棚以下 此長幅右同シ

但一柵下ハ筏ヲ編成セシメ繋キナ云フ尤九木竿橋ノ類モ本條ニ準ス
 丁第七十一號 (明治十年八月十日) 第八大區ヨリ第二十一區ヲテ
 第十四大區第十九大區ヲ除ク 各區「區戶長」
 從前官民合力箇所ニ當ル溜池井堰用惡水路及ヒ樋類新規ハ勿論修繕共渾テ官費ヲ不
 仰皆民費ヲ以可取賄旨明治九年七月坤第九十四號ヲ以相達置候處右樋類之内海岸堤
 坊ニ設置セル門樋ニシテ内部ノ惡水ヲ吐キ外部ノ浸潮ヲ防キ此ノ門樋アルカ爲ニ始
 テ堤坊ノ用ナスカ如キハ其實地ニ應シ詮議ノ上當分從前之通官費支給候條此段相達
 候事
 甲第百三號 (明治十六年六月二十七日)
 本年三月甲第五十三號ヲ以テ河川へ水門又ハ堰及埋樋等新規取設之義ニ付及布達候處
 尙從來慣行アリテ現ニ設置アルモノト雖トモ其有形變更(水道水門及埋樋ヲ石造又ハ陶器ニ
 間數ヲ變スル等並テ仕
 樣ノ變更スルヲ云フ)スル場合ニ於テハ詳細ナル仕様帳及明瞭ノ圖面相添前以許可ヲ受
 グヘシ
 甲第四十一號 (明治十九年三月廿三日)
 官有ノ河敷溝敷河川寄洲川沿地等ハ自今拂下又ハ貸下ナ許サズ從前貸下許可ノモノ
 ハ滿期限返地スヘシ
 但諸興行等ノ爲メ臨時貸下日數七
 日以内其他物揚場等公益上ニ使用スルモノ及ヒ熟田畑
 ノ分貸下ノ義ハ本文ノ限ニアラス尤右借地出願ノ節ハ客年甲第百三十五號布達ニ
 準據スヘシ
 達乙第五號 (明治十九年三月廿四日)

川面并溝渠上使用料金ノ義ハ是迄第二部收入トシテ上納致來候處今般縣第五號ヲ以
 テ及公布候ニ付自今右區別ニ據リ其修繕費地方稅負擔ニ係ルモノハ地方稅雜收入ト
 シテ上納可致町村費及自費負擔ニ係ルモノハ郡役所へ徵收シ請求ニ據リ下渡スヘシ
 縣令第五號 (明治十九年八月廿五日)
 川面並溝渠上使用料金ノ義ハ本年度ヨリ其个所堤防及溝渠修繕費地方稅負擔ニ係ル
 モノハ地方稅雜收入ニ組入町村費又ハ自費負擔ニ係ルモノハ其費用支出ノ廉へ下渡
 修繕費ニ充ツヘク候條町村費及自費負擔ニ係ル分ハ工事着手ノ節仕用目論見帳相添
 所轄郡役所へ下渡ノ義願出ヘシ
 但連帶支辨ニ係ルモノハ其主擔ニ屬スヘキ義ト心得ヘシ
 訓令第六十七號 (明治二十四年六月廿六日) 郡市町村
 地盤ノ官有ニシテ市町村費ノ負擔ニ屬スル堤塘道路並木敷ノ使用ハ自今其費用ヲ負
 擔スル市町村ニ於テ縣廳ノ認可ヲ得テ之ヲ處分スヘシ
 前項堤塘道路並木敷使用料及堤塘道路用惡水路土居敷等ニ屬スル竹木其他ノ收益ハ
 其費用ヲ負擔スル市町村ノ收入ニ屬スヘシ
 地盤ノ市町村有ニ屬スル堤塘ノ使用及堤塘ヨリ生スル收益等ハ市町村ノ管理タルヘ
 シ
 告示第三十二號 (明治廿八年二月十四日)
 地盤ノ官有ニ屬シ其費用地方稅ノ負擔ニ掛ル堤上堤腹道路並木敷ヲ使用センコトヲ

請ハント欲スル者ハ障害ナキ場所ニ限り相當使用料ヲ徵收シ五ヶ年以内ノ年限ヲ以テ許可スルコトアルヘシ
前項ニ據リ差出ス願書ニハ使用方法書使用年限及相當料金ノ見込ヲ付シ身元確實ナル保証人二名以上ヲ立テ使用箇所ハ勿論其近傍地景等明瞭ナル色分ケ圖面ヲ添ユヘシ

但町村若クハ部落等團體使用ノ出願ニ掛ルモノハ保証人ヲ要セス
訓令第十一號 (明治廿八年二月廿三日) 市町村

本年二月告示第三十二號ニ依リ堤上堤服並木敷使用ヲ出願スル者アルトキハ地元市町村長ニ於テ廿三年十一月本縣訓令第九十五號ノ書式ニ倣ヒ使用料取調書添付シ差出スヘシ

告示第八十九號 (明治廿八年五月八日)

溜池道路溝渠用悪水路堤塘土居敷等新設及變更取擴ケテ要シ出願スル場合ハ詳細ナル設計書及實地明瞭ナル色分ケ見取圖ヲ添フヘシ

河川海岸港灣及堤防取締規則 明治二十九年十一月十二日 縣令第七十七號

第一條 本則ニ於テ河川海岸港灣ト稱スルハ公有ノ河川海岸港灣ヲ云ヒ堤防ト稱スルハ其ノ河川海岸港灣ノ水防水制汐除波止ノ爲ニ施設スル堤防護岸及之ニ關係アル工作物ヲ云フ

第二條 河川ノ流水又ハ河川海岸港灣及堤防ノ敷地ヲ占用セントスル者并ニ左ニ記

載スル工作物ヲ新築改築修補若クハ除却セントスルモノハ本廳ノ許可ヲ受クヘシ

- 一 堤防其他洪水ノ氾濫ヲ豫防スル爲又ハ汐除波止ノ爲ニ施設スル工作物
- 二 河川ノ流水ヲ停滯セシメ若クハ引用スル爲ニ施設スル工作物
- 三 河川海岸港灣ニ注水スル爲ニ施設スル工作物
- 四 河川及港灣ノ敷地ニ固着シテ施設スル工作物又ハ河川海岸ニ沿ヒ若クハ河川ヲ横過シ若クハ其ノ床下ニ於テ施設スル工作物
- 五 堤防ニ固着シ若クハ堤防ヲ横過シ若クハ堤防ニ沿ヒ施設スル工作物

第三條 許可ヲ受クルニアラサレハ左ノ諸件ヲ爲スコトヲ得ス

- 一 河川ノ流水ニ依リ木竹ノ類(筏ヲ除ク)ヲ流下スルコト
- 二 河川海岸港灣ノ泥土砂石其ノ他ノ沈澱物ヲ採取スルコト
- 三 堤防ヲ距ル五間以内ニ於テ貝蟲及魚餌ノ類ヲ掘取ルコト
- 四 河川海岸港灣及堤防ノ竹木ヲ伐採シ又ハ芝草ヲ刈取ルコト
- 五 堤防ニ木竹芝草花卉ノ類ヲ植付ルコト

第四條 河川海岸港灣及堤防ニ對シ若クハ河川海岸港灣及堤防ノ物件ニ對シテハ左ノ諸件ヲ爲スコトヲ得ス

- 一 木竹土石瓦礫肥料物廢物汚物及其ノ他ノ物件ヲ棄テ又ハ之ヲ置クコト
- 二 公設ノ標杭ヲ拔取リ又ハ之ニ傷害ヲ加フルコト
- 三 官有木竹ヲ傷害シ又ハ芝草ヲ掘取ルコト

- 四 堤防ヲ毀損シ又ハ其ノ土石砂礫ヲ取ルコト
 - 五 堤防ニ木竹ノ類ヲ指込ミ又ハ之ニ舟筏ヲ繫クコト
 - 六 堤防ニ於テ獸類ヲ飼養スルコト
 - 七 濫ニ標木標石ノ類ヲ建設スルコト
- 第五條 第二條第三條第四條ニ違背シタル者ハ一日以上五日以下ノ拘留ニ處シ又ハ五錢以上一圓五十錢以下ノ科料ニ處ス

河川海岸港灣及堤防取締規則第二條

第三條ニ關スル出願手續

明治二十九年十二月十八日 告示第二百二十五號

- 一 規則第二條ニ據リ河川ノ流水又ハ河川海岸及港灣ノ敷地ヲ占用セントスル者ハ明治廿八年九月本縣告示第三百三十五號官ニ屬スル公有水面及河川寄洲使用規定ニ準據シ其堤防ノ敷地ヲ占用セントスル者ハ全年二月本縣告示第三十二號堤上堤腹使用ノ手續ニ據リ本縣知事ニ出願スヘシ
- 全條ニ據リ工作物ヲ新築改築及修補セントスル者ハ其事由並種類場所工事着手及成功期限等ヲ詳記シ且管内在籍者ニシテ身元確實ナル保証人二名以上連署シタル願書ニ詳細ナル設計書及設計圖并實地平面見取圖ヲ添付シ工作物ヲ除却セントスル者ハ願書ニ其事由並種類場所着手及終了期限等ヲ詳記シ本縣知事ニ出願スヘシ
- 但市町村其他法人ノ資格ヲ有スル團體ノ出願ニ係ルモノハ保証人ヲ要セス
- 二 規則第三條第一號ノ事件ヲ爲サントスル者ハ其河川名並區域物件ノ種類長及員

明治三十年告示第一號
一 項中(地方稅頁)
擔ニ係ル)ノ八字
ヲ加フ

明治三十年告示第一號
一 項中(日前號二號)
ノ全シク保証人
二名以上ヲ立テ
ノ十九字ヲ加フ
明治三十年告示第一號
三 項中括弧ヲ削リ
但書ヲ加フ全號次
へ第三號ヲ追加シ
以下順次繰下ク

明治三十年告示第一號
三 項中(下アル二號)
中(役所)トアル二
字ヲ削リ)長)ノ一
字ヲ加フ
明治三十年告示第一號
三 項中(下アル二號)
下(第四號)ノ三
字ヲ加フ

數并其期限等ヲ詳記シ且前號二項ト全シク保証人二名以上ヲ立テ第五號ノ事件ヲ爲サントスル者ハ其事由並場所物件ノ種類員數及其期限等ヲ詳記シ本縣知事ニ出願スヘシ

全條第二號第四號ノ事件ヲ爲サントスル者ハ明治十四年四月本縣甲第六十六號布達河海内ノ土石并砂拂下願手續ニ準據シ本縣知事ニ出願スヘシ

但本文地方稅ノ負擔ニ係ル堤防ナルトキハ所轄郡市長ニ出願スヘシ

三 規則第二條前段及第三條第四號第五號ノ事項ニシテ地盤ノ民有ニ屬シ其費用町村又ハ個人ノ負擔ニ係ル堤防ナルトキハ所轄郡市長ニ出願スヘシ但木竹ノ挿植ハ此限リニアラス

四 規則第三條第三號ノ事件ヲ爲サントスル者ハ其場所並堤防ヲ距ル間數及其深生產物ノ種類掘取期限等ヲ詳記シ所轄郡市長ニ出願スヘシ

五 第一號第二號ニ據リ差出ス願書ハ總テ地元市町村役場及郡役所ヲ經由シ第三號第四號ニ據リ差出ス願書ハ地元町村役場ヲ經由スヘシ

內二訓第四五九號 (明治二十九年十二月十八日) 郡 市

本年十二月 告示第二百二十五號河川海岸港灣及堤防取締規則第二條第三條ニ關スル出願手續第三號ニ據リ出願許可ヲ受ケントスル者アルトキハ實地障得ノ有無ヲ精査シ許否スヘシ

訓令第三號 (明治三十年一月二十三日)

郡市町村

地盤ノ官有ニシテ其費用地方税ノ負擔ニ屬スル堤塘道路並木敷等ヲ使用セシトキ出願スルモノアルトキハ市町村長ハ市町村會ニ諮問シ其意見ヲ聞キ願書ト共ニ之ヲ差出スヘシ

内二訓第七六號 (明治三十年三月一日)

各 郡

今般告示第三十五號ヲ以テ客年^{十二}告示第二百二十五號河川海岸港灣及堤防取締規則第二條第三條ニ關スル出願手續中改正追加候處其追加條項ニ據リ出願許可ヲ受ケントスル者アルトキハ實地障礙ノ有無ヲ精査シ許否スヘシ

訓令第二十一號 (明治三十年三月六日)

郡市町村

軌道條例ニ依ラサルモノニシテ道路又ハ堤塘上ニ軌道ヲ布設セシトキ出願スルモノアルトキハ市町村長ハ其道路又ハ堤塘ノ費用ヲ負擔スル市町村ノ議會ニ諮問シ其意見ヲ聞キ願書ト共ニ差出スヘシ

土石採取

甲第八十七號 (明治十三年十二月廿二日)

河川内ニ流出スル大小石ノ儀ハ從來ノ慣行ヲ以テ道路及ヒ治水ニ關スル公共ノ修繕用ニ充ルモノノ外猥リニ使用不相成候條一已私用ニ望ノ向ハ相當代價ヲ以テ拂下ノ儀可願出儀ト可相心得

甲第六十六號 (明治十四年四月九日)

客年^{十二}甲第八十七號ヲ以河川内ニ流出スル大小石使用ノ義及布達置候處海岸ニ轉出スル大小石及埋堆ノ土砂并ニ河川内土砂ノ義モ右布達ノ通相心得自今一般左ノ手續ニ依リ出願可致

但本文修繕用ニ充ツル石并ニ土砂欠乏ノ患無之箇所ニ限り營業ニ關スルモノヘモ可拂下事

河海内ノ土石并ニ砂拂下願手續

- 一 拂下願出ノ節ハ掘取ケ所明瞭ナル圖面及ヒ實地障礙無之旨村總代ノ保證書等ヲ願書ニ添テ差出スヘシ
- 一 願書ニ拂受ノ事由其員數^(石何十貫 土何十坪 砂何坪)相當代價^(十貫目ニ付何錢一坪ニ付何錢ト但書ヲ付ス)等明瞭記載スヘシ
- 一 取入期限ノ儀モ豫メ見込ヲ立願面ヘ記入致置追テ許可ノ上取入濟ニ相成候ハ、何月何日着手何月何日取入濟ノ旨届出ヘシ

乙第五十二號 (明治十四年四月九日)

各 郡 村

客年^{十二}甲第八十七號ヲ以川石使用ノ義及布達置候處尙又今般甲第六十六號ヲ以布達ノ次第モ有之就テハ自今拂下出願ノ向モ有之候ハ、其都度該村「戸長」ニ於テ實地障害ノ有無并ニ相當代價ノ當否篤ト取調具申可致

但拂下許可ノ節ハ掘取中不取締無之様「戸長」ニ於テ注意可致事
縣令第五十一號 (明治二十六年十二月二十六日)

官有河川中ノ散在石ナ町村其他公共團體ニ於テ工事用トシテ採取セントスルトキハ

先例ノ有無ニ拘ハラス爾後總テ當廳ノ許可ヲ請ク可シ

測 量

乙第四十九號 (明治十一年四月五日)

各「大小區」

內務省地理局ニ於テ關東大三角測量施行候處逐次八州外へ擴及候ニ付測量上ニ係リ竹木枝打及ヒ伐採ノ儀民有ハ出張官ヨリ該主へ示談ノ上處分爲致候旨同省ヨリ達有之候條臨時出張官員ヨリ示談有之候ハ、不都合無之様可執計

乙第七十四號 (明治十八年四月二十日)

各郡町村

參謀本部測量局ニ於テ漸次全國ニ三角測量網ヲ擴張シ其三角点ノ位置ヲ確定シ永久保存ノ爲メ標石建設ノ筈ニ有之就テハ右標石民有地へ建設ノ節ハ直ニ出張官吏ヨリ其地主并ニ所轄郡役所へ可及協議候條不都合無之様可取計

告第六十八號 (明治十八年四月二十日)

參謀本部測量局ニ於テ漸次全國ニ三角測量網ヲ擴張シ其三角点ノ位置ヲ確定シ永久保存ノ爲メ標石建設ノ筈ニ有之右ハ經緯度ニ應スル地表面ノ位置並ニ其地ノ高低ヲ確定スル測量上最重要ノモノニ付建設之上ハ其筋ニ於テモ篤ク保存方注意相成筈ニ候得共尙所在ノ人民ハ勿論其他共右保存方注意可致

告論第一號 (明治二十年三月一日)

陸軍省ニ於テ追々全國へ水準測量網ヲ擴張シ其線路每壹里ニ確定ノ水準点ヲ永久ニ

保存ノ爲メ標石建設可相成筈ニ有之右ハ水位上各地ノ高低ヲ確定シ以テ水準測量百般ノ基礎ニ供スル重要ノモノニ付建設ノ上ハ其筋ニ於テ厚ク注意可致筈ニ候得共尙所在町村ノ人民ハ勿論其他共右保存方注意スヘシ

達丙第五五〇號 (明治二十年三月二日)

各 郡

陸軍省ニ於テ追々全國へ水準測量網ヲ擴張シ其線路每壹里ニ確定ノ水準点ヲ永久ニ保存ノ爲メ標石建設可相成筈ニ有之依テ右敷地使用ノ節ハ出張官吏ヨリ直ニ其地主へ示談シ尙交地所轄郡衙及警察署へ差支ノ有無等協議可致旨其筋ヨリ照會越候條諸般不都合無之様取計ヘシ

但本文標石ノ義水位上ニ於ケル各地ノ高低ヲ確定シ以テ水準測量百般ノ基礎ニ供スル重要ノ物ニ有之候條右建設ノ上ハ厚ク保存方ニ注意スヘシ

訓第九八號 (明治廿一年六月二日)

郡 役 所

陸軍參謀本部陸地測量部ニ於テ測量施業中沿道官有樹木へ規標ヲ附設シ又ハ枝葉ヲ伐採スル等ノ節ハ豫メ照會ヲ經ス附設或ハ伐採シ測量完成ノ期ニ至リ其個所又ハ木種員數等ヲ通報候様相定候旨今般其筋ヨリ訓令有之候條其旨心得ヘシ

訓第一五二號 (明治二十五年五月十七日)

市 郡 役 所

明治二十三年三月法律第二十三號陸地測量標條例ニ依リ社地境内へ測量諸標設置ノ節ハ陸軍省出張測量官ヨリ該社寺ト協議ノ上尙ホ當廳へモ照會シ保存及風致上ニ支障ナキ限リハ該標設置ノ筈ニ候條出張官ヨリ右協議ヲ受ケタル社寺ハ其標目ノ位置ヲ

記シタル畧圖ヲ添ヘ直ニ當廳ヘ届出サスヘシ
訓令第四十號 (明治廿八年九月八日)

市町村

陸地測量部測量諸標ヲ建設シ其敷地ニ關スル處分結了シタルトキ又ハ測量諸標ヲ移
轉若クハ撤去シタルトキハ當廳ニ於テ明細書ヲ製シ之ヲ其所在地市町村長ニ交付ス
前項ノ明細書ヲ受ケタルトキハ市町村長ハ右明細書ニヨリ常ニ測量標敷地所在ヲ明
ニシ且適宜人民ヲシテ陸地測量部條例及全條例施行細則中ニ於ケル禁止規定ヲ犯サ
シメサランコトニ注意シ其他可成右諸標及全敷地ヲシテ亡失毀損セシメサル様監守
スヘシ若シ亡失毀損其他異狀アルトキハ事由ヲ付シ速ニ市長ハ直ニ町村長ハ所轄郡
役所經由當廳ヘ届出ツヘシ

一訓第三一五號 (明治廿八年九月九日)

全警分署

陸地測量標及同敷地監守方之義ニ付本縣訓令第四十號ヲ以テ市町村ヘ及訓令候ニ付
テハ右諸標及其敷地ノ所在其他諸標ノ異動其都度當廳ニ於テ明細書ヲ製シ之ヲ其所
在地警察署長分署長ヘ交付スヘキニ付若シ亡失毀損其他異狀アルトキハ事由ヲ附シ
速ニ當廳ヘ報告スヘシ

訓令第六十二號 (明治廿九年十一月十日)

市町村

客年九月愛媛縣訓令第四十號ニ依リ陸地測量標ノ亡失毀損其他異狀ノ届出ニハ左ノ
様式ニ準據取扱フヘシ
但標石ノ異狀届書ニハ其概況ヲ畫ケル圖面ヲ添付スヘシ

陸地測量標異動届

等級	番號	名稱	建設所在地名	測量標種類	事	山
三角(水準)点						
何等	第何號	何々	何郡(市)何町(村) 大字何字何々	何	何	々

右之通ニ候也

年 月 日

何郡(市)町村長 氏

名 印

凡 例

一 建設所在地名ニシテ他郡市町村ニ跨リ設置アル場合ハ其郡市町村名ヲ朱書併記
ス

一 測量標ハ標石、觥標、標札、假杭等ノ種別ヲ掲記ス

一 事由ハ天災地變又ハ人爲ニ因リ亡失毀損シタル等ノ區別并ニ狀況(假令ハ亡失シテ
ハ全部轉倒或ハ何々ノ部分毀損シ又標石、觥標ノ建設アル測点ニ)形跡ヲ止メヌ又
シテ規標ノミ毀損亡失シタルハ標石ニハ異狀ナキヲ記スル類ニ)ヲ詳記ス

内一訓第四一九號 (明治廿九年十一月十日)

全警分署

客年九月一訓第三一五號ニ依リ陸地測量標ノ亡失毀損其他異狀ノ報告ハ左之様式ニ
準據取扱フヘシ

但標石ノ異狀報告ニハ其概況ヲ畫ケル圖面ヲ添付スヘシ
陸地測量標異動届

三角(水準)點	建設所在地名	測量標種類	事由
等級一番號一名稱	何郡(市)何町(村)	何々	何
何等 第何號	何々	何	何
何々	大字何字何々	何	何
、	、	、	、
、	、	、	、
、	、	、	、

右之通ニ候也

年 月 日

何警察署長 官氏 名印

知事宛

凡例

- 一 建設所在地名ニシテ他郡市町村ニ跨リ設置アル場合ハ其郡市町村名ヲ朱書併記ス
 - 一 測量標ハ標石、規標、標杭、假抗等ノ種別ヲ掲記ス
 - 一 事由ハ天災地變又ハ人爲ニ依リ亡失毀損シタル等ノ區別并ニ狀況(假令ハ亡失シテハ全部顛倒或ハ何々ノ部分毀損シ又標石、規標ノ建設アル測点ニシテ規標ノミ毀損七失シタルハ標石ニハ異狀ナキヲ記スル類ニ)ヲ詳記ス
 - 内二訓第二二三號(明治三十三年七月十四日) 警察署全分署
- 參謀本部陸地測量部ヨリ技術官出張目下測量施行中ニ候處既設測量標及目下施行中

ノ測量標ヲ故意ニ毀損又ハ除却セシ形跡アルモノ有之候趣果シテ然ランニハ事業上ノ障碍少カラサルノミナラス明治二十三年法律第二十三號陸地測量標條例ニ依リ處分セラルヘキモノニ付心得違ノ者無之様篤ク注意スヘシ

土工及建築

甲第二十四號 (明治十四年一月二十九日)

從來宅地耕地等へ建物新築若クハ建替等ノ際隣地へ協議ヲ遂ケス着手致候ヨリ後日ニ到リ葛藤ヲ生シ候様ノ儀問々有之哉ニ相聞へ不都合ノ事ニ候條自今右等ノ節ハ豫メ鄰地關係ノ者へ可成協議ヲ遂ケ着手候様可致

甲第九十四號 (明治十六年六月十四日)

官費又ハ地方税ノ負擔ニ屬スル道路橋梁及ヒ河海堤防水列等ヲ協議費又ハ自費ヲモツテ修理セントスルトキハ本廳ノ許可ヲ受クヘシ
協議費又ハ自費ノ負擔ニ屬スル道路橋梁及ヒ河海堤防水列若クハ用惡水路壕池等ヲ修理スルハ許可ヲ受クルニ及ハストイヘ旧來ノ仕様變更又ハ新設ニ屬スルモノハ本廳ノ許可ヲ受クヘシ
但一已使用ノ爲メ設クル道路ハ現地種地目ニ据置ヘキモノニ付本文願出ノ限ニアラス

訓令第十六號 (明治三十七年三月廿三日)

郡町村

十七年甲第百三十
四號ノ下へ「用惡
水路」ノ字ヲ挿入
池ノ字ヲ挿入
十九年甲第九十二
號ヲ以テ但書廿一
二年法律第一號廿二
號ニヨリ協議費消
減ニヨリ協議費消
十九年甲第八十七
號參看
廿九年縣令第七十
七號ニ抵觸スルモ
ノハ消滅

縣ノ經濟ニ屬スル土木事業ニシテ町村從來ノ慣行ニ據リ公益上堅牢ヲ主トスルカ爲
メ該工事ノ請負ヲ望ムトキハ其町村ヲシテ請負ハシムルコトアル可シ

土木事業請負規則

明治二十七年三月二十三日
告示第四十八號

第一章 總則

第一條 此規則ニ於テ土木事業ト稱スルハ縣ノ經濟ニ屬スル河海、堤防、港灣、道路、
橋梁、建物等新築及修築工事ヲ云フ

第二條 土木事業ノ請負契約ハ總テ此規則ニ據ルヘシ

但特別ノ規程アルモノハ此限ニアラス

第三條 土木事業ノ請負契約ハ知事又ハ其委任ヲ受ケタル官吏ニ於テ之ヲ行フモノ
トス

前項請負ハシメタル工事ハ知事及其委任ヲ受ケタル官吏ニ於テ隨時掛員ヲ派出シ
之ヲ監督セシメ又ハ落成検査ヲナサシム可シ

第四條 土木事業ノ請負契約ヲ分テ左ノ二種トス

一 競争契約

二 隨意契約

第五條 請負契約書ハ其時々定ムル所ノ書式ニ從ヒ之ヲ差出スヘシ

第六條 請負人ニ於テハ本縣現住者ニシテ身元確實ナル保證人二名ヲ定メ請負契約
書ニ連署セシムヘシ

保證人他府縣下ニ轉住寄留シ若クハ破産又ハ家資分散ノ宣告ヲ受ケ其他死亡失踪
等其身上ニ異動ヲ生シタルトキハ請負人ニ於テ更ニ相當ノ保證人ヲ選ミ連署ノ上
其旨届出ツ可シ

保證人若シ不適當ト認ムルトキハ何時ニテモ之ヲ取替シムヘシ

第七條 競争入札ニ加ハラントスル者及請負人并ニ其保證人ハ左ノ事項ノ一ニ該當
セサル者ニ限ル

一 未成年者及婦女

二 禁治產者并ニ準禁治產者

三 破産若クハ家資分散ノ宣告ヲ受ケ復權セサルモノ又ハ身代限ノ處分ヲ受ケ其
債務ヲ償了セサル者

四 公權ヲ剝奪又ハ停止セラレタル者

五 土木事業請負契約ニ關シ訴訟中ノ者

六 此規則ニ依リ入札保證金ヲ縣ノ所得トセラレタル後滿一ケ年ヲ經過セサル者
及請負契約保證金ヲ縣ノ所得トセラレタル後滿二ケ年ヲ經過セサル者

七 第十八條ノ所爲ニ依リ入札ノ取消ヲ受ケ爾後滿二ケ年ヲ經過セサル者

第八條 請負契約ニハ總テ請負人ヨリ請負金高百分ノ十以上ノ契約保證金ヲ差出サ
シム其歩合ハ第十一條ノ公告又ハ第十二條第二十八條ノ通知ト同時ニ之ヲ示スヘ
シ

但請負人ノ都合ニ依リ其歩合ニ超過スルモ妨ケナシ
契約保證金ハ請負人ニ於テ縣廳若クハ郡役所ノ爲換方へ預入其預リ切符ヲ以テ差
出スヘシ

契約保證金ハ無記名有利足公債證書ヲ以テ代納スルコトヲ得其價格ハ時價凡ソ一
割下ケトス

第九條 請負金高五拾圓以下ノ場合ニ於テハ契約保證金及保證人ヲ要セサルコトア
ルヘシ

第二章 競争契約

第十條 競争契約ヲ分テ左ノ二種トシ其競争ハ總テ入札法ニ依ル

一 公告競争契約

二 指名競争契約

第十一條 公告競争ハ揭示又ハ新聞紙其他ノ方法ヲ以テ左ノ事項ヲ豫メ公告スヘシ

一 入札ニ付スヘキ事項

二 設計書圖面并ニ請負契約書案等ヲ示ス場所

三 工事落成期日

四 保險日數

五 入札保證金額

六 入札及ヒ開札ノ場所並ニ其日時

七 請負契約保證金ノ歩合

第十二條 指名競争ハ其事業ニ適當ト認ムル當業者五名以上ヲ撰定シ前條ノ事項ヲ
通知スヘシ

第十三條 競争契約ニ付スヘキ事業ノ豫定價格ハ之ヲ封書トナシ開札ノ際開札場ニ
備ヘ置クヘシ

第十四條 入札ヲナサントスルモノハ設計書圖面請負契約書案及實地ノ景狀等ヲ熟
覽シ第十五條ノ手續ニ從ヒ入札保證金ト俱ニ豫定ノ日時ニ之ヲ差出シ開札ニ立會
スヘシ

但保證金ヲ添ヘサル入札又ハ時限後ニ差出シタル入札ハ之ヲ受理セス
入札書ハ第一號書式ニ依ルヘシ

但入札場ニ其書式ヲ揭示シタルトキハ此限ニアラス

入札人代理人ヲシテ入札セシメントスルトキハ委任狀ヲ入札掛員ニ示スヘシ

第十五條 入札保證金ハ入札掛員ノ面前ニ於テ封金ト爲シ其金員氏名ヲ封表ニ記載
シ入札掛員ニ差出スヘシ

前項ノ保證金ハ時宜ニ依リ縣廳若クハ郡役所ノ爲換方へ預ケ入レ其預リ切符ヲ以
テ差出サシムルコトアルヘシ

第十六條 入札人既ニ差出シタル入札ハ之ヲ變更シ若クハ取消スコトヲ得サルモノ
トス

第十七條 開札ハ豫定ノ場所日時ニ入札人ノ面前ニ於テ之ヲ行フヘシ

第十八條 入札金額ニ關シ竊ニ申合ヲ爲シ其他不正ノ所爲アリト認ムルトキハ其入札ニ限り之ヲ取消シ若クハ其日ノ入札ハ總テ之ヲ取消スコトアルヘシ

第十九條 左ニ掲グル入札ハ無効トス

- 一 入札人又ハ其代理人開札ニ立會セサルモノ
- 二 入札書記載ノ金員若クハ氏名ノ認知シ難キモノ
- 三 入札書記載ノ金員ヲ加除更正シタル廉若クハ氏名ノ下ニ捺ナキモノ
- 四 入札書式ニ違ヒ其要件ヲ缺キタルモノ
- 五 請負金高ノ内譯金額ニ符合セサルモノ
- 六 入札人第七條ニ該當スルモノ

第二十條 入札人公告競争ニハ五名以上指名競争ニハ三名以上ナラサルトキハ其入札ヲ返付シ更ニ入札ニ付スルコトアルヘシ

第二十一條 入札ハ豫定價格以内ノ最低價ヲ以テ落札トス落札トナルヘキ同價ノ入札二人以上アルトキハ其入札人ヲシテ直ニ再入札セシメ最前ノ低價額以内ニ於テ落札人ヲ定メ尙同價ノ入札二人以上アルトキハ抽籤ヲ以テ落札人ヲ定ムヘシ

第二十二條 開札ノ上豫定價格以内ノ入札アラサルトキハ即時再入札ニ付スルコトアルヘシ

第二十三條 落札人ノ定リタルトキハ入札保證金ハ即時ニ之ヲ返付スヘシ

但落札人ハ請負契約保證金ヲ差出シタル後返付スヘシ

第二十四條 落札人ハ其落札ヲ他人ニ賣渡シ又ハ讓渡スコトヲ得サルモノトス

第二十五條 落札人ハ指定ノ期日内ニ第二號書式ニ準シ落札金額ニ對スル工費内譯

明細書ヲ調製シテ之ヲ差出スヘシ

内譯明細書ノ代價不相當ト認ムルトキハ期日ヲ定メテ之ヲ更正セシムヘシ若シ之

ニ應セサルトキハ其落札ヲ取消スコトアルヘシ

内譯明細書調査ノ上相當ト認ムルトキハ更ニ契約取結ヒノ通知ヲナスヘシ

前項ノ通知ヲ受ケタルハ其指定ノ期日内ニ契約書及ヒ契約保證金ヲ差出スヘシ

第二十六條 落札人ヲシテ前條契約書及ヒ契約保證金ト同時ニ第三號書式ノ屆書ヲ

調製シ市町村長ノ證明ヲ得テ之ヲ差出サシムルコトアルヘシ

第二十七條 左ノ事項ノ一ニ當ルモノハ其入札ヲ無効トシ入札保證金ハ違約ノ償ト

シテ縣廳ノ所得トス

一 開札後着手ニ於テ其入札人若クハ代理人開札場ヲ立去リタルトキ

二 第二十四條ニ背キタルトキ

三 落札人請負契約取結ヒ以前入札取消ヲ申立タルトキ

四 第二十五條第一項ノ指定期日内ニ工費内譯明細書ヲ差出サ、ルトキ

五 第二十五條第四項ノ指定期日内ニ契約書及契約保證金ヲ差出サ、ルトキ

第三章 隨意契約

第二十八條 隨意契約ハ之ヲ契約セントスル者ニ先ツ設計書圖面等ヲ示シ期日ヲ定メテ工費見積書並ニ工費内譯明細書ヲ差出サシムヘシ
 工費見積書及工費内譯明細書等調査ノ上相當ト認ムルトキハ契約取結ヒノ期日並ニ保證金額ヲ定メ之ヲ通知スヘシ
 前項ヲ通知テ受ケタルトキハ其指定ノ期日内ニ契約書及ヒ契約保證金ヲ差出スヘシ若シ之ヲ差出ササルトキハ請負ヲ欲セサルモノト見做スヘシ
 第四章 請負契約

第二十九條 請負人ハ知事又ハ其委任テ受ケタル官吏ヨリ交付スル處ノ設計書圖面付シタルトキハ其圖面トモニ從ヒ其定ムル期日内ニ工事ヲ落成セシムヘキモノトス

第三十條 請負人實地工事ニ着手セントスルトキハ三日以前ニ其旨届出ツヘシ
 第三十一條 事業着手ヨリ落成検査済迄ノ間其事業全体ノ管理ハ請負人ノ責任トス故ニ其期間ニ於テ何等ノ損害ヲ受ケ又ハ他ニ損害ヲ與ヘタルヨトアルモ知事又ハ其委任テ受ケタル官吏ハ總テ其責ニ任セス

但天災地變其他防制スヘカラサル災害ニ遭遇シ之カ爲メ滅失セシ材料ノ内知事又ハ其委任テ受ケタル官吏ヨリ供シタル材料アルトキハ其材料ノミ縣ノ損失トナスヘシ
 第三十二條 請負契約書ヲ差出シタル後請負人ニ於テ契約解除ヲ請求シタルトキハ契約保證金ハ勿論既ニ工事ニ充用シタル物件ハ總テ無償ニテ縣ノ所得トナスヘシ

但請負人ニ屬スヘキ物件アルトキハ請負人ハ自費ヲ以テ指定ノ期日内ニ之ヲ持去ル可シ

前項ノ場合ニ於テ既ニ拂渡シタル工費アルトキハ之ヲ返納セシメサルモノトス
 第三十三條 事故アルトキハ知事又ハ其委任テ受ケタル官吏ハ何時ニテモ其工事ノ設計ヲ變更シ又ハ工事ヲ中止シ又ハ契約ヲ解除スルコトヲ得ルモノトス

工事ノ變更ヲ要スルトキハ更ニ落成期日ヲ定メ設計書ヲ交付シ其工費ハ工費内譯明細書ノ代價ニ準シ之カ増減ヲ定ムヘシ但工事ニ充用シタル物件及工事ノ材料トシテ工場ニ運ヒ入レタル物件ニシテ該設計變更ノ爲メ不用ニ歸シタルモノアルトキハ第四項ニ準シ處分スヘシ

前項ノ場合ニ於テハ契約保證金ヲ増減スルコトアルヘシ
 其契約ヲ解除シタルトキ既ニ工事ニ充用シタル物件及ヒ工事ノ材料トシテ工場ニ運ヒ入タル物件アルトキハ之ヲ愛取リ第二項ニ準據シ其代價ヲ拂渡シ契約保證金ハ之ヲ返付スヘシ

但其物件ノ内知事又ハ其委任テ受ケタル官吏ニ於テ不適當ト認ムルモノアルトキハ其代價ヲ拂渡サス期日ヲ定メ請負人ノ費用ヲ以テ之ヲ持去ラシムヘシ
 本條第二項ノ處分ニ依リ第二項第四項ニ掲ケタル物件代價ノ外請負人ニ於テ何等ノ損害ヲ受ケタルコトアルモ總テ之カ賠償ノ責ニ任セス

第三十四條 知事又ハ其委任テ受ケタル官吏ニ於テ設計ニ違ヒ若クハ粗惡ノ築造ヲ

リト認ムルモノアルトキハ工事中何時ニテモ請負人ノ費用ヲ以テ之ヲ改造セシムルコトヲ得ルモノトス

若シ其改造ニ應セサルトキハ第三十二條ヲ適用シ契約ヲ解除スルコトアルヘシ

第三十五條 實地工事執行ノ時限ハ日出ヨリ日没迄ト定メ夜業ヲ爲スコトヲ得サルモノトス

但知事又ハ其委任ヲ受ケタル官吏ノ許可ヲ得タルトキ若クハ指揮シタルトキハ此限リニアラス

第三十六條 工事中請負人ハ設計書圖面ヲ添付シタルトキハ其圖面トモヲ携帯シ工場ニ出張スヘシ但代理人ヲ出張セシメントスルトキハ豫メ連署ヲ以テ其住所氏名ヲ届出ツ可シ

第三十七條 知事又ハ其委任ヲ受ケタル官吏ニ於テ前條ノ代理人其他工事ニ使役セル職工人夫等若シ不都合ノ所爲アルカ又ハ其工事ニ不適當ト認ムルトキハ何時ニテモ請負人ノ費用ヲ以テ之ヲ取替シムルコトヲ得ルモノトス

第三十八條 工事ニ供スル用品又ハ水中土中等ニ施スヘキ工事ニシ落成後其適否ヲ判別スヘカラサルモノハ知事又ハ其委任ヲ受ケタル官吏ノ検査ヲ請ケタル後ニアラサレハ充用若クハ築造セシメサルコトアルヘシ此場合ニ於テハ豫メ請負人ニ其旨示スヘシ

第三十九條 工事ニ要スル器具器械類ハ總テ請負人ニ於テ調辨スルモノトス但知事又ハ其委任ヲ受ケタル官吏ニ於テ貸付ノ豫約ヲ爲シタルモノハ此限リニ

二十九年告示第百二十四號ヲ以テ第三十八條中改正

アラス

第四十條 請負人ハ其請負義務ヲ他人ニ移シ得サルハ勿論其事業全体ヲ一手ノ下請負ニ附スルコトヲ得サルモノトス

第四十一條 前條ノ規定ニ背キ若クハ之ニ背キタル事實アリト認メタルトキ又ハ工事中不正ノ所爲アルカ若クハ怠慢ニシテ工事進歩セス落成期日迄ニ成功ノ目的ナシト認ムルトキハ契約ヲ解除スルコトアルヘシ此場合ニ於テハ第三十二條ヲ適用スルモノトス

第四十二條 請負人ハ其請負工事ニ付派出員ニ於テ質問ヲ爲シ又ハ設計圖面ニ照シ指揮スルコトアルトキハ之ヲ拒ムコトヲ得サルモノトス

若シ請負人ニ於テ其指揮設計圖面外ニ涉ルト思料スルトキハ其時々知事又ハ其委任ヲ受ケタル官吏ニ中立テ指揮ヲ請クヘシ

請負人前項ニ依リ知事又ハ其委任ヲ受ケタル官吏ノ指揮ヲ受ケスシテ後日派出員ノ指揮ニ對シ異議ノ申立ヲナスコトアルモ總テ之ヲ採用セサルモノトス

第四十三條 工事落成期日ニ至テ落成セサルトキハ第三十二條ニ準シ處分スヘシ但天災地變其他防制スヘカラサル災害ノ爲メ其期ヲ失シ之カ延期ヲ請フトキハ正當ノ理由アリト認ムルモノニ限り特ニ之ヲ許可スルコトアルヘシ

請負人ニ於テ前項但書ノ外落成期日ノ延期ヲ請フトキハ更ニ期日ヲ定メ之ヲ許スコトアルヘシ此場合ニ於テハ當初定メタル落成期日ノ翌日ヨリ落成ノ當日迄一日

毎ニ請負金高千分ノ三ヲ延滞償金トシテ知事又ハ其委任ヲ受ケタル官吏ノ指定シタル期日内ニ之ヲ納ムヘシ若シ期日内ニ之ヲ納メサルトキハ請負人ニ拂渡スヘキ工費ノ内ヨリ扣除スヘシ

第四十四條 工事ノ落成シタルトキ及保險満期ノトキハ其旨知事又ハ其委任ヲ受ケタル官吏ニ届出テ検査ヲ請グヘシ

前項検査ノ節請負人ハ其通知ニ指定シタル日時ニ設計書圖面ヲ添付シタルトキハ其圖面トモヲ携帶シ實地ニ立會スヘシ若シ立會セサルトキハ検査ノ結果ニ對シ異議ノ申立ヲナスコトヲ得サルモノトス

第四十五條 派出員ハ工事落成検査上必要アリト認ムル時ハ請負人ヲシテ修築物件ノ幾部ヲ取除カシムル事アルヘシ此場合ニ於テ原形ニ復スルハ請負人ノ負擔トス

第四十六條 工事落成検査上其出來形設計書圖面ヲ添付シタルトキハ其圖面トモニ違ヒ若クハ粗惡ノ修築ナリト認ムルモノアルトキハ更ニ期日ヲ定メ請負人ノ費用ヲ以テ之ヲ改造又ハ修補セシムヘシ此場合ニ於テハ第四十三條第二項ニ據リ延滞償金ヲ納ムヘシ

但延滞償金ハ落成届出ヨリ改造又ハ修補ヲ達シタル迄ノ日數ニ對スル分ハ之ヲ除クモノトス

若シ其期日内ニ改造又ハ修補セサルトキハ請負人ニ於テ契約解除ヲ請求セシモノト見做シ第三十二條ヲ適用スヘシ

第四十七條 工事落成検査上不都合ナシト認ムル片ハ設計書餘白ニ派出員ニ於テ即時其年月日並ニ検査済ノ旨ヲ記入シ署名捺印ノ上之ヲ交付シ又ハ追テ其旨通知スヘシ

第四十八條 工事落成検査ニ際シ其工場ニ請負人ニ屬スル物件アルトキハ請負人ハ派出員ノ指示スル期日内ニ之ヲ持去ルヘシ

第四十九條 工費ハ工事落成検査後ニアラサレハ拂渡サルモノトス

但工費多額ニシテ請負人ニ於テ内渡金ヲ請求シタルトキハ其出來形ノ歩通ヲ調査シ五歩以上成功ノトキハ請負金高十分ノ三以内七歩以上成功ノトキハ同十分ノ五以内假ニ拂渡スコトアルヘシ

前項出來形歩通ノ調査ハ内金渡ノ標準ナルヲ以テ落成検査ニ於テ其効ナキ者トス

第五十條 落成検査後ノ保險ヲ付シタル工事ニシテ若シ其期日内ニ損壞伸縮凹凸等ヲ生シタル片ハ更ニ期日ヲ定メ請負人ノ費用ヲ以テ當初ノ設計ニ照ラシ之ヲ修築セシムヘシ若シ其期日内ニ之ヲ修築セサルトキハ知事又ハ其委任ヲ受ケタル官吏ニ於テ之ヲ修築シ其費用ハ請負人ノ負擔トシ之ヲ追徴スヘシ若シ保險満期ニ至リ其追徴金ヲ差出サ、ルトキハ保証金ヲ以テ之ヲ差引尙不足スル片ハ其不足額ヲ追徴ス

但知事又ハ其委任ヲ受ケタル官吏ニ於テ天災地變其他防制スヘカラサル災害ニ罹リタルモノト認ムルトキハ此限りニアラス

前項知事又ハ其委任ヲ受ケタル官吏ニ於テ之ヲ修築シタルトキハ請負人ハ其事業ニ付異議ノ申立ヲ爲スコトヲ得サルモノトス

第五十一條 左ノ事項ノ一ニ當ルモノハ第三十三條第四項ヲ適用シ契約ヲ解除スルコトアルヘシ

三十年告示第百九十八號ヲ以テ但書更正

但此場合ニ於テハ契約保證金ハ違約ノ償トシテ縣ノ所得トナスヘシ
 一 第六條第二項ニヨリ更ニ保證人ヲ選定セス又ハ全條第三項ノ要求ニ應セサル
 二 第三十五條ニ背キ夜業ヲナシタルトキ
 三 第三十七條ノ代理人又ハ職工人夫ヲ取替サルトキ
 四 第三十八條ニ背キ検査ヲ請ケサルトキ
 第五十二條 第三十二條第三十三條第四十八條ノ場合ニ於テ請負人其所屬ノ物件ヲ
 持去ラサルトキハ總テ無償ニテ縣ノ所得トナスヘシ
 第五十三條 第十八條第二十條ニ依リ入札ヲ取消シ第二十五條ニ依リ落札ヲ取消ス
 ルカ爲メ入札人ニ於テ何等ノ損失ヲ受クルコトアルモ知事又ハ其委任ヲ受ケタル
 官吏ハ總テ賠償ノ責ニ任セス
 第五十四條 契約保證金ハ工事落成検査ノ後返付シ保險ヲ付シタル工事ニ付テハ保
 險満期検査済ノ後之ヲ返付スヘシ
 (第一號書式)
 入札書 (入札ハ總テ封書ト爲シ封表ニ
 入札人ノ氏名ヲ記載ヘスシ)
 何郡市町村大字何字何々第何號
 一何々工事
 此工事請負金何程
 内譯(内譯ヲ要スルトキハ此例ニ依ルヘシ)

金 何 程
 金 何 程
 何 々 々
 何 々 々
 右ハ明治何年何月何日
 負可致依テ入札差出候也
 何府縣郡市町村大字番戶
 職業 氏 名 印
 生 年 月

(第二號書式)

工事内譯明細書

種 目	員 數	單 價	價 金	額	摘 要
堤防盛土夫	何坪 何合	金 何 程	金 何 程		土代價ヲ要セス盛土夫何百 人ト見償リ一人ニ付何程
座 掘 夫	何 人	全	全		
土臺用松木	尺メ 何本	何步	全		運賃トモ
全上据付夫	何 人	全	全		
築 石	何 坪	全	全		石代及運賃トモ

築石用栗石	何	坪全	全	拾取り運賃トモ
築石用石工	何	人全	全	
全上手傳夫	何	人全	全	
栗石拾掛夫	何	人全	全	拾取り及運搬夫トモ
芝付夫	何	人全	全	切取り運搬夫トモ
蛇籠用竹	何	本全	全	運賃トモ
蛇籠用栗石	何	坪全	全	拾取運賃トモ
蛇籠仕立夫	何	人全	全	蛇籠作り据付栗石詰杭打トモ一本ニ付何人
全上用杭	何	本全	全	運賃トモ
何々何	何	程全	全	
計			金何程	

右ハ何郡市町村大字何字何第何號何々工事今般請負承諾致候ニ付テハ工費内譯金本書ノ通相違無之候也

明治何年何月何日

何府縣郡市町村大字番戶

請負人 氏

名印

官氏名殿

(第三號書式)

御 届

一 住所何府縣郡市町村大字番戶

一 營業何々

但何年何月開業以來引續營業

一 印鑑 ○

一 禁治産及破産若クハ家資分散ノ宣告又ハ身代限ノ處分ヲ受ケ公權ヲ剝奪又ハ停止セラレタルナシ(會テ是等ノ宣告又ハ處分ヲ受ケタルモ既ニ復權又ハ債務ヲ償了セサルモノハ其宣告又ハ處分ヲ受ケタル時日ト復權又ハ債務償了ノ事實トヲ附記スヘシ)

右ハ拙者住所營業印鑑其他事項前記ノ通相違無之(市長町長)村長ノ証明ヲ得テ此段御届申上候也

明治何年何月何日

氏

名印

官氏名殿

右証明候也

明治何年何月何日

何府縣郡市町村長 氏

名印

土木事業町村及關係人民請負規則

明治二十七年三月二十三日 告示第四十九號

第一條 縣ノ經濟ニ屬スル土木事業ニシテ町村若クハ關係人民ヲシテ其工事ヲ請負

ハシムルトキハ此規則ニ據ルヘシ

二十九號告示第百二十四號ヲ以第二條中改正

第二條 町村若クハ關係人民ヲシテ工事ヲ請負ハシメントスルトキハ知事又ハ其委任ヲ受ケタル官吏ハ町村長ニ左ノ事項ヲ指示スヘシ

一 工事設計書圖面ヲ必要トスル

二 工事落成期日

三 落成検査後ノ保險必要トスルトキハ其保險日數

四 右ノ外必要ニ認ムル事項アルトキハ其事項

第三條 町村長ハ前條指示ノ日ヨリ十日(特三期日ヲ指示シタルトキハ其期日)以内ニ其町村ノ請負ニ係ル

モノハ町村會ノ議決ヲ經テ工費見積書并ニ工費内譯明細書ヲ差出スヘシ但工費内

譯明細書ハ明治二十七年三月愛媛縣告示第四十八號土木事業請負規則第二號書式

ニ依ル

其關係人民ノ請負ニ係ルモノハ速ニ關係人民ニ之ヲ示シ其人民中ニ於テ身元確實

ナル者ヲ撰ミ工事請負人ヲ定メシメ前項ト同ク之ヲ差出サシムヘシ

但請負人若シテ適當ト認ムルトキハ何時ニテモ之ヲ取換シムルコトアル可シ

前項工事請負人ハ總テ其請負契約ニ關スル責任ヲ負擔スヘシ

第四條 前條ニ依リ差出シタル工費見積書及ヒ工費内譯明細書ハ調査ノ上相當ト認

ムルモノニ限り契約取結ノ期日并ニ保証金額ヲ定メテ之ヲ通知スヘシ

前項ヲ通知ヲ受ケタルトキハ其指定ノ期日內ニ契約書(別紙書式)及契約保證金ヲ

差出スヘシ

二十九號告示第百十四號ヲ以第三條中改正

二十九號告示第百十四號ヲ以第四條第一項第二項ヲ改

二十九號告示第百十四號ヲ以第五條改正

第五條 此規則ニ據リ請負タル工事ニ付テハ明治廿七年三月愛媛縣告示第四十八號土木事業請負規則第三條第八條第九條第二十九條乃至第五十條第五十一條第二號乃至第四號第五十二條第五十四條ヲ適用シ且關係人民請負ニ對シテハ尙同規則第七條ヲ適用スヘシ

(別紙)

証券印紙

土木工事請負契約書

何郡町村大字何字何何第何號

一金 何 程

何々工事請負金高

内(内譯ヲ要スルトキハ此例ニ依ルヘシ)

金 何 程

何 々

金 何 程

何 々

此請負契約保證金何程

一 工事ノ仕様ハ交付セラレタル設計書何第何號ノ通りトス
但圖面何様添付

一 工事着手期日ハ明治何年何月何日トス

一 工事落成期日ハ明治何年何月何日トス

二十九年告示第五百十四號ヲ以テ第五項中刪除

- 一 工費内譯明細書ハ別冊ノ通りトス
 - 一 保險日數ハ工事落成検査済後何十日トス
 - 一 何々工事又ハ何々用品ハ修築前御廳ノ検査ヲ受クルモノトス
 - 一 右ノ外指示スル所ノ事項
- 右ハ明治何年月何愛媛縣告示第何號土木事業町村及關係人民請負規則ヲ承諾シ(本町村會ノ議決ヲ經テ)請負致候也

明治何年何月何日

何郡町村大字何何番戸

請負人 氏 名 印

全 上

請負人 氏 名 印

(何郡町村長)

氏 名 印

官 氏 名 殿

郡市町村

二訓第三一六號 (明治二十七年九月十一日)

河水暴漲或ハ海嘯等ノ災害アルニ際シ堤防開門等破損缺潰ノ危険アル場合ハ其經濟負擔ノ孰レニ屬スルヲ問ハス尙モ危難ノ衆人民ニ關係アルモノハ其最寄町村民ニ於テ即時防禦ノ手段ヲ施スヘキハ相互其生命財產ヲ保護スル爲メ當然ノ任務タリ然ルニ近來往々心得違ノモノアリ譬ハ出水ニ當リ假防工事ヲ施セシ堤上ヲ浸入缺潰セシ

トスル場合モ尙袖手傍觀スル者有之哉ニ相聞不都合ノ至リニ候尤修築工事請負者アリ其者ニ於テ充分ニ防禦相届候見込有之分ハ格別ニ候得共尙モ其間ニ其者居合セサルトキハ即時出水ノ浸入ヲ防禦シテ缺潰ノ患無ラシムル様最寄町村民ニ於テ盡力可致筋ニ有之候本年モ夏氣以來非常ノ旱魃ニシテ天候平順ナラス其反動ハ意外ノ風雨出水或ハ海嘯等ノ災ニ遭遇スルモ難計憂慮ニ堪ヘサル次第ニ付各水害地町村ニ於テ共同一致堤防々禦ノ術ヲ講シ其用材料等ヲ準備シ置在來ノ堤防開門等ハ勿論就中修築着手未着手ノ工事場所ニ於テ更ニ崩潰流失ノ患無ラシムル様一層注意スヘシ

建物營繕工事施行手續

明治三十年七月十六日 訓令第五十二號

警察署 尋常師範學校 巡査教習所 松山病院 監獄 署 視谷 曬煤院

第一條 縣ノ經濟ニ屬スル建物營繕工事ハ此手續ニ依リ施行スヘシ

第二條 前條ノ工事ニ要スル費金ハ當該年度ノ豫算額ヲ定メ前年度末ニ於テ之ヲ示スヘシ

前項ノ費金ニシテ本廳下以外地方所在ノ公署ニ屬スルモノ並ニ直轄施行ニ係ルモノハ其全額若ハ幾分ヲ前渡スルコトアルヘシ

但前渡シ工費ハ工事落成若ハ出來形步通成功検査済ノ上ニアラサレハ支拂ヲナスコトヲ得ス

本廳第二課ニ於テ直轄施行スルモノニ係ル費金ハ前二項ニ依ラサルモノトス

第三條 工事ノ施行ヲ要スルトキハ其事由ヲ詳具シ別紙第一號書式ニ倣ヒ設計書ヲ作り施行法工事日數及保險日數等ノ見込ヲ付シ其新築又ハ舊形變更ニ係ルモノハ之ニ圖面ヲ添ヘ知事ノ認可ヲ受クヘシ

但費金五圓以内ノ工事ハ直ニ之ヲ施行シ其都度第二號書式倣ヒ舊形變更ニ係ルモノハ施行ヲ要シタル事由ヲ詳具シ之ヲ報告スヘシ

第四條 前條ノ認可ヲ受ケタル後其事項ニ變更ヲ要スルモノアルトキハ事由ヲ具シ更ニ認可ヲ受クヘシ

但工事日數十日以内ノ有償延期又ハ請負入札ノ結果ニ因ル工費ノ減少ハ本條ノ認可ヲ受クルニ及ハス直ニ之ヲ施行シ其工事日數ノ延期ニ限り其都度之ヲ報告スヘシ

第五條 工事ノ施行法ハ左ノ四種トス

- 一 公告競争請負
- 二 指名競争請負
- 三 隨意契約請負
- 四 直 轄

第六條 隨意契約ヲナスコトヲ得ルハ左ノ場合ニ限ルモノトス

- 一 非常ノ急施ヲ要シ他ノ施行法ニ依ルノ暇ナキトキ
- 二 請負中ノ工事ニ付帶セル工事ニシテ他ノ請負人ヲシテ請負ハシメ難キトキ

三 入札人ナキトキ又ハ再入札ノ末豫定價格ニ超過シタルトキ

四 特ニ其人ヲ限ルニアラサレハ請負ハシメ難キトキ

五 工費一廉金拾圓未濟ナルトキ

第七條 工事ヲ請負ニ附スルモノハ總テ明治廿七年本縣告示第四十八號土木事業請負規則ニ準據シ之ヲ取扱フヘシ其直轄工事ニシテ一部分ヲ請負ニ附セントスルトキ亦同シ

第八條 競争請負ノ入札ヲ開札スルトキハ主務吏員貳名以上ヲシテ之ニ立會セシムヘシ

第九條 工事日數及保險日數ハ左ノ標準ニ據ルヘシ

- 一 工事日數ハ其事業ノ難易ヲ斟酌シテ之ヲ定ムヘシ
- 二 保險ヲ要スルモノハ其日數三十日以上トス

第十條 請負契約保證金ハ請負金額百分ノ十以上ニ於テ工事ノ難易輕重及工費ノ多寡等ヲ斟酌シテ之ヲ定ムヘシ

第十一條 土木事業請負規則第五條ハ請負契約書ハ第三號書式ニ準シ必要ノ事項ヲ詳記シ請負希望者ニ示シ又請負人ニ下渡スヘキ受領書ハ第四號書式ニ依ルヘシ
第十二條 土木事業請負規則第十八條ノ所爲ヲ認メタルトキハ全條ニ依リテ之ヲ所分シ理由ヲ詳悉シテ知事ニ開申スヘシ

前項ノ所分ヲナシ又ハ全規則ニヨリ入札保證金若ハ請負保證金ヲ縣ノ所得トナス

ノ扱チナシタルトキハ其理由年月日及住所氏名ヲ内務部第二課ニ通知スヘシ
 第十三條 工事請負人ナシテ差出サシムル所ノ工費内譯明細書ハ之ヲ精査シ設計書
 ノ種目ニ從ヒ其代價ヲ相當ニ分配セシメ後日紛雜ナキ様注意スヘシ
 第十四條 認可ヲ受ケタル工事ニシテ請負契約締結シタルトキハ即時其請負金高着
 手及竣功期日請負人ノ住所氏名ヲ知事ニ開申スヘシ
 第十五條 工事施行中ハ主務吏員ヲシテ之ヲ監督セシムヘシ
 第十六條 保險ヲ附シタル工事ニシテ其保險期満了ノトキハ主務吏員ヲシテ之ヲ檢
 査セシメ知事ニ開申スヘシ
 第十七條 工事落成シタルトキハ工費金五拾圓未滿ノモノハ主務吏員ヲシテ之ヲ檢
 査セシメ五拾圓以上ノモノ並ニ直轄施行ニ係ルモノハ直ニ之ヲ知事ニ開申スヘシ
 但監獄署直轄施行ニ係ル工事中工費金五圓以内ノ者ハ本文ニ依リ開申ヲ要セス
 落成檢査濟ノ工事ニシテ第二條第二項ニ依リ工費ノ前渡ヲ受ケサルモノハ第五號
 書式ニ倣ヒ其下渡ヲ請求スヘシ
 第十八條 請負規則第四十九條但書ニ依リ工費金ノ内渡ヲ請求スルモノアルトキハ
 請負金高五百圓以上ノモノニ限リ第六號書式ニヨリ工事出來形歩通調書ヲ製シ其
 出來形ノ歩通内渡ヲナスヘキ金額ヲ定メ請負人ノ請求書ヲ添ヘテ知事ニ開申スヘ
 シ
 第十九條 入札人又ハ請負人ヨリ差出シタル保證金ヲ縣ノ所得トナシタルトキハ當

該年度松山病院ニ係ルモノハ雜入トシ其他ハ地方稅雜收入トシテ取扱フヘシ
 第二十條 新築改築及指定修繕ニシテ翌年度豫算ニ編入ヲ要スル工事ハ其事由ヲ詳
 具シ費額見積書及圖面ヲ添ヘ六月三十日限知事ニ開申スヘシ
 第一號
 第一號

何々建築、摸樣換、修繕、設計書

一金何程

何々 建築 摸樣 換 費

内

金何々

此 譯

材 木 方

種目	木品	長	寸	員數	單價	小計
何々ニ 用ユ	杉松	何拾何尺	何寸何角 末口何寸	何本	何圓何拾何錢	何何何圓 何何何錢
全上	杉樅ノ類	何間	巾何程 厚何程	何坪	、、、、	、、、、
(其他右ニ準ス)						
金何程						
此 譯						
鍛 治 方						

一金何程

此請負契約保証金何程

何々工事請負金高

- 一 工事ノ仕様ハ交付セラレタル設計書第何號ノ通りトス 但圖面何葉添付
- 一 工事着手期日ハ明治何年何月何日トス
- 一 工事落成期日ハ明治何年何月何日トス
- 一 工費内譯明細書ハ別冊ノ通りトス
- 一 保險日數ハ工事落成検査済後何日トス
- 一 何々工事又ハ何々用品ハ修築前検査ヲ受クルモノトス

右ハ明治廿七年三月愛媛縣告示第四十八號土木事業請負規則ヲ承諾シ請負致候也

何郡町村大字何番戸

請負人 氏 名印

全 上 保証人 氏 名印

全 上 氏 名印

第四號

官氏名殿

何郡市町村大字番戸

請負人 氏 名印

一何々工事

此請負金何程

右工事請負契約書受領候也

第五號 年 月 日 官 氏 名 印

請求書

一金何程 何々費

但何年何月何日落成検査済

前記金員左記ノ者へ御下渡相成度請求候也

年 月 日 官(職) 氏 名 印

知事宛

住所

受取人 氏 名

第六號

何々工事出来形ニ對スル工費内譯

種目	請負契約ニ係ル本工事所用ノ員數	出來形ニ係ル員數	單價	金額
柱	何拾	何本	何拾錢	何圓何拾錢
檣	何拾	何挺	何錢	何拾錢
釘	何百何拾本	何	何錢	何拾錢
大工	何拾	何	何拾錢	何圓
杉皮	何拾	何束	何錢	何圓
瓦	何千何百枚	何百枚	何錢	何圓何拾錢
計	以下右ニ準ス			何百何拾圓

右計金額何程ハ請負工費金何圓ニ對シ歩通金何程
右之通相違無之候也

明治廿六年 月 日

知事 宛

工事請負契約受難出 款

官 氏 名 印

訓令第三號(明治廿六年一月二十日)

郡役所 市役所 町村役場

從來公稱スル市町村内地ノ字名ハ其地固有ノ名稱ニシテ往古ヨリ傳來ノモノ甚タ多ク土地争訟ノ審判歴史ノ考證地誌ノ編纂等ニ最モ要アルニ因テ容易ニ改稱變更スヘキモノニアラスト雖モ其已ムテ糾紛事實ハ必テ改稱變更ヲ必要トスルモノ

二十六年訓令第二十八號ヲ以テ第一項中改正

ニ限リ左ノ規程ニ依リ取扱フヘシ

- 一 市町村大字名市制町村制施行ノ際分合シテ舊町村名從來及市内從來ノ町名ヲ改稱シ又ハ其區域ノ變更ヲ要スルモハ市町村會之ヲ議決シ知事ノ許可ヲ受クヘシ
- 二 市町村内ノ小字名市内從來ノ町名ヲ除クテ改稱シ又ハ其區域ノ變更ヲ要スルトキハ關係アル地主ノ意見ヲ聞テ市町村會之ヲ議決シ知事ノ許可ヲ受クヘシ
- 三 水面埋立地其他新開地等新三字名稱ヲ付スルトキハ第二項ノ例ニ依ルヘシ
- 四 市町村ノ境界ニ關スル爭論ヲ裁決及民事訴訟ノ判決ニ依リ字名ノ訂正又ハ其區域ヲ變更スルモハ市參事會ハ知事ニ對シ町長ハ郡長ニ申報スヘシ
- 五 郡長ニ於テ前項ノ申報ヲ受ケタ後トキハ其旨知事ニ報告スヘシ

第十四類 交通及運輸

郵便

乙第百三十四號 (明治十二年五月九日)

各郡町村

各府縣下郡役所ハ宛タル郵便物ノ内唯何府縣郡役所トシテ記シ其所在地名ヲ詳記セ
此ニ向モ有之取扱上不都合ノ儀往々有之爲メニ公私ノ不便尠ナカラサルニ付總テ郡
役所ハ宛タル郵便物片書ハ其所在地名ヲ記載シ可差出旨驛遞局長ヨリ照會之趣有之

候條自今屹度注意可致
 乙第八十二號 (明治十五年七月三日) 各 町 村
 郵便信書配達ノ際請取人舉家轉住セシ歟又公肩書不充分ノ故ヲ以テ配達シ能ハサル
 時公規則ニ據リ差出人ハ差戻シテ處分可致ハ勿論ノ義ニ候得共其轉住又ハ宛名ノ者
 無之哉否確証ヲ得ンカ爲メ信書相添取調方郵便局ヨリ其役場へ依頼越候節ハ迅速取
 調付箋可致

訓第四九號 (明治二十年三月八日) 各 郡

郵便物ノ義ハ郵便條例第六十七條ニ據リ郵便局ヲ經由スルニ非サレハ送達シ得サル
 成規ニシテ猥ニ特使ヲ用ユヘカヲサレ勿論ノ處該條但書ノ主意ヲ誤リ「戸長役場」
 其他へ送達スル書類中土地ノ便宜方位ノ都合等ニ據リ常雇等ノ名義ヲ以テ當時特使
 ナ發スル向往々有之哉ニ相聞ヘ候右ハ方々有之間敷義トハ思考候ヘ共萬一右様ノ義
 所犯發覺スルニ於テハ同條例第三百三十條ニ據リ相當ノ罰科ニ處セラルヘキ筈ニ付
 自今郵便物差立ノ際ハ一層注意セラルヘシ
 但本文ノ趣旨各「戸長」ヘモ内示セラルヘシ
 達丙第一六七三號 (明治二十年七月廿二日) 各 郡
 郵便物受取人又ハ差出人居所不分明ニシテ配達シ能ハサルトキ郵便局ヨリ其地「戸
 長役場」へ取調方承合候節ハ速ニ可取調旨去明治十五年本縣乙第八十二號ヲ以テ相
 達置候處事務繁忙等ノ故ヲ以テ往々其意ニ應セサル向有之哉ニ相聞エ且右ニ就テハ

本年五月遞信省訓令第四號ノ旨モ有之候條今後取調ヲ乞フタル節ハ故障ナク其求メニ
 應セシムル様各「戸長」ヘ示達ス可シ

訓第四六七號 (明治二十二年十月十二日) 「戸長役場」

三等郵便局長並郵便受取所取扱人郵便貯金預所取扱人採用ノ際取扱方之儀客年五月
 遞信省訓令第三號及全第六號ノ趣モ有之候處今般勅令第九十六號ヲ以テ地方遞信官
 々制改正ニ付テハ三等郵便局長並郵便受取所取扱人郵便貯金預所取扱人選定方ハ松
 山郵便電信局ノ取扱ニ屬スルヲ以テ將來其選舉或ハ書類ノ徵收方等其關係郡役所又
 ハ「戸長」役場へ同局ヨリ直ニ移牒可致旨照會越候條其旨心得ヘシ

但右選舉ニ關スル書式(第一ヨリ第五迄)爲參考配布ス
 第壹 (用紙大判十三行界紙以下全シ)

被選承諾書

何府縣何國何郡何町村何番戶住戶主
 (又ハ戶主某長男次男養子等) 族籍

何 某

生 年 月 日

私儀三等郵便電信、郵便局長(又ハ郵便受取所及郵便貯金預所取扱人)被命候上ハ總
 テ御規則堅ク相守リ誠實ニ奉務可仕候依之御選舉ノ趣承諾候也

右

年 號 月 日

何 某 印

松山郵便電信局長殿

第貳

身元引受承諾書

何縣何國何郡何町(村浦)何某三等郵便電信局、郵便局長(又ハ郵便受取所取扱人及郵便貯金預所取扱人)ニ御採用ノ上ハ同人身上ノ儀私ニ於テ引受御制規ノ身元引受証差出可申依之此段上申仕候也

何府(縣)何國何郡何町(村浦)何番戶住
戶主(又ハ戶主某長男次男養子等)

族籍

何

某

年 號 月 日

松山郵便電信局長殿

第參

保護承諾書

(此承諾書ハ局長取扱人被選者
非戶主無財產ノ時ノミ要ス)

私長(次男)男(養子等)某三等郵便電信局郵便局長(又ハ郵便受取所取扱人及郵便貯金預所取扱人)ニ御採用ノ上ハ保證人ニ相立御制規ノ保證差出可申依之此段上申候也

何府(縣)何國何郡何町(村)何番戶

戶主

族籍

年 號 月 日

松山郵便電信局長 殿

第四

財產調書

(身元引受人并ニ戶主ノ財
產調書トモ此書式ニ依ル)

何府(縣)何國何郡何町(村)何番戶住

戶主(又ハ戶主某長次男等)

族籍

何

某

生年月日

何國何郡何町村字何々

番 號 (幾筆アルモ一筆毎ニ別記ヲ要ス)

一 田(畑)(宅地)(山林)何反何畝何歩(質入又ハ書入等ノ有無ヲ記ス)

此地價金何圓

此賣買價格何圓

同

同

一 建家何棟 何葺 同上

此賣買價格何圓

合反別何反何畝何步

建家何棟

地價金何圓

賣買價格何圓

右私所有ニ相違無之候也

右

年 號 月 日

何 某 印

松山郵便電信局長

此所ニ町村「戸長」證明ノ奥印ヲ要ス

第五

履 歷 書

道府縣華士族平民

姓 名 印

生年月日

本 籍

一 道府縣何國何郡區何町村何番地戸主又ハ何某男兄弟伯叔父等

現ニ本籍地ニ居住スル時ハ(現今本地ニ居住)

ノ數字ヲ本項ニ加ヘ次項ノ現今寄留地ヲ省ク可シ

住所ノ移動

一 何年何月何日何地ニ生レ何年何月何日マテ居住

一 何年何月何日何地ニ移轉シ何年何月何日マテ居住

一 戸籍ノ異動

一 何年何月何日道府縣何郡區何町村何番地族籍某方へ養子入婿附籍等

一 何年何月何日道府縣何郡區何町村何番地族籍某方へ復籍等異動アル毎ニ之ヲ記

スヘシ

兵 役

一 何年何月何日何鎮臺ニ入營何年何月何日何卒トナリ何年何月何日歸休ヲ命セラレ

何年何月何日常備役滿期豫備軍ニ編入等兵役上ノ事項ヲ記載スヘシ

學 事

一 何年何月何日ヨリ何地何某ニ就キ又ハ官公私立何學校ニ於テ何學ヲ修メ何年何

月何日ニ至ル所修ノ科目大略何々

一 何年何月何日ヨリ何地官公私立何學校ニ入り何學科ヲ修業シ何年何月何日卒業

ス其證書ノ寫別紙ノ如シ修業何年何月間ニシテ其科目ハ何々

職 業

一 何年何月何日ヨリ何業ヲ營ム(何業ヲ兼子營ム)

一 何年何月何日何業ヲ廢ス

一 何年何月何日ヨリ何地何會社ニ傭レ(給料何圓)何々ノ業務ニ從事シ何年何月何

日ニ至テ解傭其間給料増減

一 何年何月何日ヨリ何年何月何日マテ何業ニ従事ス

一 何年何月何日ヨリ何々ノ著譯ニ従事シ何年何月何日ニ至ル其著譯スル所ノ書名左ノ如シ

著譯書名ヲ掲クヘシ

官 職

一 何年何月何日何地官立私立何學校何課教員トナリ教授ニ従事シ何年何月何日解職其間何々ヲ兼勤シ何々ノ事務ニ従事ス以上ノ辭令左ノ如シ

此所ニ辭令ノ全文ヲ各通トモ掲ク可シ又私立學校等ニテ辭令ナキモノハ其俸給等ヲ本文ニ記ス可シ

一 何年何月何日何官廳ニ於テ何々拜命何年何月何日マテ何々ノ事務ニ従事シ何年何月何日辭職以上ノ辭令左ノ如シ

辭令ノ全文ヲ掲クヘシ

賞 罰

一 何年何月何日何地ニ於テ何々事由ニ爲メ賞ヲ受ク其辭令左ノ如シ

辭令全文ヲ掲ケ辭令ナキ者ハ本文中ニ受賞ノ事由ヲ記ス可シ

一 何年何月何日何地ニ於テ何々事由ノ爲メ罰ヲ受ク
辭令アルモノハ各其全文ヲ掲ケ辭令ナキモノハ本文中ニ其事由ヲ記シ又裁判所ノ

宣告書ハ其要ヲ記スヘシ總テ罰ハ其受罰ノ日數科料罰金ノ額等ヲ記ス可シ
身代限りノ有無

一 何年何月何日何地ニ於テ身代限りノ處分ヲ受ケ何年何月何日負債辨償濟(身代限りノ處分ヲ受ケタルコトナシ)
右ノ處分ニ付裁判所ノ申渡ヲ記スヘシ

年 月 日

右

姓 名 印

松山郵便電信局長 殿

訓第三六八號 (明治二十三年七月二日)

郵市役所 町村役場
警察署 全分署

郵便物表書ニ宛名ノミヲ記シ其所在ノ國郡市町村名ノ肩書ヲナサスシテ相互往復候向有之郵便取扱上警察署又ハ「出張所」等ニ冠スル地名ニ依リ或ハ紛送誤達ヲ生シ到達遲延ヲ來スコト往々有之折角郵便速達ノ方法モ爲メニ其効ヲ奏セサルノミナラス又其書狀發受者ニ於テモ緩急時機ヲ失スルノ虞不勘固ヨリ郵便取扱者ニ於テモ精々注意スヘシト雖モ分秒ノ間數萬ノ郵便物ヲ區分發送スル儀ニ付自然其方位ヲ誤ル等ノコナキモ亦難保ニ依リ郵便差出者ニ於テ豫メ此邊ニ注意シ其表書ニハ必ス宛名所在ノ國郡市町村名ヲ判然肩書ナスヘキ様今般其筋照會有之候條自今一層注意スヘシ官第四二號 (明治二十三年七月四日)

各 部

管内各郡役所市役所町村役場警察署分署「收稅部出張所租稅檢査員派出所」等へ發ス

ル郵便物表書ニ其宛名ノミヲ記シ該所在ノ國郡市町村名ノ肩書ヲナサ、ル向有之郵便取扱上警察署又ハ「出張所」ニ冠スル地名ニ依リ或ハ紛送誤達ヲ生シ到達遲延ヲ來スコト往々有之折角郵便速達ノ方法モ爲メニ其効ヲ奏セサルノミナラス又其書狀發受者ニ於テモ緩急時機ヲ失スルノ虞不少固ヨリ郵便取扱者ニ於テモ精々注意スヘシ

雖モ分秒ノ間ニ數萬ノ郵便物ヲ區分發送スル儀ニ付自然其方位ヲ誤ル等ノナキモ亦難保ニ依リ郵便物差出者ニ於テ豫メ此邊ニ注意シ其表書ニハ必ス宛名所在ノ國郡市町村名ヲ判然肩書ヲ大スヘキ様今般其筋ヨリ照會有之候條自今一層注意スヘシ

訓令第五十五號 (明治二十三年七月三日) 郡市町村

縣廳又ハ郡役所市役所及ヒ町村役場ノ間ニ於テ往復スル公文書類郵送ノ節若シ不足稅ヲ要スル場合ハ交互其受取先ニ於テ之レヲ支辨スヘキ義ト心得ヘシ

官第三九號 (明治廿四年七月三日) 各部署

書狀ノ送達方ハ郵便條例第六十七條特例各項ノ外ハ必ス郵便ニ依ラサルヘカラサルハ勿論ノ儀ニ候處往々所屬小使或ハ受負人夫ノ類ヲ使用シ送付セシムルモノ有之趣ヲ以テ今般遞信大臣ヨリ右等非法ノ送達ヲ爲サ、ル様更ニ内訓ノ次第モ有之候條自今一層注意ス可シ

内訓第六號 (明治二十四年七月三日)

書狀ノ送達方ハ郵便條例第六十七條特例各項ノ外ハ必ス郵便ニ依ラサルヘカラサルハ勿論ノ儀ニ候處往々所屬小使或ハ受負人夫ノ類ヲ使用シ送付セシムルモノ有之趣

ナ以テ今般遞信大臣ヨリ右等非法ノ送達ヲ爲サ、ル様更ニ内訓ノ次第モ有之候條自今一層注意セラルヘシ

- 郡市長宛
- 警察署長宛
- 全分署長宛
- 直稅分署長宛
- 監獄又署長宛

電 信

訓令第四十一號 (明治二十五年六月二十三日) 郡 市

民有地ニ建設セル電信柱異動アル場合ハ每一ヶ月限り左ノ書式ニ依リ調製シ翌月五日迄ニ報告スヘシ

(用紙常用野紙)

民有地建設電信柱異動報告

何年何月分
何郡(市)何村(町)

二十六年訓令第三十七號ヲ以テ書式「中」支柱數「下」支線數「一」欄ヲ設ケ

番 號	本柱數	支柱數	支線數	事 由	郡市町村大字番戶	姓 名
何 號	一	二		新 設	何郡何村(町)大字何々番戶	何 某

各適當ノ方位ヲ光シ候様注意スヘシ
右船主並船乗ノ者ヘ布達候事

丙第四十九號 (明治十七年六月二日)

各 郡

本年第十號布告日本形船舶積量ノ義ハ左ノ圖解ニ照準シテ測度スヘシ
但在來ノ船舶ト雖此際更ニ測度スヘシ

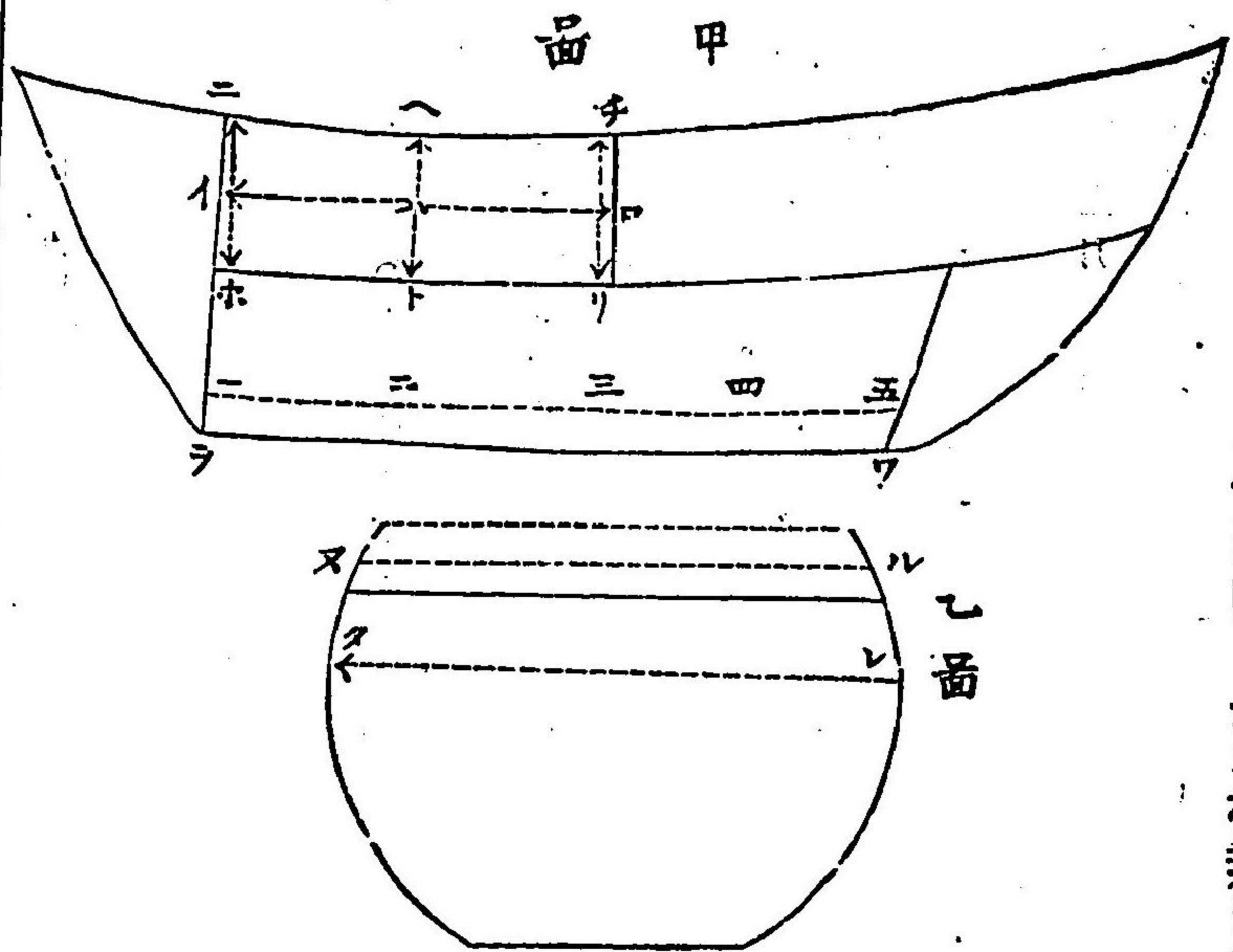
日本形回漕船ノ石數測度

一 船梁上船艙ノ石數ヲ求ムルニハ船首室ノ境界甲圖ノ(イ)ヨリ船尾室ノ境界(ロ)ニ至ル長ヲ測リ此長ノ中央(ハ)及ヒ兩端(イ)(ロ)ニ於テ船舷ノ上端ヨリ船梁ノ上面ニ至ル(ニホ)(ヘト)(チリ)ノ高ヲ測リ其各高ノ中央ニ於テ乙圖ノ(ヌル)ノ如ク幅ヲ測リ其高幅ヲ平均シ而シテ此平均ノ高幅ト長ヲ相乘シ得ル所ノ數ヲ十二テ除スヘシ

二 船梁下船艙ノ石數ヲ求ムルニハ甲圖ノ(チ)ヨリ(ワ)ニ至ル船底ノ長ヲ測リテ之ヲ四個ニ等分スルコト(一)(二)(三)(四)(五)ノ如クシ此各分長点ニ於テ船梁ノ上面ヨリ船底ニ至ル深ヲ測リ其各深ノ中央及ヒ上下ニテ乙圖ノ(タレ)ノ如ク幅(船ノ大小ニ應シ四ヶ所若クハ五ヶ所ニテ幅ヲ測リ之レヲ平均シ)ヲ測リ其深幅ヲ平均シ而シテ此平均ノ深幅ト長ヲ相乘シ得ル所ノ數ヲ十二テ除スヘシ

構造回漕船ニ異ナル船ノ石數測度

回漕船ニ異ナル船ノ石數ヲ求ムルニハ船首ノ内側ヨリ船尾ノ内側ニ至ル船底ノ長



ヲ測リ之ヲ四個ニ等分シ其各分長点ニ於テ船舷ノ上端ヨリ一線ヲ張り之レヨリ船底ニ至ル深ヲ測リ其各深ノ中央及ヒ上下ニ於テ幅(船ノ大小ニ應シ四ヶ所若クハ五ヶ所ニテ幅ヲ測リ之レヲ平均シ)ヲ測リ其深幅ヲ平均シ而シテ此平均ノ深幅ト長ヲ相乘シ得ル所ノ數ヲ十二テ除スヘシ

官訓第一八三號 (明治廿八年四月廿五日)
 外國軍艦寄港之節ハ其國名艦號入津月日時刻及何レヨリ何用ニテ入港何レノ地ニ向ケ出港スル等海軍大臣及吳鎮守府長官ヘハ電報其他ハ郵便ヲ以テ直ニ報告スヘキ旨兼テ訓令及ヒ置候處此節報告漏ノ分モ有之哉ノ趣其筋ヨリ通知有之候條自今篤ク注意ヲ加ヘ且ツ沿海町村役場ヘモ其旨至急示達スヘシ
 告示第百二十八號 (明治廿八年九月一日)

今般水上警察漁船一艘ヲ新造セリ本船ヲ第三愛媛丸ト稱ス
 警訓第三〇八號 (明治廿八年九月一日) 警察部 警察署
 全分署

第二愛媛丸ノ定繫場ヲ宇和島港ニ改メ第三愛媛丸ノ定繫場ヲ三津濱港ト改ム
 明治二十八年九月三十日 警察部 警察署
 警訓第三四八號 全分署

第一條 警察署又ハ警察分署ニ於テハ船燈信號器及救命具取締規則并ニ船燈信號器及救命具試驗檢定及監査手續ニ據リ船燈信號器及救命具ノ監査ヲ行フヘシ

第二條 碇泊船ノ監査ハ各署互ニ通報シ可成全時ニ之ヲ施行スヘシ

第三條 碇泊船ニ於ケル監査ハ船主ノ便宜ニ依リ警察署又ハ警察分署巡査派出所、駐在所ヘ現品ヲ差出シ監査ヲ受ケシムルモ妨ケナシ

第四條 監査ヲ終リタル日ハ十日以内ニ附錄第一號ノ監査報告書ヲ警部長ヘ差出スヘシ
 第五條 監査ヲ行ヒ船燈信號器及救命具ニ關スル犯則ノ處分ヲ爲シタルトキハ警部長ヘ報告スヘシ
 第六條 警察署又ハ警察分署ヘハ附錄第二號ノ簿冊ヲ備ヘ置監査ノ時々記入スヘシ

三十一年警保訓第三五七號ニテ第二條中刪除

種別		製造人	氏名	監査月日	適否	摘	要
從明治	年	月	年	月	船燈信號器救命具製造所販賣所監査報告		
船燈	種別	製造人	氏名	監査月日	適否	摘	要
檣燈	四十噸以上ノ漁船用						
舷燈	四十噸未滿漁船用						
雨色燈	四十噸以上ノ漁船及二十噸以上ノ帆船用						
碇泊燈	四十噸未滿漁船用						
三色燈							
紅燈							
白燈	電信線布設及引揚用						
	刺網漁船用						
	綠網漁船用						
	水先船用						
	船尾標用						
	操舵目標用						
燈籠	白						
	雨色						

信號器	製造人	氏名	要
種別	監查月日	適否	摘
機械製霧中號角			
空中ニ高響及星火ヲ發スル榴彈			
火光			
紅管			
焰管			
救命具	製造人	氏名	要
種別	監查月日	適否	摘
救命浮環			
救命浮帶			

右監查ノ成績報告候也

明治年月日

警部長宛

署

長印

(乙)

從明治 年 月	至明治 年 月	船內備付船燈信號器救命具監查報告
監查月日	監查地名	船名
		噸石數
		本船管轄廳名
		船主氏名
		船燈及隔信號器
		救命具
		要

右監查ノ成績報告候也

明治年月日

警部長宛

署

長印

第一號記載例

- 一 船燈信號器及救命具ノ適否ハ其種別ヲ明ニスヘシ
- 一 船燈信號器及救命具試験檢定及監查手續第十二條第十四條ノ取扱ヲ爲シタルトキハ其事由ヲ摘要ノ欄ニ略記スヘシ

第二號

(甲) 船燈信號器救命具製造所販賣所監查簿

(乙) (樣式ハ成蹟報告云々ノ末文ヲ除クノ外監查報告書ニ全シ)

(樣式ハ成蹟報告云々ノ末文ヲ除クノ外監查報告書ニ全シ)

(樣式ハ成蹟報告云々ノ末文ヲ除クノ外監查報告書ニ全シ)

日本形船々鑑札下付書換等取扱手續 明治廿九年十二月廿五日 郡市

第一條 郡役所市役所ハ第一號書式ノ鑑札臺帳ヲ備置キ船舶ノ件名船鑑札ノ番號及其下付書換再授若クハ返納ノ年月日并ニ事由ヲ記載スヘシ

第二條 郡役所市役所ニ於テ船鑑札規則第二條ニ據リ件名書ヲ受理シタルトキハ其船舶ニ就キ測度ヲ遂ケ之ヲ審査スヘシ

船鑑札ニ記載シタル積量ニ變更ヲ生シ其書換ヲ申請シタルトキハ之ヲ審査シ必要ト認ムル場合ニハ其船舶ニ臨檢スヘシ

第三條 船鑑札規則第五條第二項ニ據リ件名書ノ證明ヲ申請シタルトキハ之ヲ船鑑札臺帳ニ照敷シ誤謬ナシト認ムルトキハ件名書ニ郡(市)役所印ヲ押捺シ之ヲ交付スヘシ

三十年内五訓第二號ニテ第三條中削除追加アリ

第四條 郡役所市役所ハ毎年一月十五日及七月十五日迄ニ第二號書式ニ依リ前六ヶ月間ノ船舶ノ異動ヲ當廳ニ報告スヘシ

第壹號書式

一 船鑑札番號	一 船名 (原名)
一 定繫所	一 橋數
一 積石數	一 製造地名
一 製造年月	一 造船工場氏名
一 所有者住所氏名	

記事 本欄ニハ適宜空野ヲ存シ置船鑑札下付書換再授返納ノ年月日及其事由ヲ記載スヘシ

船舶報告 自明治何年一月(七月)至明治何年六月(十二月)

第一 新ニ船鑑札ヲ下付シタル船舶

船鑑札下付年月	船鑑札下付事由	船名 (原名)	定繫所	橋數	積石數	製造地	製造年月	造船工場氏名	所有者住所氏名

第二 船鑑札ヲ書換下付シタル船舶

計何艘

船名	船鑑札書換年月日	船鑑札書換事由	所有者氏名

第三 船鑑札ヲ返納シタル船舶

計何艘

船名	船鑑札返納年月日	船鑑札返納事由	所有者氏名

備考

- 一 船鑑札下付事由ノ欄内ニハ新造若クハ管轄官廳ノ變更等船鑑札ヲ下付シタル原因ヲ記載シ且管轄官廳ノ變更ニ係ルトキハ舊管轄官廳名ヲ記載スルヲ要ス
- 一 船鑑札書換事由ノ欄内ニハ書換ニ係ル新舊鑑札面ノ事項且所有者ノ變更ニ係ルトキハ新所有者ノ住所氏名ヲ記載スルヲ要ス
- 一 船鑑札ヲ再授スルニ當リ其書換之ニ伴フトキハ第二表ニ編入スヘシ
- 一 船舶ノ製造地名、製造年月若クハ造船工長氏名明ナラサルトキハ其欄内ニ不詳ト記載スヘシ

内一訓第四七三號 (明治廿九年十二月廿八日)

各 山 郡 市

地方稅施行規則ニ依リ交付スル船鑑札及車體ノ檢印烙記其他取扱手續左ノ通り相心得ヘシ

- 一 船鑑札ノ寸法及記載ノ様式ハ船稅規則取扱心得ノ規定ニ準スヘシ
- 一 地方稅ヲ賦課スヘキ船舶ニシテ若シ本年遞信省令第二十五號船鑑札規則第一條ニ依リ鑑札享有スヘキモノアルトキハ重テ交付スルニ及ハス
- 一 船舶ノ新造ニ就キテハ從來ノ慣行モアルヘキヲ以テ其書面ニ檢査願ト云ヒ或ハ鑑札下付願ト云フモ事實ニ支障ナキ限りハ様式ニ拘泥セス之ヲ受理シ便宜處理スヘシ但車輛ニ就キテモ亦同シ
- 一 船舶ヲ新造シ又ハ修繕ヲ加ヘ間數ニ増減ヲ生スルモノハ其檢査ヲ經テ鑑札ヲ交付スヘシ
- 一 檢査ヲ執行スルニハ管内ニ一二便宜ノ港灣ト又時期ヲ定メ其場所ニ廻航セシムヘシ但臨時必要ノ場合ニ於テハ時期ト場所トニ拘ハラズ檢査スヘシ
- 一 車體檢印烙記ノ個所荷積車大七八以上以下ノ別人力車一人乘二人乘ノ區別ハ從前ノ令達ニヨルヘシ
- 一 車類名稱印ハ自今烙記スルニ及ハス
- 一 船鑑札及車體檢査印ハ郡市役所名ノ烙印ヲ用ユヘシ
- 一 船稅臺帳、車稅臺帳ハ此際稅務署備付ノ臺帳ト照査シ其遺漏ナキヲ期スヘシ

明治三十一年縣令第二十九號ニテ二項改正

三十四年縣令第二十五號ニテ本項追加

縣令第一號 (明治三十年一月十四日)

左ノ船舶及車輛ヲ所有スル者ハ使用以前郡長市長ニ届出免稅ノ烙印ヲ受クヘシ但從來受有シタル免稅ノ烙印ハ改ムルニ及ハス

- 一 倉庫船
- 一 耕作一途ニ用キル船
- 一 水災ノ爲メ陸地ニ備ヘ置ク船
- 一 橋梁ニ換ヘ渡場ノミニ用キル船
- 一 船橋組成ニ用キル船
- 一 航海中本船ニ揚ケ置ク傳馬船「バッテリー」ノ類
- 一 耕作一途ニ用キル荷積車
- 一 町村其他公共團體ノ所有ニシテ直接公用ニ供スル船車
- 一 免稅烙印ノ磨滅毀損シタルトキハ郡長市長ニ届出再ヒ烙印ヲ受クヘシ
- 一 免稅ノ船車ヲ所有スル者ハ左ノ場合ニ於テハ郡長市長ニ届出ヘシ其解撤シタルモノハ烙印ヲ切取り届書ニ添ヘ還納スヘシ
- 一 賣買讓與シタルトキ
- 一 轉居代替改氏名シタルトキ
- 一 破壊、解撤シタルトキ
- 一 亡失又ハ其所在ヲ發見シタルトキ
- 一 有稅ノ船車ニ使用セントスルトキ

内一訓第一〇八號 (明治三十年三月十七日)

各 山 市 郡

船車ヲ他府縣ヨリ買受ケ又ハ讓受ケタル旨届出アリタルトキハ左ノ事項ヲ元所屬郡市區役所ヘ通報スヘシ

右訓令ス

一 船車ノ種類

一 賣買讓與ノ年月日及双方ノ住所氏名

訓令第二十八號 (明治三十年三月廿一日)

郡市町村

積石五十石以上ノ日本形船及西洋形船地方稅船稅臺帳ハ舩漁船小廻船臺帳ノ様式ニ

準據シ間數ヲ欄ヲ石數、噸數ト改メ之ヲ調製スヘシ

但船名ハ摘要欄内ニ記載スルモノトス

縣令第六十七號 (明治三十年九月廿二日)

明治二十九年四月法律第六十七號船舶檢査法第五條ニ依リ本縣ノ檢査ヲ受クヘキ船舶ノ檢査施行地左ノ通之ヲ定ム

温泉郡高濱港

同 郡三津港

水上警察漁船掃除規則

明治三十年十二月十三日 警々訓第四二二號

三津今治 宇和嶋 警察署

第一條 水上警察漁船乘組船員ハ本規則ニ依リ其漁船ニ係ル掃除ヲナスヘシ

第二條 掃除ヲ分テ左ノ三種トス

- 一 定期掃除
 - 一 臨時掃除
 - 一 毎日掃除
- 第三條 定期掃除ハ毎月十五日及三十日ノ兩度ニ之ヲ行フモノトス但當日差支ヲ生シタルトキハ順次操下トス
- 第四條 臨時掃除ハ每航行歸港ノ際并ニ所屬警察署長ニ於テ特ニ指揮シタルトキ之ヲ行フモノトス
- 但警察署長ニ於テ一部分掃除ヲ特ニ命スルコトヲ得
- 第五條 毎日掃除ハ朝夕之ヲ行フモノトス
- 第六條 定期掃除ハ左ノ各項ニ依ル
- 一 海潮ヲ以テ船体并ニ船内各部ヲ洗滌スヘシ
 - 一 船体附着ノ金具類ニ手入ヲナスヘシ
 - 一 瀛罐内外ノ掃除ヲナスヘシ
 - 一 諸器械重要ノ箇所ヲ取外シ手入ヲナスヘシ
 - 一 豫備品及諸物品ノ手入ヲナスヘシ
 - 一 室内各部ヲ清潔ニ掃除スヘシ
 - 一 船体其他附屬品ノペンキ塗破損ノ箇所ニ修繕ヲ加フヘシ
- 第七條 臨時掃除ハ左ノ各項ニ依ル

- 一 海潮ヲ以テ船内各部ヲ洗滌スヘシ
 - 一 諸器械ノ手入ヲナスヘシ
 - 一 室内各部ヲ清潔ニ掃除スヘシ
 - 一 檣ノ煤煙ヲ清潔ニ取除クヘシ
- 第八條 毎日掃除ハ左ノ各項ニ依ル
- 一 室内各部ヲ清潔ニ掃除スヘシ
 - 一 甲板上ヲ清潔ニ掃除スヘシ
- 第九條 定期及臨時掃除結了シタルトキハ乘組巡查ハ下検査ヲ施行シ之ヲ警察署長ニ申告シテ検査ヲ受クヘシ
- 第十條 毎月十日及二十五日以后ニ於テ臨時掃除ヲナシタルトキハ警察署長検査ノ上上期掃除ハ之ヲ施行セサルコトヲ得
- 警察訓第二七五號 (明治三十二年七月二十一日)
- 警察署分署長
- 改訂條約實施後ト雖モ帝國領海内ニ於ケル外國軍艦ニ對スル法律上ノ關係ハ從來ト毫モ變更スル所ナキヲ以テ開港以外ノ地点ニ寄港セントスル外國軍艦ハ從來ノ通り其都度豫メ帝國政府ノ承認ヲ得ルコトヲ要スル義ト心得ヘシ
- 官訓第二八九號 (明治三十二年七月二十六日)
- 各郡^{上浮穴郡}掃除^ヲ
- 改訂條約實施後ト雖モ帝國領海内ニ於ケル外國軍艦ニ對スル法律上ノ關係ハ從來ト毫モ變更スル所ナキヲ以テ開港以外ノ地点ニ寄港セントスル外國軍艦ハ從來ノ通り

其都度豫メ帝國政府ノ承認ヲ得ルコトヲ要スル儀ニ有之旨海軍大臣ヨリ達相成候條
此旨心得ヘシ

警々訓第九七號 (明治三十三年三月二十八日)

全警 分察 署

本年四月ヨリ第三愛媛丸ノ定繫場ヲ越智郡波止濱港トス

警々訓第一二五號 (明治三十三年四月十二日)

全警 分察 署

第一愛媛丸ノ定繫場ヲ温泉郡三津濱港トス

告示第五百五十二號 (明治三十三年五月廿二日)

從來使用ノ水上警察漁船第一愛媛丸ヲ自今小富士丸ト改稱ス

難破船及漂流物

丙第十二號 (明治十八年三月二日)

各 郡

從來溺死人漂着出候節往々人相書添付無之候處右ハ告示上必要ニ付以後右届出之節
ハ該人相及着衣所持品等明記之上可差出

訓令第十號 (明治二十六年三月九日)

郡役所 市役所
町村役場

難破船及ヒ漂流物ニ關スル報告ノ件自今左記ノ通取扱フヘシ

但本令ニ牴觸スル從前ノ達及ヒ訓令ハ總テ廢止ス

一 沿海ニ於テ難破船アルトキハ内外國船艦ヲ論セス西洋形ハ端船ヲ除キ日本形ハ
漁舟艇船及ヒ積石五十石未満ヲ除キ甲號様式ニ據リ其時々町村ヨリ直ニ縣廳ヘ報
告スヘシ

二十七號(第一第二項及
乙號(第一第二項及
三號(第一第二項及
三號(第一第二項及
十號(第一第二項及
中改正
三號(第一第二項及
百五十七號全令第三
省令第七十五號全信
訓令第六號ニテ第
減二項及丙號様式消

(甲號) 難破船届

本籍(外國船ナレハ何國)

持主 氏 名

船長 氏 名

外何人乘

西洋形帆船又ハ蒸氣船

定繫場

軍艦又ハ商船 何號

内車又ハ外車

木製又ハ鐵船 長

幅

檣數 噸數

馬力

出帆ノ時 何年月日時

出帆ノ地 何所

遭難ノ時 何年月日時

遭難ノ地 何所航海中又ハ何所碇泊中

難破ノ因由 難風ノ爲メ又ハ暗礁ニ觸ル等

難破ノ景狀 皆破沈没又ハ船體器械ノ破損
修繕ニ堪エヘキヤ否

乘組人及ヒ船客ノ死傷 重傷何人輕傷何人
死亡何人

積荷ノ損否 水濡流失沈没ノ品名數量

本 籍

二十七年告示第五
號ヲ以テ「行衛不
分明又ハ」ヲ削リ
「甲乙」ヲ左記ニ
改メ甲號様式ヲ削
ル

日本形商船何丸 何反帆 定繫場
石數

持主氏 名
船頭氏 名

外何人乘

告示第三十一號 (明治二十六年三月十四日)

本縣在籍ノ船舶ニシテ海外ニ於テ難破ニ罹リタルトキハ其船主ハ左記ノ様式ニ依リ
船籍所在ノ市町村長ニ届出ヘシ

本籍

船主氏 名
船長氏 名

外何人乘

一 船ノ種類 日本形船、西洋形風帆船又ハ蒸氣船

一 船名 何丸

一 船ノ構造 日本形ハ何反帆何石積西洋形ハ木製鐵製長幅橋敷噸數馬力

一 出帆年月日出帆地名 何年何月何日何處出帆

一 遭難年月日及遭難地名 何年何月何日何處航海中又ハ碇泊中

一 難破ノ原因 難風ノ爲メ又ハ暗礁ニ觸ル等

難破ノ景况

皆破沈没又ハ船体機械ノ破損修繕ニ堪ユルヤ否

一 溺死人ノ本籍氏名人相着衣 (但死体ノ所在不分明ノモノニ限ル)

一 流失又ハ沈没等ニ係ル積荷及船具 何品何石又ハ何個等

訓第六九號 (明治二十六年三月十四日)

市役所
町村役場

本年三月十四日日本縣告示第三十一號ニ依リ届書ヲ受理シタルトキハ直ニ之ヲ知事ニ
報告スヘシ

警保訓第三五〇號 (明治三十一年九月廿一日)

警察署

明治廿六年四月十日訓第一三〇號海難電報ノ件ハ左ノ通改定ス

船舶海難ニ罹リタル場合ハ左記様式ニ依リ其概況ヲ警部長ニ報告スヘシ

但シ海技免狀受有者ノ乗組船舶ナルトキハ衝突乗揚等ノ原因ニ依リ沈没若クハ
破壊シ又ハ乗客若クハ乗組員死傷シタル場合ニ在テハ先ツ沈没破壊ノ原因、日
時、場所、船名、死傷者、員數等即時電報ヲ要ス

明治	年	月	日	警察署
第	號			
船名及噸石數				
所有主住所氏名				

難 船 申 報

船長住所氏名 海技免狀ノ種類	發航年月日地名 航海ノ目的到達地名	遭難年月日時及場所	遭難ノ原因及前後ノ狀況	沈沒破壞又ハ損傷ノ箇所	船客及乗組員ノ死傷	漂流物

救護ノ狀況
備考

記載例

- 一 本表中海難取調ヲ終ヘサレハ判明セサル廉ヲ除ク外ハ即時ニ記入報告スルヲ要ス
 - 一 船客及乗員ノ死傷ハ其住所氏名ヲ記シ所在判明セサルモノハ人相着衣等ヲ記入スヘシ多數ノ場合ハ別紙ニ認メ添付スルヲ要ス
 - 一 漂流物欄ハ種類員數特徵等ヲ詳記スヘシ
 - 一 備考欄ハ捜査方通知海難調書送付及廿四年一月本縣訓令第三號ニ依リ電報セシ等ノ別ヲ記入スルヲ要ス
- 訓令第三十九號 (明治三十三年五月二十六日)
- 郡市町村
- 明治三十二年法律第九十五號水難救護法第二十八條第三項第三十條第二項ノ場合ニ於テ國庫ノ取得トナルヘキ殘餘金額ヲ生シタルトキ取扱方左ノ通心得ヘシ
- 一 市町村長ハ別記書式ノ明細書ヲ製シ是ニ現金ヲ添ヘ處分ヲ終リタル日ヨリ五日以内ニ市長ハ知事ヘ町村長ハ郡長ヘ引繼クヘシ

一 前項引繼ヲ受ケタル郡長ハ明治三十三年四月内五訓第三百三十四號諸收入收納取扱手續ニ據リ取扱フヘシ

漂流物(沈没品)公賣代國庫取得金引繼明細書

一金 何程 明治何年何月何日公賣

内

金 何程 何品 何個

金 何程

一金 何程 諸 費

内

金 何程 公 告 料

、 、 、 保 管 料

、 、 、 公 賣 諸 費

、 、 、 何

差 引 殘

金 何程 國庫取得金

右及引繼候也

年 月 日

市町村 長印

宛

車 馬

十七年甲第六十八號ニヨリ人力車ノ取消滅

乾第六十六號車(明治七年六月十七日)

近來荷車及人力車渡世ノ者追々他人數ニ相成候處中ニハ心得違ニテ田畑ノ畔路ヲ引行路筋小橋ヲ壞損スルノミナラス牛馬等ト行合田畑ヲ踏荒シ候哉ニ相聞以ノ外ノ事ニ候自今牛馬ノ行違イ相整ヒ難キ道路ハ車引込堅ク致問敷且又市中人民輻湊ノ地ハ車ヲ驅セ候儀禁止ノ旨兼テ相達置候處此頃等閑ニ相成既ニ過日湯月町ニ於テ小兒ヲ軋リ折傷ニ及候段全ク市中ニ於テ馳驅致候ヨリ右様ノ始末ニ立至リ候條自今市中へ引込候ハ、別テ心ヲ添ヘ聊モ粗麁無之様可相心得此段車曳渡世ノ者へ布達候事

牛馬車取締規則 明治三十三年一月廿七日 縣令第十一號

第一條 本則ニ於テ牛馬車ト稱スルハ公共ノ道路ニ於テ牛又ハ馬ヲ以テ輓カシムル荷車ヲ云フ

第二條 牛馬車ノ所有者ハ其ノ住所氏名ヲ車臺見易キ箇所ニ明記スヘシ

第三條 車輪ノ齒巾ハ左記ノ寸法ヨリ狭少ナルコトヲ得ス但輪齒ハ地摺リナ平面トナシ圓形又ハ尖狀等異様ノモノトナスコトヲ得ス

牛車

壹頭立

貳輪車

四輪車

貳頭立

貳輪車

四輪車

馬車

壹頭立

貳輪車

四輪車

貳頭立

貳輪車

四輪車

第四條 車輛ヲ連繫若クハ駢列シ又ハ牛馬三頭立以上ヲ使用シ或ハ木枕裸車其他ノ方法ヲ以テ物件ヲ輓カシメントスルトキハ其事由ヲ具シ所轄警察官署ニ届出認可ヲ請クヘシ

第五條 載量過重ノ爲メ道路ヲ毀損シ若ハ其ノ虞アリト認メタルトキハ積荷ヲ減少

五寸

參寸

八寸

四寸五步

參寸

貳寸

五寸

參寸

セシメ又ハ通車ヲ停止スルコトアルヘシ

第六條 狂躁ノ癖アル牛馬ヲ使役スヘカラス

第七條 第二條第三條第四條及第六條ニ違背シ又ハ第五條ノ命ニ従ハサル者ハ壹圓五拾錢以下ノ科料ニ處ス

第八條 從來使用ノ車輛ハ明治三十三年二月二十八日迄使用スルコトヲ得

道路及橋梁

第一百六十號 (明治六年十二月廿四日)

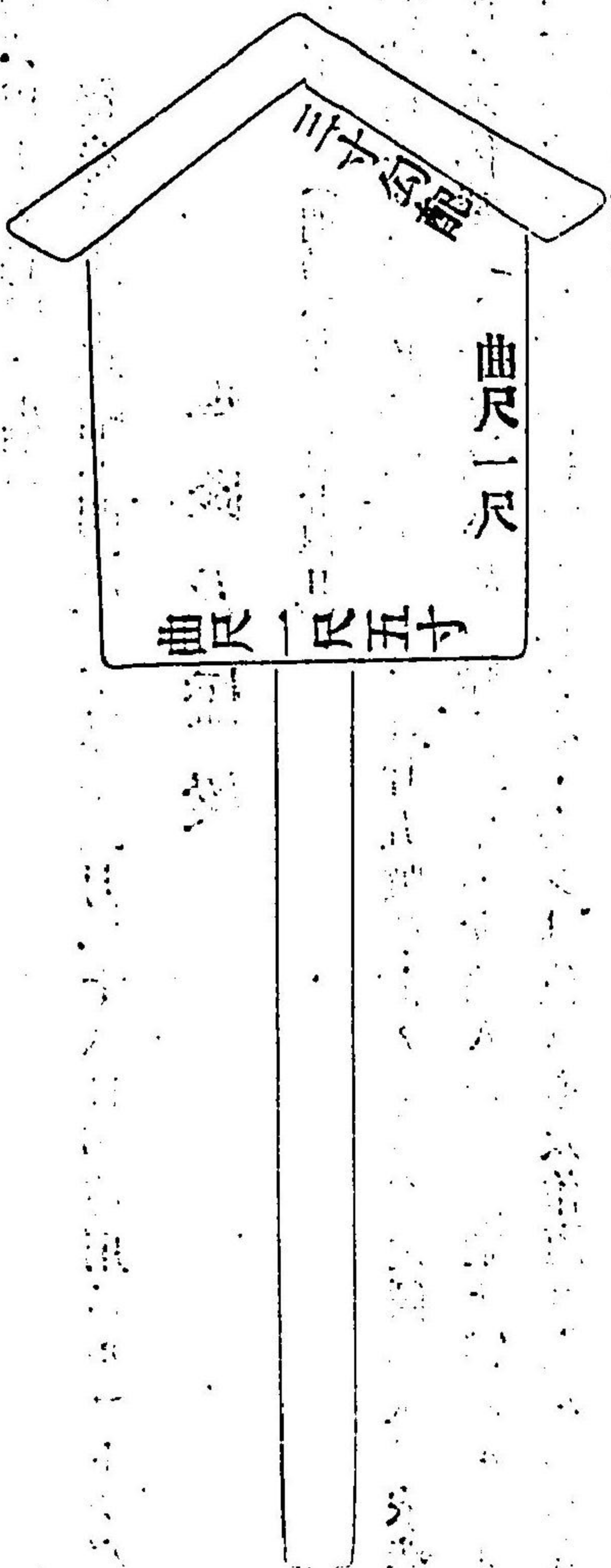
道路修繕掃除ノ儀ハ昨壬申十月第三百廿五號公布ノ通ニ有之候處未タ依然トシテ不潔ヲ極メ不体裁ノミナラス人馬行路ノ難キハ勿論人身ノ健康ヲ害スルカ如キ其不利擧テ云フヘカラス依テ各持場ハ且暮心ヲ盡シ其他官道及作道ニ至ル迄適宜方法ヲ設ケ修繕掃除ニ注意可致事

乾第五十六號 (明治七年五月二十五日)

諸道路並脇往還並木ノ儀ハ風雨寒暑ノ節行客ヲ防護スルヲ以猥リニ伐木不相成儀ハ兼テ嚴重公布ノ義モ有之候所間々開作或ハ田畑ノ障害等ニ托シ伐取或ハ腹打ト唱ヘ其幹ヲ薰燒スルヨリ往々枯死シテ是カ爲メ行人ノ難義不少候間自今「區戸長」ニ於テ屹度取締相立事實田畑ノ障碍有之下枝伐透シ或ハ立枯根倒等ノ損木有之候節ハ伺ノ上處分可申付候間萬一猥リニ伐木腹打等ノ所業致候者有之候ハ、直ニ取押其旨可申出

坤第五百五十號 (明治九年十二月二十七日) 各區々戶長

道路ノ儀ニ付テハ明治五年太政官第三百二十五號御達ノ趣モ有之各村受持丁場毎掃除及修繕ヲ加ヘ且並木ノ儀ハ同七年內務省乙第五十二號達ノ趣モ有之風雨寒暑ノ節行客ヲ防護候ニ付人民相互ニ是ヲ培養シ「區戶長」於テモ不取締無之様篤ク注意可致筈ニ付向後於人民栽植ノ並木禁伐並道路橋梁修築ノ節諸車留或ハ並木ヲ折取ルヘカラサル等ノ制札建設致度旨顯出指令濟ノ分ハ左雛形ノ通製造シ各「區々長」於テ揭示可致



揭示文

道路修繕中 荷車或通行差留候事

年 號 月 日

愛 媛 縣

此道筋植付ノ並木ヲ伐採又ハ折取マシキ事

年 號 月 日

愛 媛 縣

甲第三十六號 (明治十四年二月二十二日)

道路ノ事タル行旅及物品運輸ヲ始メ其關係スル處大ニシテ尤モ善良ヲ要スヘキ處時夏節ニ際シ田地養水ヲ引カン爲メ在來溝渠ノ外全ク一時路上ヲ穿通シ夫レカ爲メ道路崩壞人馬通行等大ニ困難ノ趣相聞右ハ引水ニ當リ他ニ水路ナク止事ヲ得ス從來ヨリ路上疏通致來候分ハ相應樋管ノ類ヲ据付其上部ハ假橋等ヲ設ケ其水ヲシテ路中ニ溢流セス運輸通行上差問無之様可致

但是迄慣行ナク新規設置ノモノハ出願許可ヲ得ヘキ事

路傍厠園取締規則

明治十六年二月二十日
甲第二十五號

第一條 公衆ノ便ニ供スル爲メ路傍ニ厠園ヲ設置セントスルトキハ其位置及構造ヲ詳記シタル圖面ヲ相添ヘ衛生組長連署ノ上所轄警察署又ハ警察分署ニ願出許可ヲ受クヘシ

第二條 厠園ヲ設置スルハ井泉ヲ距ル少ナクモ三間以外可成往來稀粗ノ箇所ヲ擇ムヘシ

但不得止トキハ三間以内ト雖モ許可スルコトアルヘシ

第三條 厠園ノ構造ハ左ノ方法ニ從フヘシ

第一項 糞尿池ハ成ルヘク陶製ヲ用ヒ又ハ漆喰土ヲ以テ構造スルモ不苦若シ止ム

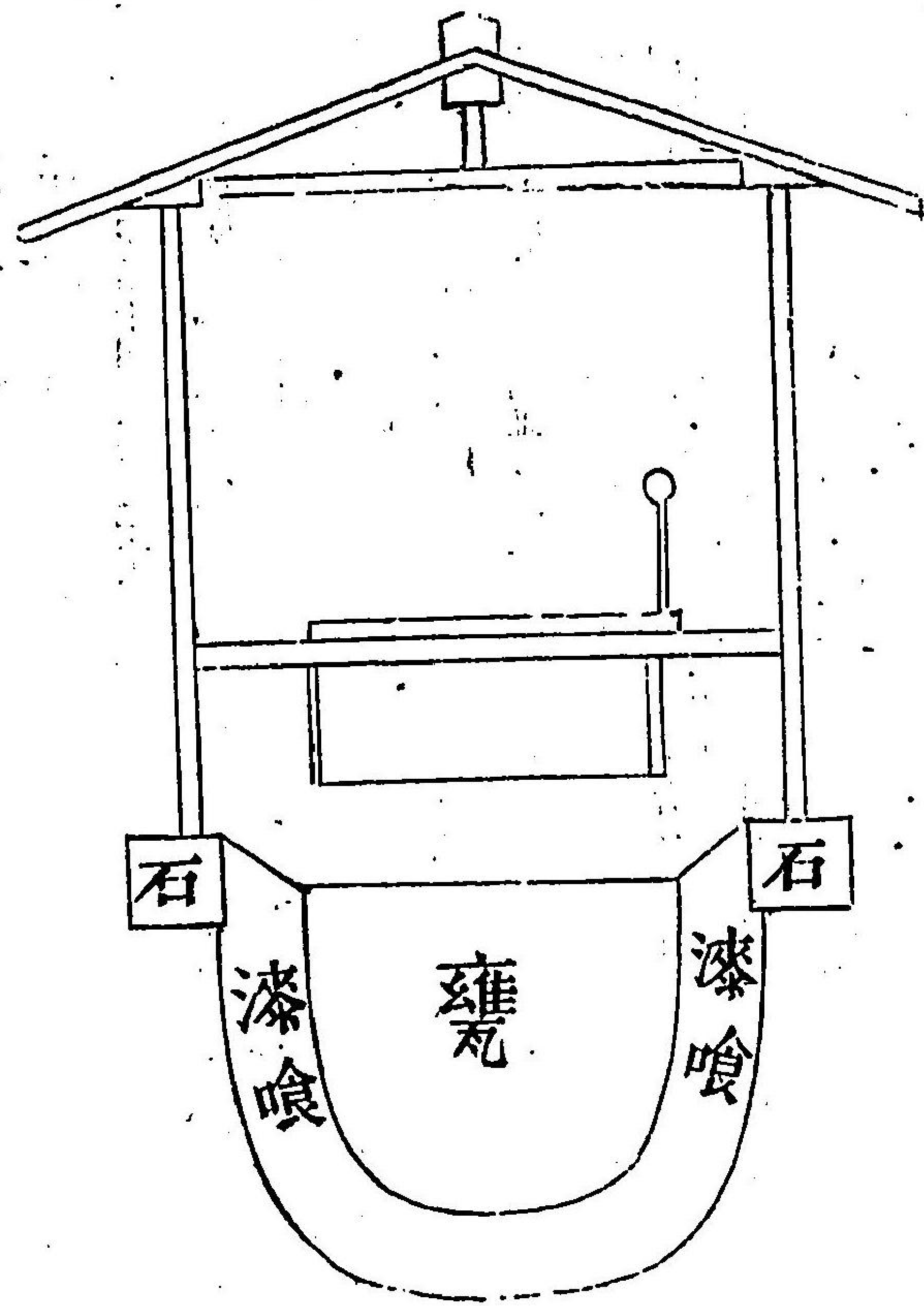
三十一年縣令第五十三號ヲ以第一條改正

ヲ得スシテ他ノ器物ヲ用フルトキハ不栲堅牢ノ物質ヲ撰ミ粗製脆弱ノモノヲ用ユヘカラス

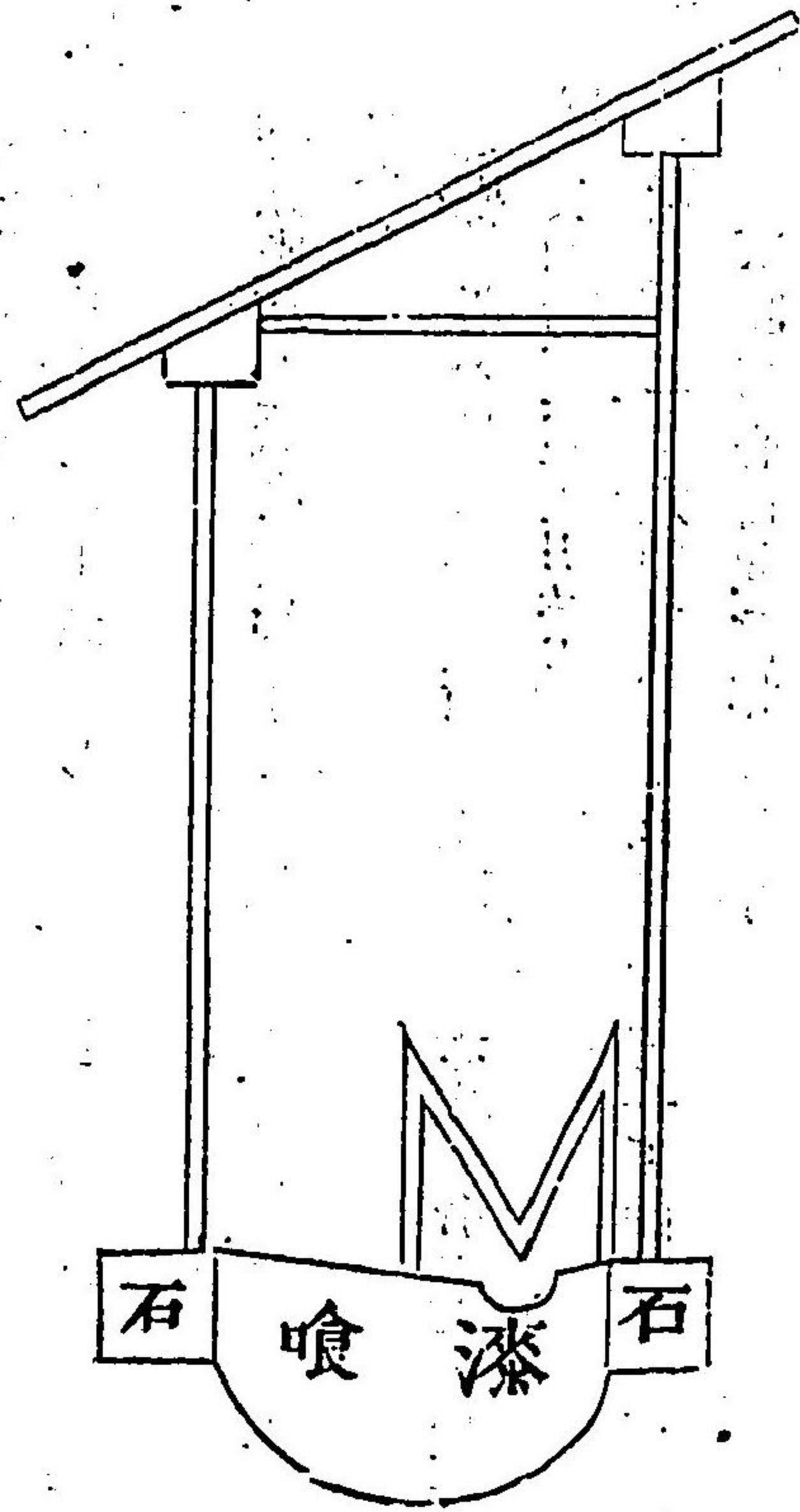
第二項 糞尿池ノ周圍ハ遍ク漆喰土又ハ粘土ヲ填塞シ汚液ノ滲透ヲ防クヘシ

第三項 廁圍ノ建設周圍ノ裝置ハ概略左ノ如シ

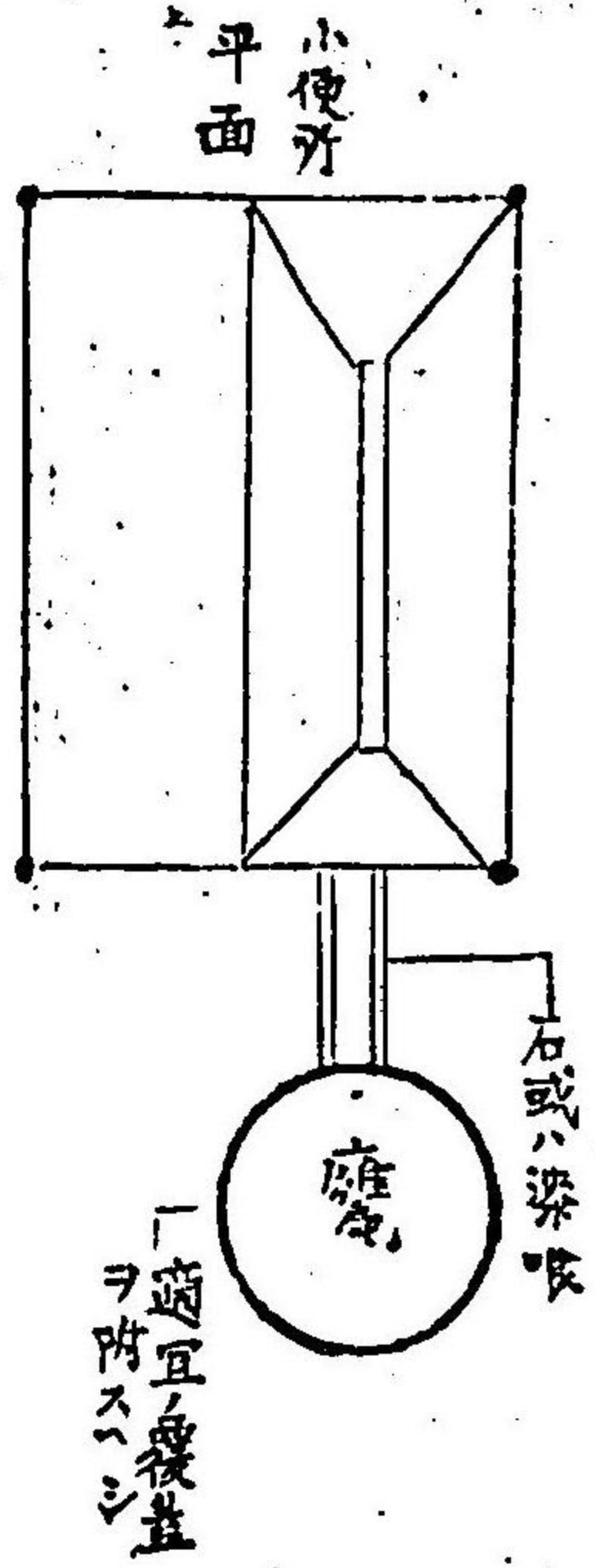
大便所側面



小便所側面



小便所
平面



第四條 廁圍ハ屢々之ヲ汲取リ漏溢ノ患ヲ防キ且其周圍ヲ掃除シ不潔ナカラシムヘシ

第五條 受持人ニ於テ前條ノ掃除汲取人又ハ修繕ヲ怠リタルトキハ警察署又ハ巡行